「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」

2022 年 3 月 10 日

WCRP 平和大学講座

岩村義雄

主題聖句: ローマ 13 章 1 節 「人は皆，上に立つ権力に従うべきです。神によらない権力はなく，今ある権力はすべて神によって立てられたものだからです。」(『聖書協会共同訳』)

＜序＞

今年の干支(えと)は寅である。「寅」は動物のトラ(「虎」tiger)ではない[1]。Ana Filipa Palmeirim と Luke Gibson は[2]，データベース，既発表論文，報告書を使って，トラが生息する国々（インド，インドネシアなど）とジャガーが生息する国々（ブラジル，ボリビアなど）における既存の水力発電ダムと計画中の水力発電ダムを分析した。トラが絶滅寸前と，科学誌に掲載した。中国・南方科学大学などの研究者の論考である。ダム建設による被害を論及している[3]。トラとジャガーの生息地を横切っている既存のダム 585 か所と計画中のダム 470 か所が特定された。そして，現在の水力発電ダムの貯水池を作るために，トラの生息地 1 万 3750 平方キロメートルとジャガーの生息地 2 万 5397 平方キロメートルが浸水していたことが明らかになった。人間の技術が自然界の脅威になっている証明であろう。

2018 年 9 月 6 日，わたしは中東のシリアに孤児の家を建設する帰途，レバノンのベイルートで，北海道の厚真(あつま)地震のニュースを知った。帰国の日曜日，すぐに新千歳空港へ向かった。損壊した「萱野茂二風谷(かやの　に ぶたに)アイヌ資料館」を訪問。萱野志朗館長ご夫妻から二風谷ダム建設に関する説明を聞いた。裁判で，「土地収用裁決は違法」となったにもかかわらず，1997 年にダムは税金 700 億円以上をかけて完成した[4]。二風谷ダムは，アイヌの主要な食物であるサクラマスを切断した。なぜなら沙流(さる)川を遡上し，産卵する水生生物の生態系を人間の経済発展のために犠牲にしたからである。ダムが建設されれば，サケ，マス，アユなどの生命だけではない。トラなど陸生生物，鳥，昆虫なども絶滅するだろう。ダムは川の仕組みと自然界の循環 「すべての川は海に注ぐが 海は満ちることがない。どの川も行くべき所へ向かい　絶えることなく流れゆく」，という生態系の営みを暴力的に破壊している(コヘレト 1:7)。

激甚の厚真地区もさながら中東の空爆跡のようだった。北海道胆振東部地震厚真川地区[厚真町・安平町(あびらちょう)・むかわ町]の被害は厚真ダムが原因だと認めないのはどうしてだろうか[5]。国家，地方自治において権威(エクスーシア)ある人々に委ねておけばなんとかなるのだろうか。抑圧されている民の平安，いのち，し

---

[1]『日本語の大疑問』(国立国語研究所編 幻冬舎新書 2021 年 158-160 頁)。中国の史書『漢書』(かんじょ)は，中国の王朝前漢[ぜんかん 紀元前 206-西暦 8]の記録。漢書で，「寅」＝「蟠(みみず)」(中国語　yín いん《「動く」の意》)。

[2] 2021 年 12 月 19 日発行の科学誌『コミュニケーションズ・バイオロジー』*Communications Biology* Impacts of hydropower on the habitat of jaguars and tigers Dec.19, 2021。

[3] 研究結果は，トラの生息地にあるダムの影響で，トラの推定生息数の 5 頭に 1 頭に相当する 729 頭がいなくなっている。絶滅寸前である。調査によると，41 箇所もの新ダム建設がトラの生息域を奪っている。拙稿季刊誌『支縁』No.38(2022 年 2 月 6 頁)。

[4] 拙論「技術至上主義は自然災害をもたらす― 第 1 次北海道地震ボランティア ―」(2018 年 9 月 9-12 日)。「私はこのダムが出来れば，沙流川(さるがわ)[アイヌ語サラ《葭(よし)原》に由来]にサケをよみがえらせたいとの永遠の夢，永遠の願いは完全に閉ざされると思っています。二風谷にはサケは一匹も上がってこなくなるでしょう。……日本の政府は，なんべんアイヌから土地を取り上げればよいのか」，と父萱野茂[1926-2006]氏は訴えていた。

[5] 拙論「第 2 次北海道地震ボランティア」(2018 年 11 月 4 日-10 日)。「厚真町の長さ 1 キロ×500 メートルの深層崩壊は吉野地区，桜丘地区だけではありません。県道 235 号線は厚真川沿いにあり，遡ると厚真ダムがあります。そこは現在厳重な立ち入り禁止です。……9 月 6 日にダムの放流，決壊の有無，増水について確認しようがありません。手前に厚幌(あっぽろ)ダムが建設中です。治水ダムの目的は日本最大の工業地帯苫小牧東地区への工業用水供給が最大の理由です」。『キリスト新聞』(2018 年 10 月 1 日付) http://www.kirishin.com/2018/10/01/18948/。

あわせの祈祷，題目を唱えるだけの宗教ならば存在意義はないだろうに。災害，犯罪，人間の手によって噴出している生態の破壊，廃棄できない原子炉，金銭の飽くなきぶんどり合戦で地球は覆われている。気候変動，某国の細菌兵器開発，テロはだれが責任をとるのか。袋小路，壁，抜け出られないトンネルで右往左往している世界，社会，制度に付いていこうと，行政の下部組織の活動に一喜一憂していてよいのか。礼拝堂，寺社仏閣，宗教施設などの安泰，聖職者の生活保障さえできれば満足している惰眠にふける化石宗教でいいのか。政府からの助成金欲しさのために，自己喪失，主体性の欠如，周囲のめまぐるしい変化に取り残されないためのなりふりかまわない宗教教育機関。ならば，世の権威者が希求する「無宗教」の時代に符合するだろうに。優等生の宗教の門をだれがくぐって，救いを求めるか。

コロナウイルス後の社会に，貧者が生きやすい潮流を起こすのは，宗教か無宗教かを考察したい。

今日は，重心の低い知のわたしも明解な解答はないが，宗教の境界線を越えて，霊性をもって人類の「悪」にどのように対話していけばいいのか，ご一緒に黙想，熟考，実践したい。共に糸口について合掌。

目次

⑴　歴史についての反省と検討

a. 世の支配者　官僚機構　3

権威者ニムロドの登場　4

ヒエラルキーの源流　言語統一，包摂，技術至上主義　5

「自然法爾」　6

ロシア・ウクライナ戦争　7

b. 権威(エクスーシア)の監視を放棄したメディア，日本の市民社会が劣化している　8

日本のメディアの虚偽　8

パンデミック防止に失敗　9

マスコミというツールはコモン(共有財)であれ　11

c. 立身出世主義観が「自助・共助・公助」精神を醸成　12

立身出世主義　14

「自助・共助・公助」　14

無知で愚かな議論の失敗談　16

共生　17

時間に制約されない旅　18

⑵ 普遍的価値　道徳的課題

a. 道徳は国家以上の価値　19

謝罪と責任　20

懺悔　21

妙好人　23

b. レビヤタンの陰謀に歯向かう　25

ホルミシス　25

内なる人の繰り返す良心のまひ　28

御用学者に挑んだ良識ある樫の木　29

c. 非宗教家の悪―創造的復興，内部被ばく，ダム，原発の再稼働，コロナ禍のウソ　31

⑶ 世界　一　家族の縁

a. 知恵に頼らず，霊性による　33

ロゴス論　34

神学者にもなれず途中で脱落　38

基層宗教　40

b. 多元から無宗教へ脱皮　46

c. 霊性は単なる静的概念ではなく，はたらきである　42

(1) 歴史についての反省と検討　観察者としての魂　政治的課題

a. 世の支配者　官僚機構

主題聖句のローマの信徒への手紙 13 章 1 節を読むと，宗教者であっても「上位の」[6]権威には服従すると書かれている。ヨーロッパで宗教帝国による圧政に民は辟易としていた。自浄作用がなかった。権力[7]と結びついたキリスト教会と，世俗の皇帝政治による二者間の統治論争が続いた。ボニファティウス 8 世ローマ教皇[在位 1294-1303]は 1302 年，聖俗両権に関する大勅書を発布した[8]。「主よ，剣なら，ここに二振りあります」(ルカ 22:38)を曲解。西方教会は二権論「この世は聖俗二つの権力によって統治されている」と解釈した。世俗権力が教会政治に口をはさめなくした。歴史上，絶え間なく教会と国家が対立してきた際，せめぎ合いがあった。喉に刺さった骨のように相互に譲歩しない聖書の言葉であった。

Πᾶσα ψυχὴ ἐξουσίαις ὑπερεχούσαις ὑποτασσέσθω. οὐ γὰρ ἔστιν ἐξουσία εἰ μὴ ὑπὸ θεοῦ, αἱ δὲ οὖσαι ὑπὸ θεοῦ τεταγμέναι εἰσίν (ローマ　13 章 1 節 ギリシャ語)。・

パサ プスケィ エクスーシアイス ウペレクーサイス ウポタッセッソゥ ウー ガル エスティン エクスーシア エイ メィ ウポ セウー アイ デ ウーサイ ウポ セウー テタグメナイ エイシン

「権威」(ギリシャ語**ἐξουσία** エクスーシア *exousia*，ヘブライ語 שַׁלִּיט シャッリート shalliyt＜エクスーシアある者の意＞)のある者に服従するように人類は従わざるを得なかった歴史がある。「太陽の下に不幸があるのを私は見た。それは権力ある者が引き起こす過ちで」(コヘレト 10:5)。

宗教改革者の雄であるマルティン・ルター[1483-1546]は，次のように説き勧めた。

「要綱は火の如くである。剣の職務はそれ自体として正しく，聖パウロがロマ書第十三章〔二節〕に言う如く，有益な神の定めであり，神は人々がそれを侮蔑せずして，畏怖し，尊敬し，遵奉悖(じゅんぼうもと)せんことを求め給い，之に悖る者は罰せられずに済まない。けだし神は人間の間に二種類の統治を設け給うた。その一つは剣なしの言葉による霊的な統治であり，之によって人々は敬虔な義(ただ)しい者となり，またその義によって彼等は永遠の生命を獲得する。そして神はこの義を彼が説教者たちに委託し給うたかの言葉によって作り出し給うのである。いま一つは剣による現世的な統治であって，これはかの，言葉によって敬虔な義しい者となって永遠の生命を得ることを欲しない者どもを，なおこの現世的統治によって強圧し，世間の前に敬虔な義しい者とするためのものである。そして神はこの義によって作り出し給う。神はこの義に永遠の生命を以って報いようとは欲し給わないけれども，なお人々の間に平和を維持するために之を求め，之に現世の財貨を以って報い給う。[9]」

「敬虔な義しい者となって永遠の生命を得ることを欲しない者どもを，なおこの現世的統治によって強圧し，世間の前に敬虔な義しい者とするためのものである」。敬虔でない者たちを権力によって，「強圧」することによって，平和を維持するために，俗のエクスーシアを軽んじないようにとルターは戒めている。

内村鑑三[1861-1930]の弟子であった塚本虎二[10]によるローマ 13 章 1 節はラディカルな敷衍訳である。

「人は皆上に立つ(国家の)官憲に服従せねばならない。神からではない官憲はなく，現存の官憲は(ことごとく)神から任命されたものであるから。2 節 従って官憲に反抗する者は，神の命令に違反する者である。違反する者は，自分で自分に(神の)裁きを招くであろう。(この世で罰を受けるばかりでなく，最後の日に

---

[6]「上に立つ」**ὑπερέχω**（＜ὑπέρ, 越えて, ἔχω, 状態にある）には次の意味がある。①優越する，主権を持っている；τὸ ὑπερέχον, この上ない尊さ，フィリ 3:8. ②～よりすぐれる，まさる。『新約聖書ギリシャ語小辞典』(織田昭 大阪聖書学院 1976 年)。

[7] エクスーシアを「権力」と訳すのは，「権力はいたずらに剣を帯びているわけではなく」，とあるように，警察・軍隊をもっている場合(ローマ 13:4)。

[8] ボニファティウス[8 世]最初に聖年を定めてローマ巡礼を行わせた教皇。

[9]『現世の主権について』(マルティン・ルター 吉村善夫訳 岩波文庫 1977 年 97 頁)。

[10] 塚本虎二[1885-1973] 大正-昭和時代の聖書学者。東京帝大在学中から内村鑑三に師事。弟子に「原始福音・キリストの幕屋」創立者手島郁郎。

も。） 3節 役人が恐ろしいのは，善いことをする者でなく，悪いことをする者である。（だから）あなたは官憲を恐れたくなければ，善いことをせよ。そうすれば官憲から誉められる。[11]」『塚本訳』

全体主義，ファシズム，ジェノサイド[集団殺害]をするエクスーシアに対しても，絶対服従すべきなのだろうか。「解放の神学[12]」の聖書翻訳者本田哲郎[13]訳も確認してみたい。

「人はみな，すぐれた権威には従うべきです。じつに，神の下にあるのでなければ，それは権威ではありません。神の下にあってこそ，権威として命令を出せるものだからです。そういうことですから，

2節 権威に逆らう者は，神が命じることに背いたことになり，背く者は自分の身に裁きを招くことになるのです。3節 あなたたちが人に親身に関わっているかぎり，指導者たちは恐ろしい存在ではありません。ただ，あなたたちが人に不当な仕打ちをしているのなら，別です。あなたたちは権威を恐れずに暮らしたいと願っています。それなら，人に親身に関わりなさい。そうすれば権威からの評価をいただけます。

また，『今ある権威」と訳されている hai ousai（存在するもの）は，つづく hypo theon と合わせて“神の下に存在するもの”と理解すべきです。ousai はいわゆる“Be 動詞”活用形で，第一の文章の hypo theou の前にもあり（ただし省略されている），第二の方だけ両者を切り離して訳す必然性はないからです。

この後，パウロはくどいほどエクスーシアを担う者の根本的な条件（特性）すなわち『権威者は神に仕える者です』を繰り返します（4・5・6節）。こうして，従うべき“上に立つエクスーシア”を私たちが正しく見極めるべきことを示唆しているのです。[14]」

本田は，「上位のエクスーシア」を，「すぐれたエクスーシア」と解釈している。すると，国家，上司，夫などに必ずしも盲従しなくてもよいことになる。条件つきである。「神の下にある」ならば，と本田は直訳している。他の聖書箇所で「夫，親，上司，王」などに「従う」についても，文脈から判断すべきであろう。聖書全体から解釈するのが円熟した宗教者である。教条主義的な逐語霊感説に立つと，聖書字句拘泥主義者に陥りやすい。自分たちの教団，教派によって暗誦させられた一箇所の聖句を用いて，本田訳に反論する姿勢である。

権威者ニムロドの登場

創世記から考慮したい。「彼は主の前において勇ましい狩人であった。それゆえこういうことわざがある。「主の前における勇ましい狩人ニムロドのようだ」（創世記 10:9）。

ニムロドは人間の強力な狩人であった。自分の知的および肉体的優位性を発揮した。より劣る人々を自分の思いのままにする最初の人になった。搾取する体制を造りあげた。専制的な支配下で人々を拘束した。「主の前において לִפְנֵי יְהוָה *liphnê Yahweh* リフネー ヤハヴェ[15]」とは，「場」（トポス）ではない。ニムロドの野心は神の怒りを引き起こすまで増長した。狩猟した獲物を神に捧げるため祭壇を築き，敬虔さを装って民の心を掴もうという戦略であった[16]。権威者のパターンとして，いつの時代も権力者はニムロドのように「主の前に」敬虔さを装って人心をたぶらかしてきた。冷静に油断なく権力者の型を洞察すべきだろう。リトマス試験紙に相当す

---

[11]『塚本虎二訳新約聖書』（塚本虎二 塚本虎二訳新約聖書刊行会 新教出版社 2011年。聖書知識社 1966年）。内村鑑三は不敬事件によって，井上哲次郎[1856-1944]との論争の結果，免職。天皇に対する宗教的礼拝は拒絶した。しかし，天皇個人に対しては，戦後以降の人間とは異なる信愛の情を抱いていた。だから塚本のローマ13章の敷衍訳も納得できる。『内村鑑三全集 39巻』（岩波書店 286頁）。

[12] 拙論『解放の神学とは何か』（2021年 神戸国際キリスト教会 「牧師の拙論」8）。

[13] 本田哲郎[1942-] ローマ教皇庁立聖書研究所卒，元フランシスコ会管区長，聖書翻訳者『新共同訳』，『フランシスコ会訳』，『本田訳』，神戸国際支縁機構理事。『本田哲郎訳』（新生社 2001年）の表題は「小さくされた人々のための福音」。池長潤[元カトリック大阪大司教区大司教]から表紙は聖書らしくないようにと言われ，改題。2004年11月19日以降，神戸国際支縁機構主催の「小さくされた人々のための福音」講座は，本田哲郎訳に基づいた講解説教。

[14]『続 小さくされた者の側に立つ神』（本田哲郎 2000年 136-149頁）。

[15]『セプトゥアギンタ（七十人）訳』[ギリシャ語（翻訳）旧約（以下 LXX]では，ἐναντίον κυρίου τοῦ θεοῦ エナンティオン キュリウー トゥー セウー「主なる神の前に」である。ヘブライ語リフネイ ヤハヴェの「リフネイ」は，英語の before＜に向かって，の目に，の御前にの意＞，ギリシャ語は ἐναντίον エナンティオン *enantion*。

[16] “**BEREISHIS**” Vol.1 Mesorah Publications, Ltd. New York, 1969 p.318。

る判断基準は，弱者に対する「大悲(だいひ)」[17]が顧みられるかどうかである。聖書は「悪魔の策略」について言及する。パウロは「空中のエクスーシアをもつ支配者」(エフェソス 2:2)が，狡猾な「策略」を用いることを警告する。エフェソス 6 章 12 節で，「権利，権力，主権」を牛耳るのは悪魔と述べられている[18]。イエス・キリストが高い山で誘惑された時，サタンは，「この国々の一切のエクスーシアと栄華とを与えよう。それは私に任されていて，これと思う人に与えることができるからだ」，と豪語している(ルカ 4:6)。つまりサタンは「この世の神」としてあらゆるエクスーシアを掌握していることに他ならない(Ⅱコリント 4:4)。

ヒエラルキーの源流　言語統一，包摂，技術至上主義

歴史上の最初の権力を誇示したニムロドは何を試みたか。ヒエラルキー[19]の源流となった。多様性ではなく，統一性を実現するために，言語を「一つ」にした。二番目に，「包摂」[20]subsumption を目指した。三番目に，技術至上主義を手がけた。

まず，創世記 11 章 1 節，6 節に，「一つの」(ヘブライ語 אֶחָד エハド *echad* ギリシャ語 μία ミア *mia*)が出ている。神は言葉が通じない混乱「בָּלַל バラル *balal*」をもたらされた。それまで，ニムロドは全世界を権力の下に共通言語を用いて統一しようとしていた[21]。次に，隣人のことにかまけず，自己愛に屈折していく。マルクス[1818-1883]が述べる「包摂」の原初を発見する。社会から個々の表現の自由がなくなってしまう。隣人とのコミュニケーションがいびつになっていった。三番目に，ニムロドは高い塔を自然の石，岩ではなく，技術によって建造した。「さあ，れんがを作り，よく焼こう」(創世記 11:3)。粘土を「焼く」ために炉が製造された。鉄，銅，金属を加工するために，高温で鉱石の不純物を取り除く技術を開発した。「青銅や鉄のあらゆる道具を作る者となった」(創世記 4:22)。「アスファルトが漆喰の代わりとなった」という技術革新によって，全地に散らされない強大な帝国を築こうとした(同 11:3)。技術至上主義の構造はニムロドの遺伝子を継承している。

ニムロドのクローン的権力者は，政治・経済・文明を発達させた。進歩をもたらし，人間に夢を与えた。神の介入をもはや必要としない。救いは神からもたらされる奇跡ではないように思わせた。救済事業は人類の責任分担だと教育，科学，思想を確立した。衛星，遺伝子操作，デジタルを媒介として，人間は地球外にまで領域を延長した。いまや人間は宇宙への主権も担っている。

しかし，冷静に振り返って，歴史上の痕跡は必ずしもバラ色ではなかった。技術の発達は，便利さと引き換えに，巨大管理機構による環境汚染，生態破壊，安全でない食品がテーブルを支配してきた。貧困，虚偽，戦争にだれも責任を取らない。歴史の負の連続性から手を切るには何が必要だろうか，「ポストコロナ」を考慮するには，最初に，歴史を検証し，真実を見つめるべきだ。学者は過去を分析できても，未来像は描けなかった。ジレンマ，もどかしさ，ラビリンス(迷路)から脱出する価値観をだれが構築するのか。被ばく，コロナ禍，ウクライナ戦争難民に，宗教者はアウトサイダーでよいものか。

「高貴この上もない戦争といふものは，居候や女街や盗人や強盗や無作法者や阿呆や借金で首がまはら

---

[17] 悲は，あわれみ，同情心。他人の苦を除く。多くの人々の苦しみを救おうとする仏や菩薩の慈悲心。『広説佛教語大辞典中巻』(中村元 東京書籍株式会社 2001 年 1657 頁)。(以下『中村大辞典』)

[18]『キリスト者の戦い』(D.M.ロイドジョンズ 村瀬俊夫・後藤公子訳 いのちのことば社 1986 年 66-70 頁)。

[19] ἱεραρχία (ヒエラルキア 英語 priest's office 聖書の ἱεραστεία＜祭司職の意＞*hierateia*が語源)。英語 hierarchy ドイツ語 Hierarchie(ヒエラルヒー)基本的には社会における「ピラミッド型の階級組織構造」。

[20]「包摂」とは，経済・社会が，その本来の諸関係にとって外生的な存在を取り込む過程をいう。

[21]『共通善の追究の試み—「バベルの塔」を手がかりとして—』(新免貢 宮城学院女子大学研究論文集 2020 年 12-13 頁)。多様性ではなく，「一様性」(ヘブライ語 רֵעֵהוּ שְׂפַת אִישׁ レエーフ セファト イーシュ)にある通り，権力基盤を強固なものにする手段として，アラム語聖書を引用して説明。参考までに，LXX では，次のようになる。μία πᾶσιν ミア パスイン「すべてを一つに」という機運を盛り上げた視点を論及。μὴ ἀκούσωσιν ἕκαστος τὴν φωνὴν τοῦ πλησίον メー アクゥーソースィン エカストステェーン フォネーントゥー プレースィオン *may not understand each the voice of his neighbour*

ぬ人間，結局，世のなかの殘滓みたいな連中がやらかすものでして，決して，燈火を掲げて夜も眠らない哲人たちにできることではありません」，とデジデリウス・エラスムス 1466-1536[22]は言った。

「自然法爾」

親鸞[1173-1262][23]は，現実の絶対否定，さらに否定の否定を契機とした。そのことによって，「同朋同行」[24]＝共同連帯の思想を萌芽させようとした。キリストは隣人愛を説いた。

宗教は，国家，民族，国境を越え，地球全領域にまたがる性向がある。仏教の発祥のインド，中国においても「国家観」は確立していなかった[25]。国際宗教の仏教が日本に定着してから，布教しながら国家，権力者，エクスーシアと制度，国造りと共存してきた。タイにおいて，政府の国家観と仏教の国家観は同一ではない。白河法皇が嘆いた「加茂河の水，双六の賽，山法師，是ぞわが心にかなわぬもの」[26]のような僧侶が武器を装備するのは決して普遍的ではない。2021 年 2 月 13 日午後 11 時 7 分頃，福島・宮城で震度 6 強による 10 県で計 157 人の負傷者，なかでも福島県が 83 人，住宅は約 1,400 棟の損壊があった。11 時間後に，一番被害が大きかった福島県相馬市尾浜の大橋に到着。県外ボランティアお断りの影響のため，私たち以外にボランティアはいなかった。2021 年 2 月 16 日は日寺の屋根の瓦が飛び，神社の鳥居は倒壊していた。日蓮[1222-1282]生誕 800 年目であった。帰神後，神戸新聞会館で，「今こそ，現代の親鸞，日蓮が求められる」と語る契機となった。千葉災害ボランティアの地元では，日蓮は根強い人気がある。地元で敬慕されている日蓮上人は元寇の侵入に対して決然と立ち向かう勇気があった。日蓮は愛国の士であった。人生において 4 回も島流しの法難を受苦した。鎌倉時代は，異常気象，疫病，飢餓で民衆は辛酸をなめていた。ちょうどコロナ禍の現代と似通った時代と言えるかもしれない。「はるかに時代を超えて男女の平等を見据えた日蓮の高い理想とヒューマニズムを見るべきである」[27]。その系統になる日本最大の宗教グループ創価学会は政権与党にある。自民党の重石として軍事安保に対する抑制力になるように期待されている。第二次世界大戦前，国民に最も八紘一宇，大東亜共栄圏，軍事侵攻を啓蒙した北一輝[28]，大川周明[29]をあげられよう。歴史から教訓を嗅ぎ取れない権威者，民意，メディアは物事の本質を見誤った悲劇がある。本来，神仏習合である本地垂迹説[30]により，伝統宗教は良好な関係にあった。神と仏が包括されたシンクレティズム[31](重層信仰)は，日本の中世時代に定着していた。しかし，明治維新により神仏習合に待ったがかかった。エクスーシアは廃仏毀釈という災難を仏教にもたらした。当時，浄土真宗は一番宗教人口が多かった。三井甲之[1883-1953][32]は門徒たちをはじめ，日本全体に影響を与えた。「自然法爾」[33]という御仏の教えと国体思想を合体させ，国民に啓蒙した。世界平和のために一億総玉砕も辞さじの熱狂を煽った。戦後，宗教が

---

[22]『痴愚神禮讃』(エラスムス 渡邊一夫譯 岩波書店 1955 年 67 頁)。

[23] わたしは個人的に，日本における最大の信仰者を親鸞とするなら，最大の天才は空海。最大の秀才は道元と，証言したりもしてきた。

[24] 親鸞は，ともに念仏を唱える同信の人々を同朋同行と呼んだ。『岩波仏教辞典』(中村元・福永光司・田村芳朗・今野達 岩波書店 1989 年 612 頁)。
"同朋同行二人" Kobo Daishi is always with me (written on the hats of Shikoku pilgrims) 天の「空海といっしょに二人で修行」と用いられる。

[25]『東洋人の思惟方法 第二部 日本人・チベット人の思惟方法』(中村元 みすず書房 1955 年 91 頁)。

[26]『平家物語』巻第一 白河天皇[1053-1129]。

[27]『増補 日蓮入門 現世を撃つ思想』(末木文美士 ちくま学芸文庫 2010 年)。

[28] 北一輝[1883-1937] 戦前の思想家，国家社会主義，日蓮主義。右翼のバイブルになった『日本改造法案大綱』をもって，天皇大権による戒厳令，国家機構改造，アジア大帝国の建設を論じた。

[29] 大川周明[しゅうめい 1886-1957] 日本ファシズム運動の理論的指導者。拓殖大学教授。『日本二千六百年史』は日本精神を鼓舞する代表作。

[30] 仏や菩薩が本来の姿(本地[ほんじ])ではなく，神という仮りのすがた(垂迹身[すいじゃくしん])となって人々を救済するという神仏同体説。明治維新により神仏習合が破棄された。廃仏毀釈という切断に到った。その結果，仏教というエクスーシアに屈服せざるを得なくなった。

[31] シンクレティズム syncretism 「重曹信仰」相異なる信仰や一見相矛盾する信仰を結合・混合すること。

[32] 三井甲之 東京大学卒。『親鸞研究』，『自然法爾』，『祖国礼拝』など多数。箕田胸喜は三井甲之の弟子。箕田胸喜[むねき 1894-1946]慶大,国士舘専門学校教授。反共・右翼思想家。原理日本社主宰，国際反共連盟評議員。三井の著書『親鸞研究』には，"「祖国・日本禮拝」は新世界宗教である"など，八紘一宇，大東亜共栄圏を昂揚する「「自然法爾」のメカニズムの原点であった。

[33] 英語ならさしずめ Everything is OK.とも言える。「即ち『祖國・日本禮拜』は此の新世界宗教である。それは一切の仮定，概念，本體の迷信から脱却して，理智と功利との祈禱ではなく，現實祖國日本の運命に隨順しようとする歸命没入感に活きしめらるゝところの内的信樂世界である。」『親鸞研究』(三井甲之 東京堂 1943 年 821 頁)。

もたらした不幸の反省が出てきた。浄土真宗総長であった豊原大成(だいじょう)[1930-2022]はわたしに「阪神宗教者の会」[34]の定期的な会合場所を提供した。豊原は,「戦時教学」に深く慚愧(ざんき)した[35]。国家のエクスーシアも,過去の歴史からの教訓に従って,二度と民を戦争に巻き込まないように治める務めがあろう[36]。

ロシア・ウクライナ戦争

「苦悩が臨む。平和を求めても,どこにもない」(エゼキエル 7:25)。

第二次世界大戦から 77 年,核保有国のロシアは牙を剥いた。同じ正教会のウクライナに対してである。その首都キエフは両国正教会の出発点である[37]。石巻ハリストス正教会の田畑隆平司祭は,「プーチンはキエフをずっと欲しかったんだ」,と 2 月 26 日,わたしにプライベートに語った。水野宏司祭も,「宗教者として戦争は反対」の見解は,現地でも同様である,と言明した。日本の隣国の中国と台湾もウクライナ戦禍の近似の確執が起こる可能性を否定できない。すると日本のエクスーシアは,参戦余儀なくされるシナリオが現実味を帯びてくる。繰り返し同じ轍を踏まないとだれが言えようか。

ロシア・ウクライナにおいて,正教会同士の深刻な対立はなく,宗教的には同根である。しかし,2014 年以降,国家のエクスーシアが対立してきた。国家は宗教を凌駕していることは明白であろう。宗教は国家の暴走を制御できる力,知恵,実績もまったくない。「私が平和を語っても 彼らはただ戦いを好む」(詩編 120:7)。宗教は無辜な市民を守ることができていない。「彼らは,わが民の傷を安易に癒やして『平和,平和』と言うが,平和などはない」(エレミヤ 6:14)。エクスーシアは,戦禍での最大の犠牲者,孤児・夫をなくした独身女性・高齢の独居者なども顧みていない。

ユダヤ人の哲学者ハンナ・アーレント[1906-1975]は,全体主義が人類歴史の中で登場してきた必然性を語る[38]。さらに彼女はどうしたら戦争を阻止できるかを言わず,教訓にするために,『全体主義の起源』の 3 巻を書いた。そこでは官僚制度が一度転がり出すと歯止めがきかないという論及もある。哲学者の森田美芽[1958-]は,ソ連は労働者の国家とはいえない,ただの官僚支配の国家にしか過ぎなかったと日本聖書協会主催の聖書セミナーで言及した[39]。

---

[34] 兵庫県在住の宗教者らが東日本大震災直後から集まった。当初は神戸市垂水区で,高野山真言宗西方院,柿本人麻呂神社,神戸国際キリスト教会の持ち回りだったが,2016 年頃から西宮市西福寺で,月一回定例の講座。
http://kicc.sub.jp/ecumensty/%E5%AE%97%E6%95%99%E9%96%93%E3%81%AE%E5%AF%BE%E8%A9%B1/hanshin_religion

[35] 国体に戦前,戦時下真宗が積極的に参与した反省を豊原大成は,「戦時教学」を通じて戦後語り続けた。「苦労してでも殺し合いはすべきでない。苦労というのは外交努力ですね。そもそも中国や朝鮮半島がなかったら日本の文化はありえません。漢字も仏教もそこからきた,大事な『先輩』なのです」(『赤旗』2015 年 6 月 9 日付)。

[36] 『歴史哲学講義』(上)(ヘーゲル 長谷川宏訳 1994 年 18-19 頁)。

[37] ロシアの総人口約 1 億 4 千万人中,63 パーセントがロシア正教徒,一方,ウクライナには 3500 万人の正教徒(モスクワ総主教庁系と,コンスタンティノープル総主教庁系の二つ)の信徒がいる。(『宗教の自由報告書』アメリカ国務省 2021 年版)。世界規模の家族のような正教会の中で 4 割がロシア国の信徒たちである。988 年,ウクライナ国首都キエフで最初の信者ルーシが洗礼を受けてから千年以上を経ている。分家のように,コンスタンティノープル系のウクライナ正教会もある。圧倒的にウクライナで多いのは,ロシア国の首都モスクワにある全ウクライナの府主教オヌフリイの教会,司祭,信者である。モスクワと対立するコンスタンティノープル系の教会はある。2022 年 2 月 24 日,ウクライナで民間人が殺害された。同日,ロシア側のモスクワ総主教庁系のウクライナ正教会最高位がプーチン大統領の悪のメッセージが発信された。
『神戸新聞』(2022 年 2 月 27 日)。『クリスチャンプレス』(2022 年 2 月 28 日付) https://christianpress.jp/nobel-prizen-0228/?fbclid=IwAR2nG_cBA7iTRcXHEIavxCeYFlXk6S_CKkb3Acng6XjeOv9NwlcRCOweths『クリスチャントゥデイ』(2022 年 2 月 28 日付け)
https://www.christiantoday.co.jp/articles/30628/20220228/donation-for-orphans-widows-elderlys-in-ukraine.htm
「カヨ子基金」ホームページ http://kisokobe.sub.jp/?p=19646&preview=true

[38] 「戦前の専制政治からわれわれが知る旧式の官僚支配と全体主義支配との間の際立った相違の一つは,前者が政治領域内に属する臣民の外的運命を支配するだけで満足し,精神生活まで掌中に収めようとはしなかったことである。全体主義官僚制は絶対的権力の本質を一層よく理解し,市民のあらゆる問題を私的なものであれ公的なものであれ,精神的ものであれ外的ものであれ,同じ一貫性と残虐さをもって統制する術を心得ていた。その結果,古い官僚支配のもとでは諸民族の政治的自発性と創造性が抹殺され止まったのに対し,全体主義支配は人間の活動すべての領域における自発性と創造性を窒息させてしまった。政治的非創造性のあとに続いたのは全面的な不毛性だったのである」(『全体主義の起源 2』ハンナ・アーレント 大島通義・大島かおり訳 みすず書房 2013 年 202 頁)。

[39] 大阪キリスト教短期大学学長を務めた森田美芽は,2013 年 8 月 8-22 日,第 64 回日本聖書協会聖書セミナー(セミナー委員長岩村)で語った。

コロナ禍にあっても，日本では，政治の迷走が続き，官僚の縦割り行政が医療崩壊をもたらし，弱者にケアが行き届かない現実を突きつけた。「大路は荒れ果て，道行く人は途絶える。……他の人のことを顧みない」(イザヤ 33:8)。

鳥で溢れた鳥籠のように彼らの家々は欺きで満ちている。こうして，彼らは強大になり裕福になった。彼らは太って，色つやもよくその悪事には限りがない。孤児のための裁きを成し遂げず貧しい人々の訴えも取り上げない(エレミヤ 5:27-28)。権力者はいつの時代も，「欺きで満ちている」，「裕福」，「悪事には限りがない」。とりわけ，孤児，貧者が叫ぶ生活保障，人権，平等は司法においても却下されてきた。「善を行うことを学べ。公正を追い求め，虐げられた者を救い孤児のために裁き，寡婦を弁護せよ」(イザヤ 1:17,23, 10:2)。

b. エクスーシアの監視を放棄したメディア，日本の市民社会が劣化している

イタリア中部アマトリーチェ地震被災地へ神戸から単身訪問[40]。298 名が災害死だった。その 8 年前の 2009 年 4 月 6 日 3 時 32 分，最大の地震マグニチュード 6.3 が古都ラクイラを襲った。死者 309 名(伊 ANSA 通信)。家の損壊数千人。ラクイラも訪問した。いまだに爪痕が残っていた。

2009 年 3 月 31 日，民を安心させる作戦のためテレビなどで「安全宣言」。その結果，7 人の地震予知委員会，学者たちは有罪，実刑が宣告された。一方，否定の論理をもたない日本では，フクシマ原発の安全神話を繰り返した学者，メディアに一切，おとがめなし。日本の学者，マスコミ，政治家による「地震予知は極めて困難」「当時は大地震発生の可能性はとても少なかった」などと言い訳をする。8 年前，ラクイラ地震の 6 日前に当地で，イタリア政府の「大災害の予測と防止のための国家委員会」が開かれた。戦前の日本大本営の発表と同じように，「安全宣言」が茶の間のテレビ番組でも報道された。こうした安心情報について，地震予知専門家，学者たちを用いた。民は「官」の発表を疑わなかった。地震直前には，地元テレビ局ニュースは「安全宣言が出されました」「市民の皆さまには朗報です」と放送。翌朝の地元メディア紙は，小さな群発地震で不安におののく住民に，「小さな地震によるガス抜きが行われたから，もう大丈夫」，と虚偽の情報をダメ押しした。フクシマのメルトダウンについても，「官」や科学者が「ただちに危険はありません」，と民衆に真実を語らなかったことと酷似している。イタリアも日本も虚偽の安全情報発信の構図が同じであった。記者だけでなく，編集局全体でクリティック[批判]する基本的な姿勢が欠如していた[41]。イタリアで安心情報が出された 6 日後の 4 月 6 日，住民の安心，信頼，生活は完膚なきまでひっくり返された。大地震がラクイラを襲った。神戸国際支縁機構は，2017 年，日本からの救援金をアマトリーチェに届けるためにわたしをイタリアに遣わした。夜を過ごしたサントスも 2009 年の地震ですっかり廃村になっていた。ラクイラだけで 309 名が死亡。ほとんどの死者は建造物の下敷きによるものだった。イタリア中部には，千年以上の石造りの歴史的建造物が多い。住民は，発生の 1 週間前の 3 月 30 日までに，嘘の安全宣言によって避難先から自宅に戻っていた不運があった。そして惨事に遭遇した。遺族は安全というマスコミ発表をした行政のベルナルディニス副長官，国の予算で研究発表をしている学者たちを告訴した。当然のことながら有罪判決だった。

日本のメディアの虚偽

イタリアの地震による被害，宮城県石巻市大川小学校は裁判になった。だが，日本の福島第一原発事故は，だれも責任をとらない。福島第一原発の処理水海洋放出問題も有耶無耶になろうとしていまいか。 政

---

[40] 第 1 次イタリア地震ボランティア(2017 年 6 月 5 日～10 日) http://kisokobe.sub.jp/international/9200/
ウィキペディアの「イタリア中部地震 (2016 年 8 月)」には，“神戸国際支縁機構，イタリア中部地震の緊急救援募金受け付け開始”. CHRISTIAN TODAY (2016 年 8 月 25 日). 2016 年 8 月 29 日閲覧。

[41] 『憲法 9 条―過去・現在・未来―』(村田充八 県民会館 2021 年 127 頁)。“ジャーナリズムは，政治の社会をも見張る「ウオッチ・ドッグ（番犬）」の役割を担う公器”。

府は2021年4月，原発敷地内のタンクに貯蔵されている汚染水(燃料デブリなどに触れて放射能汚染された水，約128万トン)を「ALPS」(多核種除去設備)で処理し，海水で希釈した「処理水」として2023年に放出を決定。「関係者の理解なしには，いかなる処分も行わない」と福島県漁連に誓った約束など，完全に反故にしている。

福岡県朝倉市杷木松末(はきますえ)の被害(2017年7月5日 死者41名不明1名)岡山県倉敷市真備(まび)町箭田(やた)の洪水(2018年7月7日 死者51名)，北海道厚真(あつま)町地震(厚真川地区[厚真町・安平(あびらちょう)町・むかわ町]2018年9月6日 死者43名)，熊本県球磨川氾濫(2020年7月4日 死者67名 不明2名 約1,020ha，約6,100戸の泥の被害)，熱海土砂災害(2021年7月3日 死者20名 不明1名)など，現地に急行してきた。

いずれも現地で避難所の体育館などで住民から直接聞いた情報では，「天災」というより「人災」であった。たとえば，球磨川の水害は市房ダムの放流，球磨川の川底の掘削怠慢，堤防の放置による。人為的な犯罪に近い問題が，脱ダムが原因という理不尽な訴えにすり替えられている。震災直後には，被災者は事実を率直に語っておられたが，翌日，メディア報道などからの情報が入ると，180度違ったようになる。まるで報道官のように，土木業者のずさんさが原因，異常な乱気流が原因など論理的に説明されるように変化する。新聞などの報道が与える影響は大きい。同じ人間とは思えないほど，震災について客観的に話す。私たちはあるときには，自衛隊やメディアより早く現場に入って，被災者から直接，話してもらう。その内容が翌日には不確かなものになる。そうしたずれを20年以上味わってきている。もちろん被災者はウソを言っているのではない。記憶が翌日に打ち消されるほど，マスコミの力は大きい。メディアが虚偽の報道をすれば，そのウソを支持する側にチェンジコートするわけである。ある出来事を目撃したあとに，その出来事に関連した情報を与えられると，その出来事の記憶は，関連した情報の方向に変容してしまうことがある。事後情報によって記憶が変容する現象のことを事後情報効果と言う。事後情報によって変容した記憶は，脳内でそのオリジナルの記憶と混在することがある。それが目撃証言などに影響することが知られている[42]。したがって，ボランティアは何が本当か回数を増すにつれ，識別する力が身についてくる。最初はとつぜんの不条理な体験によって，精神的に混乱していたせいだと考えてはいけない。本人が遭遇した被害を自分の目，耳，身体全体で遭遇した体験を語ったからである。傾聴ボランティアを通じた最初の生の声こそ，後世に語り伝える責任があろう。

パンデミック防止に失敗

ワクチンは国民の健康を守る武器である。自国生産できるのに，しなかった。毎月訪問している梶原明彦宮司(文字社(もんじしゃ) 2017年，松末[ますえ]災害で唯一被害にあった宗教施設)は，江戸時代の医学者緒方春朔(しゅんさく)[1748-1810]に関する近著を2月21日にわたしに寄贈した[43]。恐るべき感染症「天然痘」に立ち向かったエドワード・ジェンナー[1749-1823]は，「ワクチン」を開発した。それより6年前に春朔は，予防接種を日本で成功させていた。全国に広めた。日本はワクチンを作る方法，実験をしてきた伝統がある。たとえば，水痘や日本脳炎のワクチンは世界に先駆けて開発してきた[44]。「官僚など権威者の政策のギャップによりワクチンメーカーは意欲も削がれ目先の経済効果を優先するようになり，……負のスパイラルに陥った」，と北里大学大村智記

---

[42] マス・メディアから与えられる情報が人々の記憶に与える影響の問題がある。証言者がテレビやラジオ，新聞，雑誌などマス・メディアを通じて，事後の情報に接することも少なくはない。『事後情報の提示モードと謝罪情報効果法と心理』(丸山昌一・西真理子・厳島行雄『法と心理』4巻2005年119頁)。

[43] 『伝染病に挑んだ人々』(隅部敏明・梶原明彦「予防接種は秋月藩から始まった」キャンペーン推進協議会2022年32頁)。梶原明彦宮司は，鳥居にぶら下がっているしめ縄について説明。「注連縄(しめなわ)」は，「雲」，垂れる藁は「雨」，白い紙「紙垂(しで)」は「稲妻」と自然生態の循環と説明。聖書と合致している。「誰が洪水のために水路を切り開き 稲妻に道を与え」(ヨブ38:25)。私たち「田・山・湾の復活」の願いにかなっている。

[44] 『コロナ戦記』(山岡淳一郎 岩波書店2021年139頁)。

念研究所特任教授の中山哲夫[1950-]は語った[45]。欧米は2020年12月から各種のワクチン接種が始まった。一方，日本では2021年2月17日に，医療関係者を皮切りに新型コロナウイルスワクチンの接種が始まった。欧米では病原体発見から一年ほどで開発認可されているのに比較して，日本は遅れた。なぜか。小泉純一郎元首相([1942-]は2001年4月から2006年9月まで5年半近く続投)の「小泉・竹中ラインによる構造改革路線に起因する。経済効率を重んじる新自由主義的な医療改革の反動となった[46]。

パンデミック(世界的大流行 ギリシャ語のパン“全ての”＋デモス“人々”)は，世界的な規模である。

日本政府は「パンデミック防止」に失敗した。PCR抑制論によって，感染が拡大した。中国武漢でコロナウイルスが始まった以降，中国政府は3つに心血を注いだ。① 徹底したPCR検査，② 大規模なロックダウン，③ 巨大病院の建設であった。一方，日本の官僚はPCR抑制論一点張りだった[47]。PCR検査の必要性を訴える学者，専門家はメディアに用いられなかった。SDGs (Sustainable Development Goals) 「持続可能な開発目標」すらなかった。厚生省―都道府県衛生部―保健所という制度により，1994年から効率重視による保健所統廃合が始まる。地域保健法第三章第五条，第四条第一項に従って，地域の住民にサービスすべきであるが，コロナ禍にあっては，濃厚接触者の特定や入院調整など手が回らなくなっていた。

『保険診療』(2022年1月号)は保健所崩壊，病院も自宅療養による医療崩壊を詳述している[48]。PCR検査抑制だけではなかったことは言うまでもない。新型コロナ患者と通常の病人・怪我人を医療機関がどのように分担して検査，加療するかという大枠のスキームの次元で，政府は誤り続けた。こうした大枠の設定とその具体化を指示することこそ政治家の仕事にほかならない。エクスーシアが怠慢だった。

新しいメディア状況によって顕在化されたものも，今次の新型コロナ危機の特徴として指摘されるべきではないか。SNS上の言説を観察してみて最も印象的だったのは，PCR検査をめぐる論争に，多くの医学・医療の「専門家」(自称も含む)が参加していたことだった。公的な議論の場が多様化すること自体は歓迎すべき事柄だが，問題はその中身にあった。多くの「専門家」が，抑制論に加勢し政府の方針を支持，そして抑制論を批判する人々を攻撃的に論難，ときに罵倒していた。

福島第一原発事故の事後処理においてもだれも責任をとらなかった。今度のコロナによる医療崩壊もだれも責任をとらない。エクスーシアとは単なる名誉欲，金銭欲，ニムロド欲達成の対象だ。その犠牲になるのは古今東西，正直に生きるオクロス(ὄχλος *ochlos*＜民の意＞)である[49]。

日本，否，世界の無責任の閉塞状況を打破するには，古(いにしえ)の時代から連綿と続いた「田・山・湾の復活」[50]が復権と考えたい。生態の復興が生命線になると考える。一方，里山，里海，田圃から離れた生活を送る勤労者の現実をとりあげてみたい。20万円の給料を19万円に下げると労働者は文句を言う。「同じ仕事をして

---

[45]『学術の動向2021年10月』(中山哲夫 日本学術協力財団2021年63頁)。日本学術会議は，4月24日に日本薬学会と共同開催，5月8日には日本医学会連合との共同主催で「コロナ禍を共に生きる[新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#1]を開催。2回目に中山哲夫は「COVID-19ワクチン開発はなぜ遅れたのか？――歴史から学ぶこと」を講演。

[46]『コロナ戦記』(同218頁)。

[47] 拙論「コロナ禍なのにどうしてボランティア」神戸新聞会館聖書のことばシリーズ第91回 2022年] 厚労省の医務技官と密接な利害関係をもつ専門家群(その頂点尾身茂[おみ 1949- 医学者(自治医科大学卒 地域医療・感染症・国際保健)，厚生官僚，国際公務員]がいる)。

[48] 1994年以降，保健所統廃合が始まった。ボランティアが被災地で炊き出しの許可を得るのは保健所だが，近年，減少している。効率重視のため，保健所は崩壊寸前なところが多い。医療現場も効率重視が求められるため，余裕のない経営に陥っている。『コロナ戦記』(同28頁)。対策の本質における出鱈目さを糊塗しようとするこのツケが回されたのが，各地の保健所である。PCR検査の検査能力を飛躍的に拡大させるためには，大学や各種研究所の動員，民間企業の参入を促進するなどの措置が必要であったが，厚労省は検査の主体を保健所に限定しようとした。保健所は，確定診断，患者の入院先の割振りなどすべての業務を押しつけられて，当然パンクした。なぜこのようなわかりきった不条理をあえてしたのか，その動機は不明ではあるが，これもおおよその見当はつく。厚労省，とりわけその医系技官たちは，感染症対策を自らのテリトリーのなかにとどめ置きたいと考えたのであろう。しかし，新型コロナの感染力は，長年の行革の対象となって縮小されてきた保健所の対処能力をはるかに超えていた。『保険診療』(2022年1月医学通信社 白井聡39頁)。

[49] 聖書に出てくるキリストの周囲に集まった民，「山上の説教」を語られた弟子たち，キリストの「道」に歩む人々(マタイ4:25,5:1 マルコ10:1)。生産に従事しえない者，病気の者，知的身体的に障がいを持つ者，故郷を追われた放浪者たち。つまり「棄てられた者」，物乞いして歩くしかないアウトカースト。

[50] 拙論『田・山・湾の復活』(宗教倫理学会2013年 関西大学飛鳥文化研究所)。同 (神戸松蔭女子学院大学 東日本大震災 チャリティコンサート&シンポジウム2012年)。

いるやないか」，と。輸入に依存している石油，食糧，地下資源の脆弱さをみんな知っている。物価が上がり，野菜の値段が倍になっているから怒る。インフレだと言われても納得がいかない。腸わたが煮えくりかえっている。ところが 20 万円の給料を 21 万円に上げさえすれば，戈が収まる。「見よ，地上ではしばし穀物の値が下がり，人々は平和が来つつあると考えるだろう。だがその時こそ，地上に災いが咲き乱れるのだ。それは剣であり，飢えによる災いであり」(エズラ記[ラテン語] 16:22)。ロシア・ウクライナ間の戦争は物価に大きな影響を与えている。数字のマジックで騙される。ケインズ政策のやり方は，名目賃金の上昇，実質賃金の低下という手法である[51]。

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で有名な社会学者，経済学者であるドイツのマックス・ヴェーバー(ウエーバー) [1864-1920]は，「すべての国家は暴力の上に基礎づけられている」，と言う[52]。ウエーバーは，「官僚制はひとたび完全に実施されると，『破壊することのもっとも困難な社会形象の一つ』となること，「官僚制化(Bürokaratisierung) を動かすのも止めるのも最高幹部だけである。ひとたびこの機構が存在する以上，これなしに済ますこともできないし，かといってこれをとりかえることもできない」，と[53]。

インフレで一番打撃を受けるのは，シングルマザー，貧困層[54]，限界集落の高齢者たちだ。そこで国家が介入する。紙幣をどんどん発行するのは常套手段。エクスーシアは，暴力的に裕福層に照準をあてる欺瞞的な手法で，銭を奪いとって，そのおいしい部分は，官僚がいただく。わずかに残った部分を弱者にばらまく。資本主義経済の断面図である，と元外務官僚の佐藤優[1960-]は語る[55]。

マスコミというツールはコモン(共有財)であれ

矜恃を失った新聞は，SNS の発達に責任転嫁をしてはならない。昨今，40 代以下は新聞を購読していない。スマホで情報を入手している。したがって，大手の新聞社に入社してくる新卒の優秀な社員も新聞を読まない世代である。ニューヨーク・タイムズもオンライン化すると聞いた。新聞で育っていない人が記事のため取材し，編集し，発行していく時代が到来した。読者は言葉のコピペやフェイクニュースを識別する力がいるだろう。活字離れのため，購読者が減っているからといって，記者は消極的に考える必要はない。なぜなら書店数は減っていても，本屋では，哲学書，ビジネス書，文学など固い書物も平積みに販売されているからだ。またわたしは書籍を購入できる裕福さを持ち合わせていないという理由で新聞購読を止める気はない。ボランティア道のために，タウン誌などを含めると 8 紙は購読している。それらの報道紙面，とりわけ小さなコラム，読者の声，地方の息づかいから啓発されている。事実の裏付けのため，近くの複数の図書館を活用している。すると図書館で難解な書籍も多くの人々が読んでいることに気づかされる。外観が活字離れのように思えても，新聞社の価値は大きく，今の時代に必要な仕事である。マスコミというツールはコモン(共有財)だ。

大手新聞社が行政と包括連携協定をするようならば，戦前に戻っていることになろう。メディアの本質は，政権が舵取りを間違えるならば，クリティック[批判]するのが使命である。自分の足で歩き回り，庶民の呻きを伝え，血の通った共生社会を創る。貧しさへのセンサーを研ぎすますべきである。お上の天下りである人物の事務所訪問という楽な仕事を活字化するようならば，市民はますます事実から乖離していく。「ポストコロナ」

---

[51]『ケインズ全集〈第 2 巻〉平和の経済的帰結』(ケインズ 早坂忠訳 東洋経済新報社 1977 年)。
[52]『職業としての政治』(マックス・ヴェーバー 脇圭平訳 岩波文庫 1999 年 9 頁)。
[53]『ウェーバー社会学の視圏』(阿閉吉男 勁草書房 1976 年 59 頁)。130 ページには，資本主義は「経済の官僚制度化の先導者」と論じる。
[54] 経済的な理由で過去 1 年間，必要な食料を買えないことがあった沖縄県内の子育て世帯は，ひとり親世帯で 43%，両親がいる世帯でも 25%，子どもの 3 人に 1 人が貧困状態『沖縄タイムス』(2017 年 6 月 1 日付)。「離島の教育費，年収超え 公庫調査，200 万未満では負担大きく」「琉球新報」(2022 年 2 月 10 日付)。世帯年収に占める教育費の負担割合は，年収が低い世帯ほど大きくなり，年収 200 万円未満の世帯では 89.0%。
[55]『国家論』(佐藤優 NHK ブックス 2008 年 128-129 頁)。

にあって，第四の権力と言われる業界が，敗戦時，焼け野原の中で言論人としての使命を誓った時を忘却してほしくはない。刷新を祈りたい。死に体の国を救うのは他ならぬ記者魂だ。

c. 立身出世主義観が「自助・共助・公助」精神を醸成

「家助」(家族の援助)はハリケーン，サイクロン，台風，地震，津波，火山噴火後に，海外で一般的である。アフリカ，アジア，南太平洋の島々に行くと，必ず孤児がいる。親を病気，交通事故，離婚などが原因で失った子どもたちである。都会と異なり，田舎では，そうした孤児たちの世話はだれがするのか。例外なく，伯父伯母，祖父祖母たちが面倒を見ている。生きていく「助」を差し伸べるのは，「自助・共助・公助」ではない。「家助」である。2019 年 5 月 8 日，わたしはインドネシアスラウェシ島(Sulawesi island)パル(Palu)に 3 回目の訪問をした。ペトボの液状化中に仮設小屋で 4 歳半の少年フィドラスを訪問。震災時に 11 人の家族を亡くした。祖母の Carida Muhammad (58 歳)さんが世話をしていた[56]。

菅義偉(すがよしひで)[1948-]前首相[57]は，「自助・共助・公助」[58]という言葉を災害だけにとどまらず，コロナ禍にも援用していた。三つの「助」が用いられている。自助，自己責任，官からの無援だから，がんばるようにエクスーシアある者たちが言う。さらに，自助の次が共助と言えるだろうか。「共助」とは，「地域や仲間，みんなで助け合う」こと。しかし，わたしたちが佐賀水害ボランティアで見て，仕え，痛感したことがある。わたしは報告した。「六角川(ろっかくがわ)の氾濫によりドロで覆われた家を大町町から隣町の武雄市北方(きたがた)町で老夫婦がドロ出しをしていた。東京にいる子どもたちはコロナ禍のため帰って来ることができないと嘆いていた」，と[59]。

災害地で最も助けになるのは，「自助・共助・公助」ではなく，これまでの被災地支縁で目撃するのは，「家助」であった。とくに「県外ボランティアお断り」の影響により，決定的な人手不足を被災地で目撃してきた。市会・県会議員はやって来ない。首長や国会議員については瞬間風速だ。日本の政治家は選挙に当選することを至上命題としている。限界集落は票にならない。被災者にとり，頼みにできたのは政・官・財・学ではないことは明白である。ボランティアが即有用な助けだった，と何度も耳にした。直後だけでなく，中長期にわたる心の復興が望まれる。震災によるトラウマ，喪失感，悲しみはすぐに氷解はしない。種々千差万別の苦悩に寄り添う「はたらき」には感情移入が最も必要とされる。感情移入はスピリチュアリティである。およそ宗教的実践の基幹には，他の人々に対するあたたかい共感の心情が伴うであろう。仏教では，この心情をその純粋なかたちにおいて慈悲[60]として把捉する。

ヒンドゥー教の詩人トゥルスィダースは，「慈悲は宗教の根源 罪の根源は傲慢 トゥルスィーはいう 身体に命ある限り 慈悲を捨てないように」，と歌った[61]。イスラーム教徒も，「また，われらがあなたを遣わしたのは，全被造物への慈悲ゆえに外ならない」も慈悲を心がける(クルアーン[62] 21:107)。2022 年 2 月 25 日，日本最古の神戸ムスリムモスクでイマーム(指導者)を務めるムハマド・ジャファルに「阪神宗教者の会」で「イスラーム教はこわくない」の主題で話してもらった。孤児たちにどのように慈悲を示すかについて，彼はクルアーンを探

---

[56]『ラダー スルテン紙』(2019 年 5 月 10 日付)』。http/kisokobe.sub.jp/international/12738/

[57] イチゴ農家の息子。2020 年 第 99 代内閣総理大臣。384 日で幕引き。息子の大成建設 ◇辺野古基地◇新国立競技場◇リニア新幹線◇NHK3400 億円社屋。行政は，自助や共助の強化を説いている。

[58]「自助」家庭で日頃から災害に備えたり，緊急時には事前に避難したりするなど，自分で守る事。「共助」とは，「地域や仲間，みんなで助け合う」こと。「公助」市町村や消防，県や警察，自衛隊といった機関による救助・援助。

[59] 拙論『ダムと伐(ばつ)―第 5 次佐賀水害ボランティア報告』(「小さくされた人々のための福音」講座 2021 年 6 頁)。

[60]「慈」と「悲」とはもとは別の語である。「慈」とはパーリ語の mettâ，サンスクリット語の maitrī (または maitra)という語の訳である。この原語は語源的には「友」「親しきもの」を意味する mitra という語からの派生語であって，真実の友情，純粋の親愛の念を意味するものであり，インド一般にその意味に解せられている。これに対して「悲」とはパーリ語及びサンスクリット語の karunā の訳であるが，インド一般の文献においては「哀憐」「同情」「やさしさ」「あわれみ」「なさけ」を意味 するものである。しからば，慈悲とどうちがうか，ということが問題となる。南方アジアの上座部仏教においては，「慈」(mettā)とは『「(同朋に)利益と安楽とをもたらそうと望むこと』(hitasukhupanayana-kamata)であり，悲(karunā)とは『(同朋から)不利益と苦とを除去しようと欲すること』(ahitadukkha-panaya-kamata)であると註解している。『慈悲』(中村元 講談社学術文庫 2020 年 32-33 頁)。

[61]『真の独立への道』(M.K.ガーンディー 田中敏雄訳 岩波文庫 2005 年 107 頁)。16 世紀に人格神ラーマへの絶対帰依を説いた。

[62]『クルアーン(コーラン)』(佐藤裕一訳 ファハド国王マディーナ・クルアーン印刷コンプレックス 2014 年)。

った。「また，孤児に彼らの財産を与えるのだ。……また彼らの財産を，あなた方の財産と一緒くたにして貪ってはならない。本当にそれは大きな罪なのだから」(クルアーン 147:2)。「近親の者にその権利を与えよ。また，貧者(アラビア語 ミスキーン)と旅路で苦境にある者にも与えるのだ」(クルアーン 565:26)を朗読し，正しい信仰と実践を行なうなら，テロをする気にはなれないはずだと言った。「慈悲」は普遍的な世界の普遍宗教に共通する価値観である。「普遍」[63]とは，「国家」，国境，民族を乗り越えた人類が共通の基準にできるものだ。

浄土宗の開祖である法然[1133-1212]は飢饉，疫病が蔓延し，物質的，精神的に痛めつけられていた庶民の苦しみを自分の苦しみとして知っていた。法然は自分について吐露した。「かなしきかな……，いかがせん……ここにわがごときは，すでに戒定慧(かいじょうえ)の三学(さんがく)のうつは物にあらず」，と[64]。法然はとうてい三学をものにできる人間ではない，と嘆息。慈悲という資質があるなら，学歴[65]，資格，専門性などは不要である。逆説で考えるなら，明治に入り，慈悲心が立身出世主義の価値観にとして，人々の心に巣くった。だから，他者の苦に入り込み，それをある程度共にすることがきる能力はない。助けを呼び求める呻きを聞いた時，どきっとする心的性質の表れも麻痺している。誰かが傷つけられているのを見たら，己れの無力感におののく。他者の苦の前に自分ももだえる。不実行で自分を責めているのではない。「霊性」が敏感に反応しているのだ。いわばその感性が枯渇していない人は動き出す。「ところが，旅をしていたあるサマリア人は，そばに来ると，その人を見て憐れに思い」，と同じセンサーが働くにちがいない(ルカ 10:33)。無名の宗教者が大悲を継続している痕跡は，阪神・淡路大震災，東日本大震災，近年の被災地に顕著であろう。「右の手のしていることを左の手に知らせてはならない」，という勧めゆえに目立たないだけである(マタイ 6:3)。宗教系メディアも，日刊紙と同様に，神学者(学者)，大きな教団，教派(行政機関)や，被災地で布教(ビジネス)に成功している数字中心の成果に偏っていまいか。家族，家屋，仕事を失った被災者にとり，何が必要かあまりにも鈍感である。苦悩が活字になっていない。新自由主義経済は困窮生活を余儀なくされている貧者の呻きを黙殺している。どんな展開になってきたか。流れを考慮しよう。新自由主義経済政策 ⇒ 階級格差 ⇒ 貧困 ⇒ 苦難 ⇒ 悪に至った。染まった社会へと人間を貶めた。巨悪の権化がさらなる不幸の波をもたらす。「私たちの戦い πάλη は，人間に対するものではなく，支配，権威，闇の世界の支配者，天にいる悪の諸霊に対するものだからです」にあるエクスーシアに対するパレー *pale*＜戦い，格闘，組打ちの意＞に志願(ボランティア)した兵士でもある[66](エフェソス 6:12)。

2019 年 10 月 12 日，台風 19 号が千葉，福島県，宮城県を襲った。災害からの立ち直りのため，最初の緒に就くことは，「家助」による家具搬出などの現場にある。次に，近隣との相互扶助，団結という共生である。三番目に，内面のリアリティーを回復するためボランティアが現場で取りかかる「はたらき」は，喪失しかかっていた「家助」である。相互扶助，団結というリアリティを回復することが命題になる[67]。

なぜ実家が古今未曾有の困難，試練，再起不能に陥っているにもかかわらず，子どもたちは都会から帰って来ないのか。ドロ出し，がれき処理，使えなくなった家具などの搬出を手伝わないのか。帰郷しない言い訳をコロナウイルスのせいだと今は理由にしている。そうではない。たとえコロナ禍が終焉しても大きくは変化しないだろう。本稿の目的である共生社会を目指すために何が問題かについて，最初に，歴史的

---

[63] 東アジアにおいて，歴史上統一した世界帝国ができなかったこと。中国と韓国の主流は大陸の農耕文明，儒教文化，大乗仏教。モンゴル，チベット，寧夏回族自治区は内陸アジアの遊牧文明で，イスラーム教，ラマ教を。島国の日本は西洋の海洋文明に近似，独自の神道。『普遍的価値を求める』(許紀霖・中島隆博・王前 法政大学出版局 2020 年 28-29 頁)。

[64]『法然上人全集』(石井教道編 平楽寺書店 1997 年 460 頁)。①戒学(戒律)・②定学(じょうがく)(心を安静に)，③慧学(えがく)(知恵)の三学のこと。『岩波仏教辞典』(同 310頁)。

[65] 学歴分断線がある限り，希望を持てない層がいつまでもある。日本は子どもを大卒にできる勝ち組家族と，大卒にできない負け組家族に分化する「格差社会」の到来を予測する学者もいる。『学歴分断社会』(吉川徹 ちくま新書 2009 年 190,209 頁)。

[66] 拙論『キリスト教とボランティア道』(宗教者災害支援連絡会[宗援連] 東京大学 2015 年 20 頁)。“帝国陸軍は国家に忠実な兵士 soldier を成しましたが，一方，中野学校は「志願兵，義勇兵」volunteer の養成機関でした。”

[67] 拙稿「台風 19 号ボランティア報告」 2019 年 10 月 11-17 日 http://kisokobe.sub.jp/article/15302/

検証をしてきた。次に，道徳的価値への覚醒。つまりコロナ後の価値観について挑戦しなければ，底辺の人々に光は当たらない。底点志向が求められよう。

立身出世主義

生まれ育ったふる里を襲う災害。そこで育ててくれた親は年齢も増し，若い時のようには，動けなくなっている。被災したというのに，家族関係が疎遠になっていないだろうか。ボランティアで被災地を訪問して，痛感することがある。団塊の世代は，「ここにかつて映画館があったべ」，と喫茶店，ブティック，娯楽施設，繁華街が消えたと語る。懐かしく追憶を語る。限界集落と都会，シャッター通りとモダンなアミューズメント，子どもの声が聞こえない公園と通勤・通学ラッシュのコントラストは過疎，高齢化，少子化の悲劇の産物だ。

いつ変わってきたのか。災害後，自己責任の冷たい風潮は「立身出世主義」[68]によって近代化，天皇国体の中心帰一，脱亜入欧に拍車をかけた。並行して，伝統宗教も沈滞している。

日本では，明治維新以降，価値観が立身出世主義となる。青年の世界観に最も大きな影響を与えた著作は『学問のすゝめ』(福沢諭吉 1872[明治 5]年)であろう[69]。「天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らず」と，一見，平等を説くように思える。しかし，元はと言えば，福沢が米国の独立宣言を下敷きにしたものだ。オリジナルではない。「……に人を造らず」に「と言えり」が続く。アメリカ独立宣言に大きな影響を与えたジョン・ロック[70]の生命・自由・幸福の私人論を継承した。つまりアメリカン・ドリーム＝立身出世主義である。人は，生まれながらに，貴賤貧富の別なし。ただ，良く学ぶ者は，貴人となり，富人となり，そして，無学なる者は，貧人となり，下人となる。だれであっても勤勉に励むならば，立身出世できるというのが福沢の営為であった[71]。競争社会，富国強兵政策，階層社会の柿(こけら)落としになった書籍のひとつである。福沢は言う。「世の中に無知文盲の民ほど憐れむべく，また憎むべきものはあらず」，という「天は人の下に人を造る」，という思想家であった[72]。闇の部分に覆いをしたままではいけないだろう。立身出世主義の残滓に，明治から平成の初頭にかけて，学校の卒業式で歌われてきた『仰げば尊し』がある。「身をたて名をあげやよはげめよ」という歌詞にも表れている。生まれ育った家を出て，一旗を揚げることが一人前の証明になった。勤労青年たちは田舎を離れ，不馴れな都会生活になった。疎外感，機械化，孤独を埋め合わせてくれたのが組織，新々宗教，伝統宗教だった。男性だけでなく，結婚の対象となる異性がいる生活圏の東京へ民族移動が行われていった。故郷に錦の旗をあげるという成功組はほんの少数にすぎない。「うさぎ追いし」の故郷と異なる生活スタイルに順応していった。

「自助・共助・公助」

若者はいなくなった，先祖から守ってきた里山，里海，田圃(たんぼ)にしがみつくのは高齢の者ばかりである。農・林・漁に後継者はいない。自分たちの世代で終わろうと覚悟している。そこへ災害が牙をむいた。

「共助」とは，「地域や仲間，みんなで助け合う」こと。総合地球環境学研究所所長の山極寿一は，「農業は共感力を高め，共助の精神を醸成する仕組みだった」[73]，と共同体のきずなに寄与していたと言う。

---

[68]「立身」とは，元々「立身行道，揚名於後世，以顯父母，孝之終也」(『孝経』)(身ヲ立テ道ヲ行ヒ，名ヲ後世ニ揚ゲ以テ父母ヲ顕スハ，孝ノ終リナリ)から来た儒学の用語。

[69]『学問のすゝめ』(福沢諭吉 岩波書店 2021 年 11 頁)。

[70] ジョン・ロック[1632-1704] 英国の哲学者。『統治二論』によってアメリカ独立宣言，フランス人権宣言にも大きな影響を与えた。アメリカ独立宣言の執筆者のひとりであるトーマス・ジェファーソン[1743-1826]「アメリカ建国の父」。第 3 代大統領(在任 1801-09)たちから福沢は受け継いだ。

[71]『諭吉の愉快と漱石の憂鬱』(竹内真澄 花伝者 2020 年 37-40 頁)。

[72]『福沢諭吉の戦争論と天皇制論』(安川寿之輔 株式会社高文研 2006 年 328-330 頁)。

[73]『朝日新聞』(2022 年 2 月 10 日付)。拙論「キリスト教とボランティア道」(第 26 回宗教者災害支援連絡会 東京大学 2016 年)。

日本には，互酬(ごしゅう) Reciprocity(レシプロシティ)というボランティア精神があった。貧しい人の軒下にそっと食べ物を置いておく。「陰徳」という助け合いも珍しくなかった。「陰徳」[74]が「互酬」へと発展した。たとえば，田植えに協力してもらえば，刈り入れの時は手伝いにいく‘お返し主義’だ。3.11直後，日本中が金銭勘定や自己責任とやらを脇に追いやって，と人のつながりに目覚め，「私も役に立ちたい」との思いを強くした。市場経済や交換経済のなかで生きていたはずの日本人が，突如，贈与と互酬の経済に復帰したかの感があった。交換原理が支配する現代社会では，エクスーシアは危急の際，各人が身を守るのは「自助」だと自覚させる。そのため各人は営々と貯蓄に励み，致富をめざす。頼りは金のみ。そう思わされてきた。これに対して互酬の経済社会では，いざというときモノをいうのは貯えでない。援助のネットワークつまり「互助」「共助」である[75]。津波ですべて流失したあと，被災者にとっていちばん心強かったのは「金」ではなく「絆」であった。

高度成長時代となり，地方から大都市へ働きに行く若者が増えた。核家族化し，大家族制を維持し，子供が親の面倒を見ることは実質的にできなくなった。「町内会」自体は「大政翼賛會」の下部組織として誕生した[76]。南京大虐殺[1937 年 12 月]には，町内会こぞって提灯をもって行進し祝ったりした。町内会はそれまであった隣近所が助け合う「隣保」という良き風習を吹き飛ばしてしまった。町内会でも貧困に陥った家庭を経済的に支縁することはない。慶弔時の支払い，重病人が出た時に，看護，介護できる施設を紹介したりするのがやっとである。今日，民生委員のはたらきも青息吐息である。身寄りのない人の面倒は社会全体で見るべきであるという声がある。エクスーシアは，ひとつに「共助」である公的年金制度があるではないかという。しかし，年金は恩給から移行したとはいえ，戦争の影をひきずっている[77]。「公助」とは，市町村や消防，県や警察，自衛隊といった機関による救助・援助である。

つまり台湾と中国の間で，魚釣島，尖閣諸島で，ウクライナのように戦争勃発になるとき，公助である年金が制度として機能する。戸籍制度，年金制度，徴兵制度は同根である。大家族，隣保，社会でもっとも恵まれない人を最大に配慮するのは「国家」の思惑のトップダウンでは機能してこなかった。2012 年，総務省「就業構造基本統計調査」によると非正規 2012 万人(38.0%)。内訳 55-64 歳 419 万人，パート 967 万人，アルバイト 414 万人，契約社員 289 万人である。浄土真宗大谷派僧侶の川浪剛(たけし)[1961-][78]に，2013 年 5 月 27 日，「『死』を考える」講座[79]で「ホームレスの末路」を話していただいた。エクスーシアは過疎，高齢化，少子化をむしろ増産してきただろう。困ったときに，お上も無策，町内会も人手不足，家族もいない中で，災害をどうやって乗り切るのか。2017 年 6 月，ボランティア受け入れの窓口になる社会福祉協議会は，東日本大震災後にできた災害ボランティア支援団体の全国ネットワーク JVOAD(Japan Voluntary Organizations Active in Disaster)と連携した。感染拡大防止のため「県外お断り」の方針を打ち出した[80]。「家助」がない独居の高齢者のことを度外視している「悪」の取り決めだ。

2020 年 7 月 4 日，球磨川氾濫による 50 名の死者。約 1,020ha，約 6,100 戸の泥の被害があった際，わたしたちは熊本県芦北町の町長室で地図を広げていただき，被害状況を聞いていた。芦北町の吉尾地区に一件しかない医療施設。そこもドロで覆われて診察，治療，薬剤は崩壊していた。

権威者が人権を犠牲にして国の利益を優先すると，「国，破れて山河あり」(杜甫の律詩)が再現される。

---

[74] 拙論「キリスト教とボランティア道」(同)。

[75] 山田鋭夫(九州産業大学経済学部教授 生活経済政策 2011 年 10 月号掲載)。

[76]『無縁社会の正体』(橘木俊詔 PHP 研究所 2011 年 136-139 頁)。

[77] 公的年金は戦争の影を引きずっている。古代ローマ時代に，退役後の生活保障，傷痍軍人，戦没者遺族の生活保障だった。日本では 1873[明治 6]年の徴兵制制度が敷かれやいなや，農民はこれに反対して各地で一揆を起こした。「徴兵告諭」で徴兵を血税と称したので，血税一揆が全国的に起きた。懐柔策として，2 年後に軍人恩給が出された。「公助」は約 150 年，戦争と二人三脚で続いてきた。1986 年に国民皆年金と受け継がれた。「明治の有能ではあるが専制的な官僚が，……徴兵軍隊は，老獪で先見の明をもった人々の手に握られて，強力な政治的武器となった」(『日本の兵士と農民』(E.H.ノーマン 大窪愿二訳 岩波書店 1958 年 81-82 頁)。こうりょ

[78] 川浪僧侶は日雇労働者の父をもち，自らは不登校や路上生活を経験するなど，釜ヶ崎で「行旅死亡人」，「無縁仏」を手厚く葬ってきた。

[79]「『死』を考える」講座 http://mamowth.com/

[80]『毎日新聞』(2021 年 3 月 5 日付)。湯谷茂樹編集者から，ボランティアの実体についてインタビューを受け，6 段記事となった。

災害大国といわれる日本で,「ポストコロナ」, 医療崩壊, ウクライナ戦争後に, 社会の共同体の共通善について, どうすべきかが本稿の課題である。

アフリカなど被災各地を巡る時, 現地の人たちの生活に溶け込めば溶け込むにつれて, 日本人のせかせかした生き方に気づかされる。日本の効率, 能率, 便利さの短所, 欠陥, 異常さは不健康症状である。

2020 年 1 月, 10 回近くのトランジット(乗り換え)を経て, 飛行機でおよそ 38 時間, バスは約 15 時間でガーナ国ワに到着する。ワでの孤児の家(「カヨ子基金」)の開所式の後, タンザニアに向かった。その前の年 6 月, エチオピア航空はガーナ国アクラからアジスアベバで乗り換える予定が, エンジントラブルによって, 進路を変更し, ザンビア国に向かった。首都ルサカで一泊せざるを得なくなった。航空会社が宿泊, 食事を負担。空港カウンターでおよそ 300 名は長時間, 並び疲労困憊の途方にくれた。足止めになり, 空港で日本行きの便を探すが, 長蛇の列である。エチオピア語, アフリカ各国の言葉, 英語のスクランブルでどこの航空会社のカウンターも子どもの泣き声, 払い戻し, 他の便探しで騒然としている。立ちづくめで, 老いも若きもうんざりという表情である。国籍, 年齢, 性別に関係なく初対面でも, 目で話し出す。いわゆる非言語コミュニケーション[81]だ。いつ何が起きるか, 人間は予測できない。列で順番を待つ。

無知で愚かな議論の失敗談

伝道熱心なアフリカ福音派系の宣教師が盛んに,「そして, この御国の福音はすべての民族への証しとして, 全世界に宣べ伝えられる。それから, 終わりが来る」, と列の前後の人たちに, 英語で伝道を始める(マタイ 24:14)。小さな新約聖書を片手に, 黙示録の青い馬, 赤い馬について口角泡を飛ばしながら語る。交渉に疲れ切っている多くの人たちはだれも真剣に聞こうとはしていない。時間つぶしと言えば, 失礼だが, 30 歳前後のエチオピアの宣教師に,「千年王国が間近である, と言うグループはいつの時代もいたのではありませんか」, と私は放った。相手は急に柔和な表情になった。わたしを良き求道者と思ったのだろう。次々と暗誦している聖句を繰り広げる。悔い改めて, キリストを信じ, 回心するように迫ってきた。米国や韓国式のファナティックな伝道スタイルがそこにあった。日本でも, 末日聖徒イエスキリスト教会, ものみの塔協会, 顕正会など, 熱心な布教グループもある。東日本大震災直後に, 仙台でも「キリストを信じなければ地獄へ落ちる」, と拡声器の音量をあげていた。宮城県丸森町に本部がある集団生活をするキリスト教グループである[82]。見聞きする群衆には違和感, 奇異, 狂信的としか映らないだろうに, と臍(ほぞ)をかんだ。彼らの配布する資料に登場する既存のキリスト教会の聖職者は牙や角があり, 明らかにサタン側と描写している。わたし自身がエホバの証人であった時, 同様に十字架の立つ教会を敵視する二元論[83]思考であった。わたしは, エホバの証人神戸市明舞(めいまい)会衆で, キリスト教会を廃会にするために 40 歳近くまで, 他の宗教には救いはないと伝道に明け暮れていた。話が脱線してしまった。本論に戻そう。4 時間も空港のロビーで立ったままなので, 宣教師に少しだけ自らの聖書観を証しすることにした。立て板に水のごとく語る宣教師に, 一瞬の間をすかさず捕らえて, 申しあげた。「イエスは農夫であって, 西暦一世紀にすでに 4 種類の土に種を蒔かれたのではありませんか(マタイ 13:3-9)。伝道より, 収穫こそが宣教の目的ではありませんか」, と放った。論争するつもりではなかったが, 相手の目の色は一瞬, 情熱がひるんだ。私はひるまず続けた。「『しかし, 私は言っておく。目を上げて畑を見るがよい。すでに色づいて刈り入れを待っている』, とキリストがおっしゃったのは, 人々を回心させる種蒔きより, 収穫と示唆されていませんか」, と(ヨハネ 4:35)。彼はしばらく押し黙った

---

[81] 非言語コミュニケーション　表情や視線, 姿勢など「動作で表れるもの」と, 声の大きさや話す速度など「言葉を発する際に表れるもの」, また, 相手との間にある距離感のように「空間に表れるもの」。

[82] 宮城県丸森町に本部を置く。全国にキャラバン隊を差し向け, 正月など, 神社や人の集まるところで, 参拝者が多い時に, 拡声器を用いながら録音したメッセージを流し続ける。親のいない子どもを引き取り, ホームスクールで教育する。語学なども身につけさせ, 大人になり, 海外で伝道活動ができるように訓練する。「聖書配布協力会」という団体名がある。看板設置と伝道のため, 3 ヵ月交替制で 50 人ずつのチームが, 俸給を得る仕事をする部隊と二手に分かれて活動。拙論『「キリスト教と災害―第 106 次東北ボランティア報告―」』(2020 年 5-6 頁)。http://kisokobe.sub.jp/tohoku/15939/

[83] 拙稿『目薬』誌 No.23 (2001 年 3,5 頁)参照。

が，切り返した。「それでは，信じたことのない方を，どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない方を，どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がいなくて，どうして聞くことができるでしょう」，と自信を取り戻しどうだと言わんばかりに持論を語った(ローマ 10:14)。次のように応えた。「ありがとうございます。よく聖書に精通しておられますね。ところで，文脈はどう書かれていますか。10 章の 20 節をお読みいただけますか」，と尋ねた。相手が読み終わったことを確認してから，言った。「私を求めない者に 私は見いだされ 私を尋ねない者に現れた」，と書かれていますね。宣教師に語りかけた。「あなたは聖書をたくさん暗記し，おそらく試験に合格なさり，伝道し，信者をふやしておられる方なのでしょう。しかし，キリストが誰かを回心させた記録は聖書にはないのではありませんか」。すると最後の信仰の砦を守るように，「ノー，イエスを信じて，洗礼を受けなければ救われません」，と得意満面に告白した。「はい。ところで，パウロは，『キリストが私を遣わされたのは，洗礼(バプテスマ)を授けるためではなく』と言いませんでしたか，また『クリスポとガイオのほか，あなたがたの誰にも洗礼(バプテスマ)を授けなかったことを，私は神に感謝しています』と証ししていませんでしょうか(Ⅰコリント 1:17,14)」，と続けて，「たとえ伝道する者がいなくても，神様は石が叫ぶように導かれる方と考えるのはまちがっているでしょうか。呻き，苦しみ，貧しい人々に現れる救い主が必要ですね。別にキリスト教会に行かなくてもお会い出来るのではありませんか」，と言い終わらない内に，彼は人混みの中で見えなくなってしまった。

自分の知識をひけらかしたことを痛烈に悔いた。なぜなら論駁することは，「愚かで無知な議論を避けなさい。それが争いの元であることは，あなたも知っているとおりです。主の僕たる者は争わず，すべての人に優しくし，教えることができ，よく忍び，反対する者を柔和な心で教え導かねばなりません」を忘れている所業であったからだ(Ⅱテモテ 2:23-25)。

この個人的な体験は知識の自慢のために分かち合っているのではない。「知識は人を高ぶらせるのに対して，愛は人を造り上げます」通りである(Ⅰコリント 8:1)。宗教者ならば，エクスーシアと同じスタイルで上からものを申すべきではない教訓である。いつもへりくだって，弱者と共生していく必要があろう。我の思い上がりと愛のなさに落ち込んでいたとき，ホテルへのバスに乗り込んだ。失敗をなだめてくれたのは，タンザニアへの招待だった。空港カウンターでタンザニアのダラリ・ピーター・カフム議員や，ネルソン・アンソニーと知り合ったことである。タンザニアの孤児を紹介してくれるそうな。道が開かれた[84]。実りのない論争をした後味の悪さのいやしとなった。ザンビア訪問，1 日余分に遠回りをしたおかげで，思いがけない友人ができた。速い飛行機，スムーズな乗り換え，ゆとりのない足早の行程では会えない人たちとの出合いが生まれた。

共生

SNS 普及，食事時間の不一致，家族団らんの思い出は極端に減り，核家族，単身世帯が当たり前になっている。2022 年 1 月 10 日，雪が舞う中，熊本県球磨(くま)郡相良(さがら)で田起(たおこし)の後，人吉市にある国宝青井阿蘇神社の福川義文宮司にあいさつをした。正月 3 日間は 6 万人の初詣でにぎわった[85]。相良 700 年の歴史がある。小京都と言われる人吉市に喫茶店，映画館はない。地元では「青いさん」と人吉市近辺の人たちの心のよりどころである。「節分」などは祝わないそうだ。「鬼は外，福は内」のように，排除する行事は神の教えにそぐわないとのこと[86]。他の宗教も見習うべきだろう。さらに，神社の立石芳利氏から賽銭(さいせん)の意義について聞いた。神様が食べる米などの供え物の代わりに後代になって，賽銭箱に米の代わりに銭を献じる散銭を入れるよ

[84] 拙稿「タンザニア・ボランティア」(2020 年 1 月 4-8 日) http://kisokobe.sub.jp/international/16189/
[85] 季刊誌『支縁』No.38 (神戸国際支縁機構 2022 年 2 月 1 頁)。
[86] 「みんなで語ろう 鬼は外」(『朝日新聞』読者のオピニオン 2020 年 2 月 1 日付)。“異端の存在を許容しない心” 心の奥底に容易に絡みつく差別，偏見，排除観はヘイトスピーチ(憎悪発言 hate speech)につながる。

うになった[87]。それは供え物を神と一緒に食べるのが目的であると説明を聞いた。神と共食すると聞いて，ガリラヤ湖畔でキリストと群衆の共食の場面を思い浮かべた。本田哲郎訳の見出しには，「痛みを共有し，荒れ野でわずかな食べ物を分け合って，五千人が満ち足りる」とある[88]。また創世記でアベルの献げ物は神の取り分として神が食べたと考えてみるとよい[89]。共生を意味する英語シンビオウシス（Symbiosis)は，ギリシャ語 **σύμβιωσις**（σύν スン〈共に〉+βίος ビオス〈生きるの意〉）から派生した[90]。シンビオウシスは，異なる生物種間の相互依存関係，相利共生，相互に利益を得る営為のことである[91]。社会学者の村田充八は，「共生」を「死に支え」と置き換えて論及している[92]。米国の社会思想家イヴァン・イリッチシンビオウシスが述べる「共生」コンヴィヴィアリティ Conviviality の視点を取り上げた村田の視点から教えられた。コンヴィヴィアリティの語源はラテン語convivium（con〈共にの意〉+ viviere〈英 語の live「生きる」の意〉から由来している。社会における個人とグループ間の相互協力，特に，生態学的な相互依存が含まれるトポスに「炊き出し」という文化的共生[93]があるだろう。人々が祝祭や毎年の宗教的な祝いに集まって共に食事をしている。毎週木曜日，2014 年 4 月から，炊き出しをしている。路上生活者と共食する。そこは「神の国」である。最も小さくされた兄弟たちが炊事，調理，運搬をして仕えている。「神の国は，飲み食いではなく，聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです」，と示されている。飢餓，貧困，戦争の危険性がない千年王国のような物理的な新世界を「神の国」と言っているのではない。「義」，「平和」，「喜び」といった霊的，不可視性，超越的な森である(ローマ 14:17)。「それは待ち望むことでは来ない。それは，『見よここにある』とも『見よあそこにある』とも言えない。そうではなくて，父の王的支配は，この地上に広がっている。そして人々はそれを見ないのだ」(トマス 113)。

シンビオウシスのビオス(生命)は，人間，生物，植物を生かしている。神の国，浄土ではビオスが **ζωή**（ゾエー いのち)に転換する[94]。ゾエーは肉体の中に吹き込まれた神の息により，生きとし生けるもののいのちである。

マルチン・ルーサー・キング[1929−1968]牧師は，I have a dream.と言った。もはやヘイトが見当たらない「義」，欠陥，短所も見出されない「平和」，アラー，仏陀，キリストが共生し，臨在(パルーシア)の「喜び」の満ちた世界である。

時間に制約されない旅

ネパール，バヌアツ，トルコでも，同様の体験をした。バス，乗り合いタクシー，リクシャー[95]で移動する時間，空間の拡がりは無から有を生じる真理契機と言える。バベルの塔の現代版「リニア[96]」，「コンコルド飛行

---

[87] 神仏に献げる供物の一つ。神前に米を撒く散米，あるいは洗米を紙に包んで備えるオヒネリであった。宮城県石巻市渡波の大國龍笙宮司は毎年，「新嘗祭」で一緒に飲もうとわたしを誘う。11 月の稲刈りの収穫祭である。天皇が新しい穀物を神と共に食す，という祭り。イスラエルの大祭司と大國宮司は同じはたらきであろう。『神道辞典』(鯉渕友南 國學院大學日本文化研究所 弘文堂 1999 年 204 頁)。

[88] マタイ 14:13−21,マルコ 6:33−44,ルカ 9:11−17,ヨハネ 6:1−13 など。権威者が『仕える』べき神とは，言うまでもなく，救いの歴史を通して現された神，『低く下って天と地をご覧になる』神であり(詩 113:6)，「民の苦しみをつぶさに見，追い使う者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き，その痛みを知った」神(出 3・7)にほかなりません。それは，神の言葉 イエス・キリストを通じて示された小さくされた者の側に立つ神と同じ神です。したがって『神に仕える者』は，この神が立っておられるところに自分も立つように心掛け，同じ視点を持って，苦しむ人々の痛みを共感するところから全てを判断し，行動を起こす人のはずです，と。

[89]『自然の問題と聖典一人間の自然とのよりよい関係を求めて』(編集者樋口進 平林孝裕 キリスト新聞社 2013 年 134,153−156 頁)。

[90] "A Greek-English Lexicon" Henry George Liddell & Robert Scott, Oxford at the Clarendon Press, 1968 p.1675。

[91] "Webster's Third New International Dictionary of the English Language Unabridged" Philip Babcock Gove Merriam-Webster Inc. USA 1993 p.2316。

[92]『キリスト教と社会学の間』(村田充八 晃洋書房 2017 年 240−243 頁)。イヴァン・イリイチ［1926−2002］オーストリア生まれ哲学者。1950 年頃に研究のために立ち寄ったニューヨークでプエルトリコ人のスラムに遭遇。ニューヨーク司教に願い出てプエルトリコ人街の教会の神父として赴任(1951 年)。当時，アメリカ最下層で暮らすマイノリティーの人々のために奔走する。ウィキペディア。

[93]『ユダヤ教・キリスト教・イスラームは共存できるか――神教世界の現在』(小原克博 同志社大学一神教学際研究センター 2009 年 322 頁)。

[94] ビオスは，「寿」(生命)，ゾエーは「無量寿」(量りしれないいのち)と考えたらどうだろうか。『中村大辞典』下巻(1649 頁)，同中巻(754 頁)。

[95]「人力車」を語源とする人力の乗り物，もっぱらインド，ネパールで見かける安価な乗り物。拙稿『ネパール大地震 神戸から第 1 次救援 Nepal』(2015 年)。http://kisokobe.sub.jp/international/6989/

[96]「悪夢」を実現してはならない。リニアは原発と同様，総工費 9 兆円で一握りの関連企業を潤すだけ。地方の経済をどん底に突き落とす悪政。拙論『キリスト教とボランティア道』(同 13 頁)。

機[97]」，秒速を競う乗り物ならば，ボランティア道ならではの思いがけない「対話性」が生まれない。巨大プロジェクトリニア建設では区間の 86 パーセントがトンネル。2004 年に，上越新幹線を脱線させた地震 M6.8 規模が，乗車中に起きたらリニアは大惨事になろう。だれも避難できる術がないからだ。「公共事業」の専門家橋山禮治郎[れいじろう 1940-][98]は警告する。リニアは安全性失格である。国家 100 年の愚策だ。世界中でどこにもない超伝導磁気浮上式のリニア計画は，形骸化した審議会の答申を受けた国土交通相大臣の一存でいとも簡単に承認された。閉鎖性について憂慮すべきではないだろうか。新型コロナウイルスと同様，リニアについて御用学者[99]がコメンテーターになり，エクスーシアに対し批判しないならば問題である。超音速機コンコルドの二の舞になることがあってはいけないからだ。コンコルドは英仏のエアラインが共同で開発した。音速の 2 倍近い最高速を誇る旅客機。1969 年に初飛行。1976 年から 2003 年まで定期運行だったが，墜落事故により，環境対応性において安全性，低騒音，低燃費に失格であったことが判明した。

1910 年頃，ガンディー[1869-1948]は，「鉄道なんて要らない」と言った[100]。今，スピードの結晶の一つである「デジタル化」が地球を滅ぼすという声もあがっている[101]。

災害時の「自助・共助・公助」についてニューヨーク市立大学リーマンカレッジの哲学の教授ナオミ・ザックは，『災害の倫理』を著した[102]。

ザックは，窮極の選択が求められる状況において，義務論と帰結主義のいずれを選ぶにしても，正しい決定かどうかは，参加者とリーダーの徳に対する私たちの信頼度に依拠する，と述べる。さらに，徳は，長期にわたる行動の傾向性・性格特性であり，生得のものではなく習得されるものである，と追記する。

「ポストコロナ」にあって，歴史の真実が，人類の価値観を樹立する責任を迫る。これまで自国のみならず，世界の政治，経済，社会などに関して，エクスーシアを行使する政治的課題の歴史的反映を考慮してきた。次には，権威者，権力者，産(事業者)，官(県・県警・県教委)，学(学識者・医療関係者)，民(青少年団体)，言(新聞，テレビ)の「徳」を論じたい。コロナウイルス後の人類がどのように生き残るかの成否は心であろう。

(2) 普遍的価値　道徳的課題

a. 道徳は国家以上の価値

コロナにより息をひきとる。あの世に行く。己が「徳」故に，罪が帳消しになって，天国という憩いの汀で生きる保証はあるのだろうか。此岸(現世)で念仏三昧(しがんざんまい)，難行苦行の禊(みそ)ぎ，善行によって達成できるとだれが言えよう。聖書にある「保証」(ἀρραβών アッラボーン 語源はセム語[103])とは，売買をするにあたって，売り買いを完了することを誓う，一部前払い金のこと。完全支払いを保証する前払い金の解釈がある(Ⅱコリント 1:22，エフェソス 1:13,14)。書かれた書面によってではなく，聖霊が契約を実行する保証をする，とキリスト者は理解してきた。

---

http://kicc.sub.jp/2016/05/02/%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%E3%81%A8%E3%83%9C%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%86%E3%82%A3%E3%82%A2%E9%81%93/

[97] コンコルド墜落事故[2000 年 7 月 25 日超音速旅客機 113 名死亡 生存者 0] エール・フランス 2003 年 5 月コンコルドを終了，ブリティッシュ・エアウェイズ 2003 年 10 月 24 日にコンコルド退役。

[98] 経済学者。アラバマ大学名誉教授。専門は政策評価，公共計画。『リニア新幹線 巨大プロジェクトの「真実」』(橋山禮治郎 集英社新書 2014 年 147,186 頁)。

[99] 拙論「レビヤタンの正体(2)」(2020 年 4,6 頁)。“公共事業推進の御用学者からダム賛成，リニアが日本を救う，宇宙開発が益になるとさかんにテレビ，SNS や書籍などで聞いたとしても，日本全体が立ち止まって考える習慣を身につけなければなりません。テレビでもてはやされる学者が言っているからといって，虚言を鵜呑みにしない判断力が必要です。”

[100] 『真の独立への道』―ヒンド・スワラージ (M.K.ガーンディ岩波文庫 2001 年 60-61 頁)。人間は自分の手足でできる範囲内だけ，行き来しなければならないように生み出されている。……もし私たちが鉄道などの手段で奔走しなければ，たくさんの込み入った問題はない。……人間は鉄道を利用し神を忘れてしまったのです。

[101] “*LeMONDE diplomatique*” (Oct. 2021) Guillaume Pitron『ル・モンド・ディプロマティーク』(2021 年 10 月号 ギヨーム・ピトロン)。

[102] 『災害の倫理―災害時の自助・共助・公助を考える』(ナオミ・ザック 高橋隆雄・阪本真由美・北川夏樹訳 勁草書房 2020 年 44-45, 262 頁)。

[103] 『新約聖書釈義事典』Ⅰ(教文館 1993 年 195 頁)。

御仏に手を合わせてきた信仰者は，本源へ遡（さかのぼ）れば死後に釈尊（しゃくそん）[104]に会う希望がある。涅槃[105]は煩悩が消え失せた状態だから，神経質に思い煩うことはないことになる。人間はいつか死ぬのだ。それが今，トリアージ。エクモ（ECMO「人工肺とポンプを用いた体外循環回路による治療」血液を体外に出す特殊な治療(体外循環)なので，感染症や血栓症，腎不全など様々な合併症が起こりやすい。），自宅療養により死ぬ可能性は高く，夜も不安で眠られない。しかし過度な心配は無用であろう。

明治維新(1868 年)，福沢諭吉による立身出世主義，維新政府に登用された吉田松陰[1830-1859]の弟子たちは松下村塾で「脱亜」ではなく，「亜細亜への侵略」思想を学んでいた[106]。大久保利通[1830-1878]による議会を通さず，政策を立案，実施する官僚中心の政治，有司専制が日本の国家の骨格となっていく。民衆は立身出世主義による成功と消費が第一義的な目標になる養育，教育，成育を受ける。日本は 1930 年代にドイツナチズムの影響を受けることによって，優生思想[107]が萌芽する環境につながった。米国歴史家であるテオドール・ドライパー[1912-2006]は，「人々のうちに徳というものが一切ないのに，いかなる政府の形態であっても自由や幸福を保障するだろうなどと考えるのは幻想である」[108]，とアメリカ制度の弱点を指摘している。「徳」を考える上で，「責任」と「謝罪」の面から考慮したい。

謝罪と責任

謝罪を基準にして，徳の保持を判断すべきだろうか。アメリカに滞在した日本人から聞いた。「交通事故が起きた場合，『アイ・アム・ソーリー』とアメリカ人に言ったら，後々不利になる」から，「保険に入っておくこと，事故の客観的な証拠，証人，損害賠償を弁護士に委ねること」，と言われたが，実際は，滞米中には，アメリカ人はエレベーターなどでも迅速に，『アイ・アム・ソーリー』と言うマナーの良さをほめる内容も，他者から聞いた[109]。権威者が謝罪の気持ちを表すとき，「不徳のいたすところ」とメディアのインタビューに応える。その謝罪を聞いた民衆は「徳」が備わった政治家だと考えるだろうか。歴史的に，教皇ヨハネ・パウロ 2 世[1920-2005][110]は，「17 世紀に地動説を唱えたガリレオを異端としたことは誤りであった」，と 1992 年に認めた[111]。他に，「1204 年に起きた十字軍によるコンスタンチノープルの略奪についても」，彼は謝罪した。世界的宗教は自他の思想，宗教，価値観に敵対するイデオロギー的共同体である属性をさらけ出した。

第二次世界大戦，福島第一原発事故，コロナによる医療崩壊について，だれが謝罪したか。

エデンの園で，取ってはならないという戒めに対して禁則を破ってしまった時を想起してみよう。男性も女性も，神に対して，どのような応答をしているだろうか。女性は答えた。「蛇がだましたのです。それで私は食べた

---

[104] 日本・中国におけるサンスクリット語「釈迦牟尼仏（しゃかむにぶつ）」からの尊称。釈迦族の尊者の意であるが，おそらくは〈釈迦牟尼世尊〉の語を略したものであろう。「昔釈尊の御法とかせ給へりける鷲の御山」[撰集抄 4]。『岩波仏教辞典』(同 382 頁)。

[105] 涅槃＝ニルヴァーナ。安らぎ。永遠の平安。一切の迷いから脱した境地。絶対の静寂。心の安らぎ。(迷いから離れた)理想の境地。迷いの消えた状態。静けさ。すがすがしさ。さとり。究極のさとり。さとりの領域。さとりの境地。さとりの世界。『中村大辞典下巻』(1317 頁)。

[106] 吉田松陰は，和歌「かくすればかくなるものと知りながら已むに已まれぬ大和魂」と謳い，日本人だけが到達できる大和魂に基づく「大日本主義」を唱えた。伊藤博文，夏目漱石に影響を与えた。拙稿『第1次北海道地震ボランティア(2)アイヌ資料館も被災，「土人」として差別された歴史』 https://www.christiantoday.co.jp/articles/26062/20180926/1nd-earthquake-volunteer-report-2-yoshio-iwamura.htm

[107] 19 世紀以降，生物の品種改良を人間に適用して，アプリオリ(先天的)に障がいがあると上からのエクスーシアが生殖に介入したことに起因。外観から格付けを行なって，日本でも 1996 年に母体保護法が改正されるまで，ナチスドイツと同じ発想が産児制限・人種改良・遺伝子操作などに影響を与えている。清野謙次[1885-1955]京都帝大医学部 人骨の測定調査 石器時代人≠アイヌ 石器時代人＝日本人。石器時代人は後の進化と南北隣接の人種の混合→現代日本民族という思想につながった。倫理学，著書『風土』の和辻哲郎[1889-1960]や，民俗学者の柳田國男[1875-1962]も受け入れた。http://kisokobe.sub.jp/international/9878/ 拙稿『第 3 次バヌアツ・ボランティア報告』(2017 年)。

[108] "Hume and Madison" Theodore Draper, The Secrets of Federalist Paper No.10, Encounter 58, 1982 p.254。

[109] 「誤解(mis-understanding)を与えたのであれば申し訳ない」，とエクスーシアのある立場の日本の政治家が言う。受け手側の「誤解」を引き合いに出して自分を守るのは謝罪ではない。「謝罪なき謝罪」(non-apology apology ノンアポロジーアポロジー)である。自分がしたことの責任を真っすぐ認めることが謝罪の根幹を成す。『Newsweek 日本版』(2021 年 7 月 28 日)。「謝罪の形式を取ってはいるものの，侮辱や怒りを生み出した原因に対する責任や後悔を認めることにはなっていない声明」("The Oxford English Dictionary" 真摯な謝罪(アポロジー)になっていない無責任な"謝罪"のこと。

[110] ポーランド出身のローマ教皇「空飛ぶ教皇」。イラク戦争には最後まで反対の姿勢を貫き，ブッシュ大統領を痛烈に批判。

[111] ガリレオ・ガリレイ[1564-1642] イタリアの物理学者，天文学者。ガリレオ裁判は宗教と科学の対決ではなく，「エクスーシア」と「良識」の戦いだった。ガリレオを告発する理由は，ガリレオがエクスーシアに抗ったことだと記録から判明する。『ガリレオ裁判』(田中一郎 岩波新書 2015 年 55 頁)。

のです」(創世記 3:13)。男性の方は,「あなたが私と共にいるようにと与えてくださった妻, その妻が木から取ってくれたので私は食べたのです」(同 12 節)。「啓典の民」(ユダヤ教, キリスト教, イスラーム教)にとり, アダムとエバが人類の最初のカップルになる。その双方最初の二人が共に, 責任転嫁をしている。人類歴史が連綿と陥りやすい悪, 不正, 不徳の性向がある。歴史を知ることは, 構造的暴力を自覚することにつながる。

歴史的キリスト教とそれを核としたキリスト教的文明世界が, 環境問題に対して重大な責任を有することは否定できない。歴史的キリスト教が人間の自然支配の結果としての今日の世界危機に対してまったく無実であると言えないことは明らかである[112]。

たとえば, 原子力発電所についても平和利用と宣伝し, 積極的に祈り, 地球環境にクリーンと推し進めてきた中心がキリスト教会であった。致命的なメルトダウン(炉心溶融)についても, 責任があろう[113]。

私たちは「責任感」欠如のエートスの感化を受けて育ってきた。神仏の御前に平然と開き直っている。もちろん神仏の存在すら一顧だに惹起しない。神仏など斟酌しないばかりか, 他者に対する責任について「さて, あなたがたは, 過ちと罪とのために死んだ者であって」にあるように神の目から見て, 人間の心は曇っている道徳を体現している(エフェソス 2:1)。「悪だくみを耕す心 (אָוֶן アーヴェン *aven*＜不正の, 不義＞)+ (מַחֲשָׁבוֹת マクフシェヴォート *machashabot*＜諸々の策略を＞)」が急いで「悪 (רָעָה ラア *rah*)に走る」ようにせきたてる(箴言 6:18)。「人が心に計ることは, 幼い時から悪い(ラア)からだ」(創世記 8:21)。

「太陽の下, さらに私は見た。裁きの場には不正があり, 正義の場には悪がある」(コヘレト 3:16)。「子ども脱被ばく裁判」の会今野寿美雄代表は, “内部被ばくのリスク”を訴えた[114]。「ホット・パーティクル」(不溶性放射性微粒子)は, 呼吸, 口, 傷口などから人間の身体に侵入する。小さな金属微粒子である[115]。「消えてなくならない粒子なのだ」, 2021 年 3 月 1 日, 研究者, 医学者が小児性甲状ガンなどとの因果関係を証言したが, 福島地方裁判所は黙殺した。法の番人が科学的知見を無視した。被告である国や県を擁護した。法は本来, 善と公平さの技術と定義されていたのではないか。「今は, 人が人を支配し, 災いを招く時代である」(同 8:9)。「国家], 権力者が存在している時点で, 良い政治権力などありえない。エクスーシアは必ず堕落する[116]。「イエスは一同を呼び寄せて言われた。『あなたがたも知っているように, 諸民族の支配者たちはその上に君臨し, また, 偉い人たちが権力を振るっている』(マタイ 20:25)。

「政治(まつりごと)・權威(けんい), この世の暗黒(くらき)を掌(つかさ)どるもの, 天の處(ところ)にある惡の靈と戰ふなり」(エフェソス 6:12『文語訳聖書』), という命題に生きるならば, 生きる道が開かれよう。キリストは言った。「狐には穴があり, 空の鳥には巣がある。だが, 人の子には枕する所もない」(マタイ 8:20)。田中正造[1841-1913]は, 1909 年, 深夜, 素っ裸になり, 独り, 川で受洗。キリストと一体になり, 足尾鉱毒事件で戦う決意をした。「所有品又一物なし。恰(あたか)も広き野の中ニ裸躰して四期の気候にも無頓着ニ直立すとせバ」[117], と。弁護士の布施辰治[1880-1953]は, 人権が踏みにじられていた在日朝鮮人のために戦った。「生きべくんば民衆とともに, 死すべくんば民衆のために」,「争ふことに決心した以上は, あくまでもその決心を貫ぬくやうに結束を固めて戦ふべきで…結束の

---

[112]『環境問題とキリスト教思想』(芦名定道『日本の神学』日本基督教学会 1997 年 102 頁)。

[113] 拙論『共苦―被災地福島を訪問して』(大阪朝祷会 2014 年 9 月 18 日)。拙論 http://kicc.sub.jp/2014/10/12/%E3%83%95%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%9E%E5%8F%9F%E7%99%BA%E3%81%B8%E3%81%AE%E5%85%B1%E8%8B%A6/

[114]「阪神宗教者の会」で今野寿美雄は内部被ばくについて語った。『神戸新聞』(2020 年 10 月 27 日)。ホット・パーティクルも新型コロナウィルスも目に見えない。外出にはマスク着用をしていないと,「自粛警察」と呼ばれる市民からの攻撃対象となろう。しかし, 道ばたの砂埃の放射性物質を吸わないようにマスクをすると,「風評被害を招く」としてフクシマでは注意される。コロナ禍による感染はすぐにわかる。一方, ホット・パーティクルの吸入による健康影響が出るのは数年後, 数 10 年後である。「田・山・湾の復活」の「復活」とは,「復興」が含まれる。田中正造[1841-1913]は,「天災にあらざれバ, 回復する事を期して去らず」, と言った。『田中正造全集』第 11 巻(田中正造全集編纂会 岩波書店 1979 年 456 頁)。人災ならば, 大地に生命を戻すことが人間の責任であることを促している。したがって, 心の復興だけでなく, 治水, 地勢, 隣人愛が求められる。「隣人」とは, 人間だけでなく,「無機物, 動物, 植物, 否, 地球上のすべてと言えよう。無機物にホット・パーティクルが含まれることは言うまでもない。

[115] 拙論『女川原発再稼働は科学への裏切り』(神戸新聞会館 2020 年)。

[116]『アナキズムとキリスト教』(ジャック・エリュール 新教出版社編集部訳 新教出版社 2021 年 123 頁)。

[117]『田中正造選集 第六巻』(田中正造 岩波書店 1989 年 24 頁)。田中の行動は, 組織と共にではなく, 単身, 神の前で決意し, エクスーシアと戦う。

中へ死んでも踏みとどまるべきである」[118]，と一回限りの人生において，エクスーシアに抗うことに燃焼させた。黙想，熟考し，行為するまでに至ると轍を残した。

懺悔

日本で最も信者数を擁するのは仏教の浄土真宗。親鸞の有名な懺悔がある。「まことにしんぬ。かなしきかな愚禿鸞愛欲の廣海に沈没し，名利の大山に迷惑して，定聚のかずにいることをよろこばず，眞證の證にちかづくことをたのしまず。はづべしいたむべし。[119]」

国際日本文化研究センター元所長の山折哲雄［1931-］は註解している。自分は「愛欲の広海」に沈没する悲しい愚者である。名利の世界に迷い，本心では浄土への往生も仏のさとりの境地ものぞんではいない愚かな人間である。ああ，何ということだ。恥ずべし，傷むべし……。，と[120]。

3.11以降，わたしは神戸新聞社から連続講座「『死』を考える」を依頼された。山折哲雄［1931-］は講師のひとりであった[121]。申込み者の数は最高数であった。主催者として親鸞恐るべしという印象を持った。

親鸞の懺悔の言葉は現代人にも響く。自己否定をひびかせる懺悔の告白。このように激しい自己否定は，パウロがローマの信徒への手紙で語っている内容と同一であろう。

「私は，自分の内には，つまり私の肉には，善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はあっても，実際には行わないからです。私は自分の望む善は行わず，望まない悪を行っています。自分が望まないことをしているとすれば，それをしているのは，もはや私ではなく，私の中に住んでいる罪なのです。それで，善をなそうと思う自分に，いつも悪が存在するという法則に気付きます。内なる人としては神の律法を喜んでいますが，私の五体には異なる法則があって，心の法則と戦い，私を，五体の内にある罪の法則のとりこにしているのです。私はなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から，誰が私を救ってくれるでしょうか」(ローマ 7:18-24)。

ローマ・カトリック教会にとり，「徳」とは，「善を行う堅固な習性 habitです」[122]と教える。「習性」ということは，一回限りのものではなく，継続していく特質である。その結果，ラテン語habitus「持つ，持つようになったもの」で，「徳」(英語 virtue ἀρετή アレテー *arete*) は身につくようになる。「なお，きょうだいたち，すべて真実なこと，すべて尊いこと，すべて正しいこと，すべて清いこと，すべて愛すべきこと，すべて評判のよいことを，また，徳や称賛に値することがあれば，それを心に留めなさい」(フィリピ 4:8)。プロテスタント教会は，基本的に外典と偽典を霊感がないとして読まない。その結果，他の宗教者がたいせつにする「徳」をあまり強調しなくなってしまった。しかし，「ポストコロナ」にあってプロテスタント教会は「徳」の霊性を真剣に求めるべきだろう。さもなければ，過去の遺物のような扱いになるかもしれない(マカバイ記Ⅱ 6:31,15:12,17，知恵の書 4:1,2,5:14,8:7，シラ書 42:13,14，エズラ記(ギリシャ語) 1:40,47)。エクスーシアによって抑圧され，怒り，苦しみ，くやしさの辛酸を味わっている人々に感情移入することもなおざりになったりしてはいまいか。なぜなら自己救済で完結しているからである。もうキリストの言葉に満腹感があり，探究することもやめて日常茶飯事にかまける。「コイノニア」と言ってケーキとお茶で時間をつぶし，教会のゴシップに明け暮れる。コイノニアの語源は，本当の貧しい人，抑圧されている(oppressed)人々に，「喜んで感情移入する」すること。イエスが言った，『すべてを知っていて，自己に欠けている者は，すべてのところに欠けている』(トマス 67)。自己を知らない者は貧困であろう。。

---

[118] 布施辰治『著作集』第九巻 ゆまに書房 2008 年 346 頁)。

[119] 『顕浄土真実教行証文類』『教行(きょうぎょう)信証(しんしょう)』の略(親鸞 浄土真宗の根本聖典 1224 年成立と伝えられるが不明 東本願寺出版部 1978 年 信巻『真宗聖典』251 頁)。

[120] 『「教行信証」を読む―親鸞の世界へ―』(山折哲雄 岩波新書 2010 年 109 頁)。

[121] 平安から鎌倉の時代，比叡山や高野山の僧たちは死期を悟った最晩年，1 週間くらいの断食状態に入りました。幻覚で阿弥陀如来が近づいてきて「お前は浄土に行ける」と頭をなでられるのが理想の往生だったそうです。山折哲雄は次なることばをも流し出した。23 歳で出家した西行はこう詠みました。「願はくは花の下にて春死なん その如月の望月のころ」『神戸新聞』(2012 年 2 月 9 日「『死』を考える」講座)。

[122] 『カトリック教会のカテキズム』(カトリック中央協議会 2002 年 542 頁)。

プロテスタント教会内の信者の特有のおしゃべり会のために用いるのは非聖書的ではないか。「善を行い，良い行いに富み，物惜しみをせず，喜んで分け与える(κοινωνικός コイノゥニコス)ように」に従って，「施与における共同参与」を進んでする人に用いる。(Ⅰテモテ 6:18)。

被差別部落というアウトカースト，「寄留者」ゲル temporary, dweller new-comer 難民，路上生活者を受け入れることは，大悲＝アガペー愛に基づく。しかし，ファンダメンタリスト(聖書原理主義者)は「聖書的モラル」，「携挙[123]」，「創造説」をテレビ伝道，ラジオ放送，伝道集会などで声高に言っている。2020 年 11 月 3 日，アメリカ合衆国の大統領選でも，ある候補者[124]が選ばれないと危険だと繰り返した。再臨が近い，最高のエクスーシアであると聖書に書かれていると，訴えた。わたしには，キリスト教というより，もはやアメリカ教[125]にしか映らなかった。教会の外の人たちにとっては，アメリカ教の信者が信じる内容は，「共産主義は危険(ダニエル 11:36-37)」，「無神論者は分別がない(詩篇 14:1)」，「同性愛は倒錯行為」(ローマ 1:26-28)の繰り返しだ。そんな影響も手伝い，多くの人たちが教会出席に躊躇していないだろうか。よしんば信仰決心ができたとしても聖書の外典・偽典を読もうとしない頑迷な体質がある[126]。聖書は 66 巻で完結しているとの思考は独善的ウィルスに感染している症状のひとつと考えられまいか。考古学が発達したからではなく，何を根拠に霊感説を確立したのか，開いて，読もうとしない。1945 年まで知られていなかった「トマスによる福音書」はエジプトの地中から発見された。他の福音書にないイエスの言葉などが特徴である。キリストの道に属するなら，キリストの言葉を拒絶してもよいのだろうか。霊的心筋梗塞の症状だが本人はまともだ言い張る。アメリカ教の他の特徴のひとつをとりあげたい。「ある人たちの習慣に倣って集会をやめたりせず，かえって励まし合いましょう。かの日が近づいているのを見て，ますますそうしようではありませんか」，と礼拝のいのちなどに関係なく出席者数で一喜一憂する(ヘブライ 10:25)。聖会，伝道集会の信仰決心者数，受洗者数により，天恵を判断する。つまり数字志向である。教会を大きくできた司祭，牧師，宣教師は神に用いられる偉大な器となる。人があつまることを競うのは宗教ビジネスである。さしずめ，わたしは宣教をすれども関心をもつ人が家の宗教を捨てて，教会に来るようにはすすめしない。回心のための伝道をしない。なぜなら信仰の完成者と言われるキリスト自身が回心をおしすすめた記録がないからである。ただ「時は満ち，神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と(マルコ 1:15)。弟子たちも 70 人が遣わされたのも，回心のための布教ではないだろう。被災した限界集落に○○議員はやってこない。票数にならないからだ。それ行けドンドンの福音派の教会も貧しい人たち，路上生活者，限界集落に行かないのでは。教会の信者数の拡大に寄与しないからだ。貧しい信者はいくら集まっても，教団本部からのサポートがなければ聖職者は生活していけないだろう。聖なる「ポストコロナ」にあって，人々がキリスト教会から離脱[127]したり，寄りつかなくなっている責任について自分の懺悔として祈りたい。

---

[123] 拙論「クリスチャンが言う『再臨』てなあに」(神戸新聞会館聖書のことばシリーズ第 90 回 2021 年 12 月 1-4 頁)。

[124] 拙稿『祈りの波』(2021 年 5 月 28 日)。ドナルド・トランプ [1946-] 前アメリカ合衆国大統領。実業家。第 45 代大統領(在任：2017 年 1 月 20 日 -2021 年 1 月 20 日)の続投を主張。背後に 20 世紀最大の預言者と言われるフランクリン・グラハム[1952-] 米福音派の国際支援団体「サマリタンズ・パース」ビリー・グラハムの息子[1918-2018] 「トランプ氏こそ神から遣わされた大統領だ」『NHK』(2018 年 3 月)。

[125] アメリカ教と判断するのは，自己の宗教遍歴に基づく。アメリカ生まれのキリスト教のものみの塔協会の終末論，ファンダメンタリズム(聖書原理主義)，千年王国論の伝道によって人々を誤導した。責任を感じて，プロテスタント・福音派の終末論を学ぶも「聖書モラル」，「伝道」，「位階制」など近親憎悪によるものだと，神戸改革派神学校で気づかされた。「霊性」に無関心なアメリカ生まれのファンダメンタルなグループの信仰姿勢に失望。ティリッヒの「懐疑の神学」，「解放の神学」，「信頼して歩みを起こす」ピスティスに生きるように導かれる。拙論『福音主義神学』No.31(福音主義神学会 2000 年)。chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/viewer.html?pdfurl=http%3A%2F%2Fwww.evangelical-theology.jp%2Fjets-hp%2Fjets%2Fpaper_in_printable%2F031-5_in_printable.pdf

[126] イエスが言った，「〔父の〕国は，粉を満たした〔壺〕を担い，〔ある〕遠い道を行く女のようなものである。壺の耳(把手)が壊れた。粉が彼女の後ろ，道〔に〕流れ落ちた。(しかし，彼女はそれに気づかなかった。彼女は禍を知らなかったのである。彼女が家に着いたとき，彼女は壺を下に置き，それが空であることを発見した」(「トマスによる福音書」97)。「知らなかった女」「空」(から)とは，「無知」(アグノーシア)である人々である。一方，日本学士院会員の荒井献[ささぐ 1930-]によると，グノーシス主義者について，「人間の本来的自己と宇宙を否定的に超えた究極的存在(至高者)とが本質的に同一であるという認識(グノーシス)を救済とみなす宗教思想」荒井献[ささぐ 1930-]『トマスによる福音書』(1994 年 102-103 頁)。新約聖書学者，グノーシス主義研究者，東京大学名誉教授。

[127] 拙稿「キリスト教は無関心，自己救霊でよいのか」(『クリスチャン新聞』(2021 年 8 月 15 日付)。

妙好人

近代日本最大の仏教学者の鈴木大拙[1870-1966][128]は，「徳」について説いた。

「人間として何をするのが一番大事かというと，悪を無くしようとする努力，善を出来るだけ余計にしたいという努力，そのことに生きていくのである。その生きていく点から見ると，無限も無量も何もなしに，南無阿弥陀仏そのものになる，そいつを妙用(みょうよう)といいたいんだ。善も悪もあるところに，真空妙有(みょうゆう)とはいわないで真空妙用といいたいものがある。用といい，はたらきというところに人間の安心がある。そこに極楽があるんだ」[129]。コロナ後の人類が覚醒する道ではないだろうか。「依正不二(えしょうふに)」[依報(自然)と正報(人間主体)とは不二，即ち一体であるということ]の自然観こそ必要である。気候変動，動植物の絶滅，技術至上主義を「一(ちょっと)」立ち止まって，自己への省察としたい。松末へボランティアでお目にかかり，ご支縁いただいている浄土真宗[130]の藤 玄洋(朝倉市西宗寺)住職に現代の九州における妙好人について話を聞いた。必ずしも，高学歴，有資格，専門家とは限らない門徒の中から人々から尊崇を受けてきた「妙好人」について注目しよう。

浄土系信者の中で特に信仰に厚く徳行に富んで居る人を妙好人と云って居る，と鈴木大拙は「妙好人」について紹介している。わたしが属している教会グループ[131]はホームページで，教会の特色をキリスト教版妙好人の集まりと称している。「路上生活者(ホームレス)」，「統合失調症，分裂症，うつと言われた方々」や「ひきこもりだった方たち」で構成されている神戸で最も小さな教会である。牧師であるわたしについても一切，表彰されたこともなければ，著書も，資格もない無冠の帝王，否，奴隷[132]である。しかし，「霊性」と「宗教」の相違[133]を会得している。なぜかというと，ボランティア道の「はたらき」が妙好人のようにさせた。

妙好人の証言[134]

「ねんぶつは慚愧歓喜(ざんきかんぎ)の絶えなしの佛(ほとけ)
なみだのなせる佛。」

慚愧が即ち歓喜，歓喜が即ち慚愧—この絶間なき交錯が直ちに「なむあみだぶつ」である。「なむあみだぶつ」であるが故に，この才市はそのままで，慚愧と愚癡と間しとを意識しつつ，歓喜の佛なのである。靈性的直覺とは此矛盾を矛盾として，而かも矛盾でないと直覺することである。

這裡(しゃり)の消息はまた左記によりて窺ぶことが出来る。才市は歌ふ，

「慚愧のこゑんにあうときは，
ときもきもあさましばかり，
これがくわんぎ(歓喜)のもととなる。聯の体験である。何もあれか
なむあみだぶのなせるなり。」

如何にも矛盾に充ちた表現である。浅間敷(あさまし)い此凡夫であるので慚愧する。浅間敷いと自覚することの

---

[128] 鈴木大拙は仏教学者 西田幾多郎と出合い，生涯の友。「近代日本最大の仏教学者」(梅原猛による)。日本で最初に「霊性」という言葉を用いた。

[129]『鈴木大拙—人と思想』(久松真一・山口益 岩波書店 1971 年 155-156 頁)。「真空妙用」とは，真空，何もないところから，妙なる働きが出る。

[130] 浄土真宗(じょうどしんしゅう)の略。

[131] 超教派ブレザレン教会のホームページ紹介：「お百姓さん，木こり，漁師のように肉体労働に従事する庶民の味方です。牧師は有能でなくても，雄弁でなくても，無学であってもよいのです。初代教会のキリスト自身，弟子たちも，ワルド派やブレザレン派の初期の指導者も名もない人々でした。(ヨハネ 7:15; 使徒 4:13「無学な」ギリシャ語ἀγράμματος アグランマトスは“公認の専門教育を受けていない”の意)。」

[132]「主にあって召された奴隷は，主によって解放された者であり，同様に，召された自由人はキリストの奴隷だからです」(Ｉコリント 7:22)。
「人の機嫌をとろうと，うわべだけで仕えるのではなく，キリストの奴隷として，心から神の御心を行い」(エフェソス 6:6)。

[133] 宗教についてはどうしても霊性とでも云うべきはたらきが出て來ないといけない。すなわち霊性に目覚めることによって始めて宗教がわかる。『鈴木大拙全集第 8 巻』(鈴木大拙 岩波書店 1981 年 22 頁)。

[134] 妙好人のひとり 浅原才市[さいち 1850-1932] 島根県石見(いわみ)「日本的霊性」として鈴木大拙が世界的に紹介。『鈴木大拙全集第 8 巻』(171-216 頁)。

出来るのが御縁である。御縁がないと自覚出来ぬ。而して此自覚が即ち歓喜の本である。歓喜それ自体である。浅間敷自分―慚愧―歓喜「なむあみだぶ」，これは一らこれ，これからそれと，直線的に連鎖するのでない。何れも同時の出来事である。それが個己の意識の上で分析せられると，慚愧と歓喜と云ふ矛盾して相容れざる情性的な心象になるが，それを性の面から見ると，慚愧と歓喜，浅間敷さと「なむあみだぶ」何れもが渾融して立的或は圓環的なものとなる。この當が「南無阿彌陀佛，南無阿彌陀佛」なのである。南無阿彌陀佛が南無阿彌陀佛を喜ぶことになるのである。或は念佛が念佛を申すなりと謂つてもよい。

「この法は慚愧法，ざんぎ法なら歓喜法，

くわんぎ法ならなむあみだぶつ。」

慚愧・歓喜・「なむあみだぶつ」と，圓環(えんかん※)の端なきが如くに繋がれて居る。どれか一つが學れば，その他は自らついて上ってくるのである。

ざんきとくわかぎ，くわんぎとざんぎ――これが二つでなくて一つ，一つで面かも二つ，一即多で多即一。これを矛盾の面から見ると収拾(しゅうしゅう)すべからずであるが，さうでない面があるので，吾等の生活はつづけられるのである。それを慈悲，「なむあみだぶつ」の慈悲と云ふのである。才市の一生はいつもこの「なむあみだぶつ」が中心になって居る。

b．レビヤタンの陰謀に歯向かう　観念から実践へ

昆虫少年であったわたしは大人になっても蝶に関心があった。蝶を見るために訪れた兵庫県伊丹市昆陽(こやの)昆虫館近くに昆陽寺がある。真言宗の僧行基[ぎょうき/ぎょうぎ 668-749]は，昆陽寺院や，橋，池，救護施設を建造した。とりわけ病人に寄り添ったことで慕われている[135]。日本人から最も親しまれ，菩薩と言われている宗教者が独りで取り組んだ。いわば利他を実践するボランティア道の先輩として尊敬してやまない。わたしにはとても真似できないはたらきであった。「親(みずから)弟子らを率ゐて諸(もろもろ)の要害の処に於いて橋を造り隄(つつみ)を築くに，聞見の及ぶ所は，咸く來りて功を加え，不日にして成る」[136]。天皇に仕える官僚たちの遅刻・欠勤・職務放棄など目に余る所業の数々[137]。怠慢の役人気質は模範とした中国，朝鮮でも現代にまで連綿と続く体質があった。貧窮している病人をケアするため光明皇后(こうみょう)[701-760]の博愛精神は際立っている。彼女は 723 年以降，悲田院(ひでんいん)[138]と施薬院(せやくいん)の二つを設立したりしていた[139]。

禅宗は座禅を組み，瞑想に専心しているが，働きである。単なる静的(スタティック)な世界ではなくて，働きの中に禅がある，ということもあるかと。大拙はよく「無分別の分別」という言葉を使った。それも一種の働きの世界である。あるいは「真空妙用(みょうゆう)」とも言う。真空，何もないところから，妙なる働きが出てくる。大拙はこれを非常に愛した。そういう働きのところに禅がある，ということも物語っている。仏教で「真空妙有」という言葉がる。『般若心経』に「色即是空・空即是色」とある。空からまた色に蘇る。それを「真空妙有」というわけである。空と一つに

---

[135] 行基『行基年譜』には，行基は，「橋6カ所」，「池 15 カ所」，「堀川 4 カ所」「救護施設 9 カ所」等と記録がある。神戸の大輪田泊(おおわだのとまり)建設。「両親はともに百済系渡来人」父は「王仁」の始祖一族。(『記紀』)。5 世紀初め「百済から倭国へ渡来」し千字文や経典を伝えた。学問の祖として崇敬され，枚方市には「王仁王墓」があり，大阪市内には「王仁神社」。母方の「蜂田氏」は「蜂田薬師氏」の一族。「薬師」とは今日でいう「薬剤師」「医師」のこと。『続日本紀』に『蜂田薬師氏は百済人なり』とある。『行基』(井上薫 吉川弘文館 1963 年 9-10 頁)。

[136] 『行基』(同 37 頁)。

[137] 『古代日本の官僚―天皇に仕えた怠惰な面々』(虎尾達哉 中央新書 2021 年 17-20 頁)。天武天皇[てんむ ?-686] 壬申の乱に勝利して即位。673 年「大舎人」(官僚登用制度を創設)。675[天武 4]年 4 月 17 日に最初の肉食禁止令。縄文時代からの狩猟から農耕生活に移行する。

[138] 悲田院，施薬院では，930 年，疫病が流行した際，食料大男大女各米一升，塩一勺，滓醤(さいしょう)一合，小男小女米六合，塩五撮，滓醤五勺を配給。『慈善救済史料』(辻善之助 金港堂 1932 年 188 頁)。

[139] 拙論「キリスト教と福祉―新型コロナウィルスの救い」神戸国際キリスト教会 2020 年 4 月 19 日 5,8 頁)。極東の地にあっても，病人，弱者，貧者を顧みる「風」(ヘブライ語 רוּחַ ルーアッハ)が人々に及びました。「たとえ律法を持たない異邦人も，律法の命じるところを自然に行えば，律法を持たなくとも，自分自身が律法なのです」(ローマ 2:14)。『日本貧困史』(吉田久一[きゅういち] 川島書店 1984 年)の 16 ページには，797 年に，近畿周辺に浮浪人帳作成があったと記録されている。

なった現実(現象)の世界という。しかし，大拙は「真空妙有」ではだめだ，働きがない，働きが出てこなければダメだ，「真空妙用」まで出てこなければダメなんだと，宗教哲学の研究者竹村牧男[1948-]は解説した[140]。

ホルミシス

妻岩村カヨ子は，3.11以降，東北ボランティアへわたしを送り出し，留守の間，神戸国際支縁機構の事務所を守っていた。2016年に末期ガンのせいで，骨にまでガン細胞が浸潤して，痛みを訴えていた。兵庫県立がんセンターで腎盂癌について術後，もう治療の施しようがなかった。自宅療養で，死を待つ[141]。24時間，モルヒネ系の鎮痛剤でも激痛が和らがない。そんなとき，「放射線ホルミシス」という耳慣れない言葉を聞いた。ホルミシス[142]という考え方は1982年，アメリカのトーマス・D・ラッキー博士(ミズーリ大学名誉教授)が世界で初めて提唱した言葉。彼の書物からラドン温泉の放射線がよい，放射能をこわがるな，という福音を知った。続けて，『「放射線は恐い」のウソ』[143]の服部禎男[1922-さだお]が電力中央研究所を立ち上げたことにより，米国のエネルギー省が1985年に一定の信頼性があると確認したという内容であった。大阪大学名誉教授である中村仁信(ひろのぶ)氏[144]が書いた『低量放射線は怖くない』を読み，驚いた。彩都友紘会病院長である中村は，「少しの放射線は体にいい トリカブトも微量なら漢方薬」，「必要なかった強制避難と放射能恐怖の代償」，「福島を原発の風評被害から救え」と発信していた。家族の成員が癌診断されている場合，グッド・ニューズである。なぜなら本人の痛みに代わってあげられないもどかしさに打ちのめされているからだ。一方，その5年前からフクシマ被曝でボランティアをして低線量被ばくの危険性を繰り返し現地で見聞きしていた。小学生が学校でとつぜんに鼻血が出る，階段を登ると目眩がする，100万人にひとりと言われる小児性甲状線ガンにかかる子どもたちの数は12人(2011年6月)→43人(2013年4月)→74人(2014年2月)と増えていた。

ＡかＢかという二元論的選択は不適切であることをキリスト教会の講壇から，文章の中で，人との会話の中で一貫して語ってきた。福島第一原発5,6号機の核燃料プールで水漏れなど，耳にすると，放射能について無条件に反対してきたからである[145]。看病，家事，ボランティア道のはたらきで，肉体的，精神的，社会的に限界に追い込まれていた。自分の命を引き換えに配偶者を助けたい。それでラジューム温泉，あれほど忌避していた低線量の放射線利用など，なんでも禁令を犯してでもカヨ子から激痛なく熟睡できるようにしてあげたい。宗教者である前に，愛おしい妻のために「健やかなときも，病めるときも」，という聖約の責任が訴えてくる。今度は悪魔がささやく，「おまえをここまで一人前の男にしたのはだれだ。恩人を見殺しにするのか」，と道を歩くとき，運転のハンドルを握っているとき，骨と皮だけに痩せ細っている妻の足をさするとき，冷静な判断力が凍てついている。どんなに東北ボランティアに回数を増し加え，国境を渡河して，ネパール，バヌアツに行けたのも自分の唯一の理解者である存在があったからだ。その守護神，助け手が死人同様にもは

---

[140]『「〈宗教〉の核心」―西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ』(竹村牧男 春秋社2012年32-33頁)。

[141] 拙論「キリスト教の弔い―現代問われている死生観」(日本「祈りと救いとこころ」学会2016年)。
http://kicc.sub.jp/2016/11/07/%E3%80%8C%E3%82%AD%E3%83%AA%E3%82%B9%E3%83%88%E6%95%99%E3%81%AE%E5%BC%94%E3%81%84%E2%80%95%E7%8F%BE%E4%BB%A3%E5%95%8F%E3%82%8F%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E6%AD%BB%E7%94%9F%E8%A6%B3%E3%80%8D/

[142] ホルミシス(Hormesis)とは，「刺激する」を意味するギリシャ語のホルマオ(ὁρμάω ホルマオ *hormao*)に由来。ホルモンと同じ語源である。『放射線ホルミシス』II(T.D.Luckey 山田武訳 1992年 ソフトサイエンス社1993年36頁)。ラッキーは序で，「高令の日本の原爆被曝生存者において，がん死亡率の増加は見られない。一千万匹を用いた動物実験は，低線量の電離放射線に何の危険もないことを示している」，と記している。根拠として，1990年発行の『放射線ホルミシス―微量放射線の生物刺激効果―』の42ページで，「被曝した母親から生まれた77,000の子孫についての研究で，遺伝的影響がなかったことである。不妊，免疫力の低下，悪性腫瘍以外の死亡率の増加も，広島-長崎の生存者285,000人の中には発見されなかった。」

[143]『放射能はこわいはウソ』(服部禎男 かざひの文庫2014年)。服部は東京大学工学博士。1960年浜岡1号原発計画推進。1984年ラッキーの論文を発見。

[144] 1946年兵庫県生。大阪大学医学部卒業。同大学名誉教授。医学博士。日本放射線ホルミシス協会理事長。

[145] 拙稿季刊誌『支縁』No.13(2015年1-2頁)。
http://kicc.sub.jp/2014/10/12/%E3%83%95%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%9E%E5%8E%9F%E7%99%BA%E3%81%B8%E3%81%AE%E5%85%B1%E8%8B%A6/

や自力で立ち上がることができない。受講生たちに一緒に歌うヘブライ語授業。「レヴ タホール ベラリー エロヒーム……」[146]，喉がふさがって声にならない。受講料をもらって，生活費を持って帰る。ほほえみながら受け取る相手はいない。聖書展示館として命がけで東奔西走した神戸バイブル・ハウスからもお払い箱扱い，『目薬』誌廃刊，牧師会からもお役御免，阪神・淡路大震災以降，ゼロからはじめた教会，忠実な信徒もわたしを見捨て，去って行った。時にはたった3人で日曜礼拝をするときの空しさ。生活のための英語クラスの生徒もわずか数人になった有り様。みんないなくなった。そんな逆境にあって，自ら命を絶つことをとどめたのは配偶者であった。つかの間に，山野を一緒にドライブし，ひなびた田舎の温泉で平素の労をねぎらうことも過去時制になってしまった。兵庫県立がんセンターでは治療し尽くしたと，引導を渡された。明石にある和食の店で，楽しく夕食している途中，歩けないと発した。現実なのか，半信半疑で車椅子を借りて，車に乗せた。店の方たちは丁重に見送った。まだ夢の出来事にしか思えなかった。家にたどり着く頃には，だいじょうぶだろうと。自宅前，背筋をいつもスッとして歩く力がもう肢体から消えていた。はいつくばること，おんぶしてもらう筋力も残っていなかった。にもかかわらず顔は穏やかである。声も表情も冷静であり，どこから見ても天使のように美しかった。その差異のため，自分が何をしているのか，信じられなかった。自宅療養といってもそれからはすべてわたしがすることになった。闇に覆われた自宅。乾燥仕切った台所。週一回の訪問医師，薬を届ける薬剤師が不馴れな炊事を見て，あきれかえっていたにちがいない。その場から逃げたくなる。玄関を一歩外に出ると，ボランティアのボスの顔をしている。だが，被災地でも，家庭でも，職場でも何もできないでくのぼう。京都学派の創始者西田幾多郎(きたろう)[1870-1945]は，肉親(姉・弟・娘2人・長男)の死に遭遇した。「わが心深き底あり喜も憂の波もとどかじと思ふ」，と[147]。妻を失った寸心(西田幾多郎)は，「自分の過去といふものを構成してゐた重要な要素が一時になくなると共に自分の未來といふものもなくなつた様に思われた 喜ぶべきものがあつても共に喜ぶべきものもない 悲しむべきものがあつても共に悲しむものもない[148]」，と1927年2月9日に親友の山本良吉に手紙を書いている。「もはや私というものはないのだ」，と自失している。

日本放射線ホルミシス協会関係の学者たちのささやきに屈した。放射線が出ているホルミシスシート(ヌーシート)を購入した。妻を助けたい一心とは言え，偽善[149]，欺瞞，ペテンそのものだ。原発反対を2011年の福島第一原発事故の前から，市民運動，教会やいろいろなところで，放射能の危険性，小児性甲状腺ガンについて先頭に立って語ってきた。農法を宮城県石巻市渡波で始めた時，セシウム137と134に対して田んぼの生物が放射能物質の天敵になるかどうかの試みなど，一貫して，原発反対側であった[150]。

みんなに顔向けができない。信頼して，3.11以来，息子として付いてきている村上裕隆君，小学校時にわたしと出会って，夫婦共々家族同様になった本田夫婦。女房役の彼がいなければなにひとつできなかった。その時，2016年以来，初対面の人には，「ペテン牧師 岩村義雄です」，と自己紹介するようになった。顔を何度洗っても，自分の胸の中では，自由の簒奪者がひるむ機会をこしたんたんと狙っている。悪魔[151]，デビルは人格をもった霊者ではない。部屋の隅で，黒いマント，フォークのようなモノをもったデーモンではない。

---

[146] 詩編51編12節にメロディがついている。『マクヤ イスラエル・ソング集』(キリスト聖書塾編集 1997年105頁)。「神よ，私のために清い心を造り 私の内に新しく確かな霊を授けてください」(詩編51:12)。その文脈でダビデが吐露している。「あなたはいけにえを好まれません。焼き尽くすいけにえを献げてもあなたは喜ばれません」(同18節)。

[147] 『西田幾多郎全集 第12巻』(西田幾多郎 岩波書店 1966年188頁)。「憂」までが届かない心について，『西田幾多郎の憂鬱』(小林敏明 岩波書店 2003年109頁)には，西田自身のアイデンティティ・クライシスをさえ吐露しているのでは，と小林敏明は註解している。

[148] 『西田幾多郎全集 第18巻』(同322-323頁)。

[149] 聖書の偽善は，「言うだけで実行しない」(マタイ11:28)と，わたしは説くが，ヘーゲルは，「悪と，疚(やま)しき良心を抱えて行為することとは，まだ偽善ではない。偽善のうちには，さらに嘘[非真実」の形式的限定が加わるのである。ニムロドのようにさも敬虔であるかのように振る舞うことが詐欺の一手管であろう。使徒行伝5章のアナニアとサフィラの虚偽の例がある。『法権利の哲学』(G.W.F.ヘーゲル 三浦和男・樽井正義・永井建晴・浅見正吾訳 未知谷 1991年296頁)。

[150] 拙稿「田・山・湾の復活」(季刊誌『支縁』No37 2021年4頁)。

[151] 拙論「石の叫びに敏感であろう」(宮城学院女子大学・大学院 2017年9-10頁)。“どちらを選択するのかという揺れは悪魔からもたらされます。悪魔は外から迫害によって脅し，誘惑によって人を惑わす存在だと思っている人がキリスト者を問わず，多いでしょう。悪魔はギリシャ語でδιάβολος ディアボロス[英語デビルの語源]です。ディアボロスは前置詞のδιά ディア〈二つ〉+βάλλω バロー〈ぶつかる，突進する〉の合成語です。”

「良心が痛む」(ヘブライ語 נָכָה לֵב ヤクフ レヴ *yak lêb*＜心を打つの意＞)(Ⅱサム 24:10)。壮絶な焦燥のうずが天井，床，あらゆる隅にまで延長している。妥協できない対立のため，顎が出て，口を真一文字に閉められない。鼻ではなく口で息をしている。2011 年 3 月 20 日以降，わたしは東北の地で，津波，地震，メルトダウン(炉心溶融)の地獄絵を見てきた。不条理に亡くなった死者との対話もしてきた[152]。わたし自身が死者にとりなす霊能者とみなされたこともあった[153]。宮城県石巻市南浜町のタクシードライバーが幽霊[154]を乗せ，会話した体験を言っているのではない。原罪[155]があるゆえに，煩悩なのか。否，そうではない。偽善者の属性らしく，秋の空のような雲ひとつない晴れ間が遠のいてしまった。「色不異空　空不異色」。形あるすべてのものは形ないすべてのものに変化していくが，一方通行で折り返せない。「我，十二年の間修する所の善根，今日極楽に皆回向す」(『今昔物語』第 15-31 巻)から脱落している。深呼吸をするのだが，へそのあたりまで新鮮な空気が入ってこない。氣がよどんでいる。蛇蝎の心である。ボランティア先でひとりになると，だれもいない荒野で，雑草の先をむしりながらは地べたを這っている。いずれにしても「霊性化」をくぐり抜ける旅が続いた。

内なる人の繰り返す良心のまひ

いくら東北ボランティアで留守をして配偶者に寂しい思いをさせているからといって，言い訳にはならない。また，神がなぜ無慈悲な末期ガンの痛みを与えるのか，沈黙しておられるのはどうしてか，内心のどこかに神を讒訴していたのか，否定する内住の自分と，受容すること是認する自分を同時に行っている。分裂しているからさしずめ自己は狂人なのだ。否，そうではない。なぜなら精神と肉体が分裂しているのではないからだ。セーレン・キェルケゴール[1813-1855] は必然性の絶望は可能性の欠乏に存すると言った[156]。絶望だ。公称 22 万から 30 万人の日本人のキリシタンが根絶された。棄教を拒んだ者のうち記録に残されているだけで約 4000 名が処刑された。その日本で潜伏布教中のフェレイラ神父が転んだとの報に接し，決死の覚悟で来日した宣教師たち。全員棄教に追い込まれる拷問に次ぐ拷問。江戸の切支丹屋敷に収容された転びのキリシタン。遠藤周作は『沈黙』の中で，史実上，存在したキャラ神父について歴史小説を仕上げる。遠藤はわたしが幼児洗礼，献身式を受けた聖イグナチオ教会の信者でもあった。小説の中で，キャラ神父は，ロドリゴという名前で登場する。

「司祭は足をあげた。足に鈍い重い痛みを感じた。それは形だけのことではなかった。自分は今，自分の生涯の中で最も美しいと思ってきたもの，最も聖らかと信じたもの，最も人間の理想と夢に満たされたものを踏む。この足の痛み。その時，踏むがいいと銅板のあの人は司祭に向かって言った。踏むがいい，お前の足の痛さをこの私が一番よく知っている。踏むがいい。私はお前たちに踏まれるため，この世に生

---

[152] 拙論「キリスト教と福祉―新型コロナウイルスの救い」(2020 年 12 頁)。“宮城県石巻市を訪れた 2011 年 3 月 21 日，24 人が津波により犠牲になった地点がありました。海から約 1 キロ，伊原津地区にある精神科の病院で，1 階の天井まで津波が流れ込みました。通りかかった時，背筋が冷たくなりました。1 階で怖くて興奮して大声を出している患者の口，すごい形相の目，上の方に向かって手を挙げてもがいています。10 日経っていますから，こわれた窓の中にいるのは，もういるはずがない死者でした。”

[153] 2011 年 6 月，ボランティアの移動の時だった。石巻市の門脇小学校前を近道でとおりぬけようとした瞬間だった。夕暮れ時だ。門脇町出身だが都会に生活をするようになって戻って来ていたんだろう。独りで 40 歳くらいの女性が茫然としていた。見渡す限り家，人，何もない。高台に登れば，南の方には大津波が押し寄せて来たとおぼしき石巻湾が見える。空き地，破壊された家の基部らしき破片が無残にさらされている地面に座り込んでいる。津波で自分の家，行方不明の親，向こう一面，人，灯り，家も流されてしまったのだろう。怪我をしている様子でもなかった。
ただ茫然としゃがんでいる。わたしは近くを通り過ぎて，メンバーたちの食事を運ぶ予定だった。生い茂った雑草を払いながら急いでいた。「おっさん(東北では和尚さんのこと)，……お経を……」，ととつぜん請われた。涙のため，わたしが僧侶だと思い込んだとしか考えられない。
わたしは状況がわからないまま，とっさに，花が手向けてある前で，「摩訶般若波羅蜜多心経」と読経し出した。昼間，家具を搬出していたりしたせいか，声が口からは出ていない。腹からだ。三代目のローマ・カトリック教会で育ったから，お経など何も知らないのに。「観自在菩薩」，と口から異言を語るように言い終わった時，「非思慮底」の「無明」の境地で，向こうへ(pâaram)到達した。ネパールでもネパール語が分からないまま，高い山の中で屍を村人が焼いている場に遭遇した時，わからないままにヒンドゥー教の祈祷をみんなと唱えたカイロス*であった。
*クロノスは，流れる時間を表す time。一方，カイロスはある出来事が起きる前と後では，歴史に断絶が生じるという意味の時間を示す timing。

[154] 『呼び覚まされる霊性の震災学―3.11 生と死のはざまで』(金菱清 新曜社 2016 年 10-12 頁)。金菱清(かねびし 1975-) 大阪府生 関西学院大教授。

[155] 原罪とは，original sin ＜peccatum originale カトリック教会はオランジュ公会議(529 年 Councils of Orange)において，原罪の教義は教父アウグスティヌス[354-430]の教えであり，西方教会の重要な告白になった。「多元主義」(Pluralism)においては躓きとなる。

[156] 『死にいたる病』(キェルケゴール 斉藤信治訳 岩波文庫 1992 年 61 頁)。“信ずるというのは実に神を獲得するために，正気を失うことにほかならない”。

まれ，お前たちの痛さを分かつため十字架を背負ったのだ。こうして司祭が踏絵に足をかけた時，朝が来た。鶏が遠くで鳴いた。」

「切支丹屋敷役人日記」に，ロドリゴが自分の本当の姿を知ったとき，イエスの赦しの愛がわかったというのである[157]。

御用学者に挑んだ良識ある樫の木

首相官邸の「原子力災害専門グループ」は放射能の安全を証明しようとした。科学者は安全論，楽観論が共通しており，低線量被ばくによる健康影響は小さく，かえって健康によい影響があるという方向での研究に力を入れてきた。　　五十音順，肩書は 2011 年 8 月当時

遠藤 啓吾 京都医療科学大学 学長
神谷研二 広島大学原爆放射線医科学研究所 所長
児玉和紀 〔財〕放射線影響研究所 主席研究員
酒井一夫 〔独〕放射線医学総合研究所 放射線防護研究センター長
佐々木康人 〔社〕日本アイソトープ協会常務理事(前 放射線医学総合研究所 理事長)
長瀧重信　長崎大学名誉教授(元〔財〕放射線影響研究所理事長，国際被ばく医療協会名誉会長)
前川和彦　東京大学名誉教授（〔独〕 放射線医学総合研究所緊急被ばくネットワーク会議委員長，放射線事故医療研究会代表幹事)
山下俊一　福島県立医科大学副学長，長崎大学大学院医歯薬学総合研究科長

上記のメンバーが放射能の危険性を消火してしまった。

兵庫県立図書館で国会図書館から取り寄せてもらったラッキーの書物を皮切りに，カヨ子の生老病死愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五蘊盛苦の「苦」を除くために，原発関係を 100 冊近く片っ端から読んだ。読めば読むほど，上記の学者，つまり専門家たちは原子力の安全性を説く。被ばくの危険性について沈黙する。マニュアル通りならば原発は安全という。父親が医師であった遠因もあろうが，生来の人一倍強い正義感をもつ島薗進[1948-]は，低線量被ばく，放射能汚染，ホルミシスについての危険性を丹念に追究した。科学者たちによって，つくられた放射線「安全」論を論駁した功績は金字塔である[158]。

一方，御用学者たち，テレビのコメンテーターたち，専門家たちは，一体，何を動機として発言していたのか。厚労省，経産省，文科省の主導した国策の宣伝を手伝うことで利得のチャンスがあるのは氷山の一角にすぎないだろう。実利のためにお茶の間で安全論を展開したとは考えられない。推察できることは，虚偽，フェイクな情報，政権をよいしょする動機は，エクスーシアに抗う正義の味方気取りの連中に制裁を加える真の「正義」論者としての自負があったにちがいない。第二次世界大戦前，戦時下の「大政翼賛會」[1940(昭和 15)年 10 月 12 日～1945(昭和 20)年月 13 日] の体質は戦後もゾンビのように復活している。官製国民統合団体であることを忘れてはならない。最近では「日本会議」が相当するだろう。「エクスーシア主義的パーソナリティーの持ち主が群生しているという事実ではなかろうか。10 年前，3.11 福島第一原発事故の際

---

[157]『日本文学のなかの聖書』(大田正紀 いのちのことば社 1993 年 88-92 頁)。大田正紀[1949-]は神戸国際支援機構の理事。“遠藤周作の「日本」理解は，「風土的限定を超える」はずの和辻哲郎の人間学を枠組みの中に閉じこめたといってよい。……遠藤の素朴なカトリック信仰はフランス留学を通じて，二元論で大量虐殺をした狂気の爪痕の見聞から信仰の懐疑が生じた。……遠藤によれば同伴者イエスの「無力」と見える愛を生きること”と，大田は描写している。

[158]『つくられた放射線「安全論」』(島薗進 河出書房新社 2013 年)。“放射線の健康影響をめぐる問題であらわになってきているのは，専門家が「無用な不安を除去すべきだ」と主張して市民を抑圧するという事態である。人々の孤独と不安が社会を脅かしていると捉える論考は，全体主義の時代から数多く積み重ねられてきた。だが，二一世紀に入り，「リスク社会」が問題になるようになって，新たに目立つようになってきたのは，専門家が適切なリスク認識を教えることで「不安」を統御すべきだと説く言説である。こう説くことによって，専門家が「市民」あるいは「大衆」の自由を抑圧するという事態が目立つようになってきた。エリートこそが自由の担い手で，大衆が足を引っ張るというのではなく，むしろエリートこそが「不安の排除」という形で，大衆と対立しつつ抑圧していくのである。”『原発と放射能線被ばくの科学と倫理』(島薗 進 専修大学出版局 2019 年 95,96 頁)。

も，多くの「御用学者」が構成員となった「原子力ムラ」の体質をゆめゆめ忘れないでいただきたい。自律した「道徳」，「徳」，「霊性」の基準もたない官製護送船団である。失政，日本丸の綻(ほころ)び，リスクを糊塗(こと)するならず者たちの類(たぐい)である。つまり人格において，日本の将来のリスクを警告する使命感を持ち合わせておらず，集団自死行為に陥ろう。否定の論理を持ち合わせていないから，反省，責任，普遍的価値観は見いだせない。彼らの楽観論，無知，虚偽によって苦悩をなめた水俣病患者がいた。ノンフィクション作家の柳田邦男[1936-]は，この国の根本的ゆがみを記した。「環境省は従来の『設定基準』を改めようとしない。専門家が検討して決めた基準であり，十分な根拠があるというのが，表向きの理由だ」，と痛烈に国家に対して非難している[159]。第二次世界大戦前，戦時下に生物兵器を中国人に人体実験した医師たちの 731 部隊は，犯罪がちゃんと清算されず，戦後医療界の主要ポストに君臨した。1980 年代後半からエイズの原因ウィルスである HIV に感染させる問題を引き起こした[160]。感染症研究機関の多くが戦前の軍関係の機関にそのルーツをもつこと，その起源と歩みが今次の関係者の振舞いにどのように影響しているのかは，分析・考察されなければならない主題である。

神戸国際支縁機構の島薗進理事は，孤立無援であっても，上記の専門家の言質が科学から道をはずしたことを諫めた。

さしずめ宗教者ならば，ミルチャ・エリアーデの「両義性」で相対する両極を考察されるだろう。たとえば，ユダヤ教のイスラエルの祭司たちも，うなじがこわく神に反逆すると神の怒りを被るが，供え物によって神が宥められ，平安を体験する。新約の使徒行伝，ローマの信徒への手紙に出ている「プリスキラ(プリスカ)とアクィラ」は妻である女性が先に名前が出ている。一方，コリントの信徒への手紙 一 7 章 29-31 節では，順序は「夫」がかしらとして先になっている。こうした両価性の視座はユダヤ教，キリスト教，イスラーム教，仏教にも見られる。宗教民俗学者である宮田登[1936-2000]によると，日本のカミ観念には，二つの対立する側面が一つに統合されている。「祟(たた)る」と，「守護する」のような具合である。怨霊はたいへん激しく祟るカミに民が丁重にもてなして祀ると，祟りはすみやかに消滅し，今度は守護神になる。宮田は，対極措定は，認識上の便宜(分別)としては意味をもっても，事実どおりの認識(無分別)とほど遠い。分極化するように見えても，努力と時間によって，対極は消え，一つになる。西洋の二元論，一元論とは別な，両者とも生かす世界観をつかむのがインド人，中国人，仏教の地域の特徴とする。仏教者の世界観は「不二(ふ)而二(に)二(に)」(advaita-davita) 二ではなくして，しかも二であること。「二(に)而不(ふ)二(に)」(daviata-advaita) 二であって，しかも二でないこととする[161]。

ホルミシス(放射能低線量)は癌患者にとり，有効か，むしろ安全でないか，どう判断すべきか。七転八倒するカヨ子を介抱しながら，ホルミシスは用いるべきかどうか，アメリカ教[162]の二元論では解決できない。次に，二律背反[163]の価値両義性のどちらも首肯はできなかった。即身仏のように息をひきとった妻を同日わたしが司式をして葬った。もはや二元論の視座でもない。また両義性で物事を視る価値観からも卒業した。わたしに存在 existence「ある」だけでなく，今，presence 現前「(人間にだけ)いる」(いはる，いてはる)方が観(み)える(マタイ 28:20)。「まことに，あなたはご自分を隠される神(ラテン語 deus(デウス) absconditus(アブスコンディトゥス))なのか」と問うこともなくなった(ハバクク 1:2)。カヨ子は神学校，哲学，修道院など学んだことがなかった。しかし，高僧，枢機卿，聖職者にも引

---

[159]『水俣病 50 年―「過去」に「未来」を学ぶ』(多田昭重 西日本新聞社 2006 年 290-291 頁)。
[160]『七三一部隊―生物兵器犯罪の真実』(常石敬一 講談社現代新書 1995 年 168-169 頁)。
[161]『空海即身成仏義』(金岡秀友 かなおかしゅうゆう 太陽出版 1985 年 17,22-23 頁)。
[162]ファンダメンタリストたちは，十字架を信じなければ地獄，聖書通りに忠実に生きるという原理主義。
[163]二律背反 antinomy アンチノミー カントが用いた。「世界に始まりはある」「世界に始まりはない」のように，互いに矛盾するが，双方それなりに説得力あるペア。「never say never」。

けを取らない性，徳，控え目な霊性を放っていた。わたしは聖職者失格だが，彼女によって，聖い立場を神の前で是認され続けたことを感謝している。

ベトナムの仏教僧ティック・クアン・ドック[1897-1963][164]が焼身自死をもって，弟子のティク・ナット・ハン[165]に示したのと同じだった。エリヤのマントをエリシャが受け取った。ハンは 2022 年 1 月 22 日，で涅槃に入った。ティク・ナット・ハンはベトナム語でタイ(師)と呼ばれる。わたしもそうさせていただく。タイが米国で 1968 年 4 月 4 日，ローマ・カトリック教会の神学者ハウス・キュング[1928-2021]の講義を受けていた時だった。マルチン・ルーサー・キング[1929-1968]牧師が暗殺された。黒人たちの暴動，仕返しがあるというわさが全米に広がっていた。わたしは怖じ気づいていた。親しい黒人が口をすっぱくわたしに外出しないように何度も釘をさした。愚者なるわたしはアルバイトをしていたシカゴ市ディア・ボーンストリートのレストランに足早に行った。街は静まりかえっていた。だれも来客はなかった。アメリカ第 2 の活気のある華やかな商業都市とは思えなかった。それから 2 年後，マニラの国際会議に出席直後，ベトナム 17 度線に，わたしはいた。口では大仰にも平和を実現するために来たかのように振る舞っていた。内心，ベトコンに狙撃されるのではと，臆病であった。シカゴで，ベトナムのホーチーミン(サイゴン)でも，タイとは一瞬もお出合いしていない。ベトナムの難局に実践しているタイとは雲泥の差であった。タイが大人なら，わたしは赤ちゃんだった。ベトナム料理を楽しみ，ボートピープルとして脱出するチャンスを探している若者たちと国際会議をしていた。ベトナムの民族服アオザイを着ている女性たちにのぼせていたにすぎなかった。タイが命がけで祖国のために毎日祈り，瞑想し，沈黙の食事をし，あらゆる修行をしていた鍛錬をしているのとは大違いであった。肉体の接点がなかったとはいえ，配偶者の死を通して，またタイの生き様を通して，啓示された価値観がある。価値両義性(アンビヴァレンス)でもなければ，二項対立の弁証法でもない。WCRP 平和大学講座のテーマ，「宗教はコロナウイルス後の社会をどう目指すか」への直接の回答であろう。

c. 非宗教家の悪 ―創造的復興，内部被ばく，ダム，原発の再稼働，コロナ禍のウソ

「創造的復興」という言葉は，ヨーゼフ・シュンペーター[166]に由来する[167]。復興をわたしはReconstruction(リコンストラクション)ではなく，Restoration(レストレーション)がふさわしいと関西学院大学のチャペルで語った[168]。理由は，外見のハコモノを中心とするのではなく，被災者の心の復興こそが望まれるからである。つまり震災以前の古い計画を焼き直すならば，「修復」，「修繕」というRenovation(リノベーション)だからである。国からの復興予算を用いて，役人の強欲な野心の実現の材料になった，すなわち上部構造の修復で終始したのである。真の復興ではなかった。ローマ帝国のように衰亡

---

[164] 仏教僧ティック・クアン・ドック[Thich Quang Duc 1897-1963] 1963 年 6 月 11 日，南ベトナムのゴ・ディン・ジエム政権が行っていた仏教徒に対する高圧的な政策に，ガソリンをかぶって即身仏となった。

[165] ティク・ナット・ハン(ティック・ニャット・ハイン Thích Nhất Hạnh [1926-2022])は，ベトナム出身の禅僧・平和・人権運動家・孤児たちの社会的支援や，死体の回収など。爆撃を受けた村の再建や孤児の世話，学校作りなどを手掛けた。ベトナム禅僧ドックの即身仏は，ハン 37 歳の時，大きな衝撃となった。ハンも教えを受けた高僧が自らの身を捧げたからである。2012 年，ウェストミンスターの英国議会 及びストーモントの北アイルランド議会に招かれ，慈悲と非暴力のメッセージを伝えた。2022 年 1 月 22 日，ベトナムの自坊で遷化，世寿 96 歳。今や，ハンのマインドフルネスという静想が世界中に広がっている。

[166] ヨーゼフ・シュンペーター[1883-1950]オーストリア・ハンガリー帝国(後のチェコ)モラヴィア生まれの経済学者。

[167] 『資本主義・社会主義・民主主義』(J.A. シュムペーター 中山伊知郎，東畑精一訳 東洋経済新報社 1995 年 第 7 部)。

[168] 拙論『キリスト教と復興』(2021 年 11 月 18 日) ○○頁。

の一途を辿ってはいないだろうか。そこで，「変革」Regeneration(リジェネレーション)をマルクス[169]が言うように，エネルギーを加えて，貧者が苦悩する制度を新生することは可能だろうか。

プラトン[紀元前427-347]著の『テアイテトス』によると，人間が造られた材料を用いてではなく，永遠の存在していた物質でデミウルゴスが世界を創造(ラテン語クレアチオ・セクンダ)することである。しかし，聖書の「創造」(ラテン語クレアチオ・エクス・ニヒロ)は，「無」から「有」を産み出す行為である。したがって，震災の度に，都道府県の首長が「創造的復興」をバーゲンセールのように用いるのは奇異としか言えない。なぜなら震災後に，無から有を生み出すストラテジーではないからである。 巨大プロジェクト，ハコモノを「創造的復興」とはやし立てるメディアは，技術至上主義の応援団，御用聞き，批判を忘れた旗手と言えよう。

政府や国によって主張されてきた災害復興の理念は，大規模公共事業をテコとする経済成長・開発優先型の復興であった。この成長・開発優先型復興は，阪神・淡路大震災では「創造的復興」[170]と呼ばれ，それ以後の復興政策へも踏襲されてきた。創造とは既存のエクスーシアや概念，その時代の常識への挑戦。権力に従属，追随していて，独創的研究など生まれるはずはない。権力への追随は，社会にとって害毒を流すだけではなかろうか，個々の研究者の創造的な研究を妨げる。

大規模なハコモノを造り，原状回復以上を目指すと，過剰な社会資本を作りだしている。阪神・淡路大震災の後，住宅再建政策は被災者への支援ではなかった。復興予算は非効率的な公共建造物に集中した[171]。

復興事業で新長田の再開発は神戸空港と共に最大規模であった。巨大事業で負荷がかかったにもかかわらず，赤字が膨らんだ再開発の失敗例である。復興災害と地元で言われている[172]。商業床が売れ残っている。阪神・淡路大震災後，神戸市が大規模に進めた新長田駅南地区開発事業(約20㌶)は，巨額の500億円を越す赤字が見込まれている。ハコモノ優先したことに起因している。地場産業のケミカルシューズの衰退は憂慮すべき問題のひとつだ。

お上が主導ですると，震災前からの計画を焼き直しし，「創造的復興」と喧伝する。

人口流出が著しい。この11年間の間に人口が5分の1に減った島が宮城県にある。東日本大震災の津波で女川(おながわ)町の出島(いずしま)は現在60世帯96人が暮らす。診療所も流され，島に医師はいない。小・中学校は廃校となった。子どもがいる家族は島から引っ越した。震災の影響だけでない。漁業で生計がたてにくい[173]。2010年沿岸漁船漁家(ぎょか)の全国年間平均漁労所得は186万円という現実がある[174]。

2019年9月9日に台風15号，10月12-13日に19号が東日本を縦断して，集落全体の被害があった千葉県南房総の布良(めら)で，漁ボランティアに仕える。かつて日本一の延縄(はえなわ)漁で振るった地域である。5件しか漁師は残っていない。船を走らせるにも燃料である油代がかかる。油代や網の修理などを引くと，残らない。収入は年間100万円を超えることはないと，嘆く。日本全体でも52.3パーセントが100万円以下だ。だから空き地で野菜作りをし，自給自足をせざるを得ない。

農業，林業と同じように，後継者不足，高齢化の波は容赦ない。

阪神・淡路大震災の場合，行政がトップダウンで，区画整理事業を強引に推し進めた。「アスタくにづか」1番館ではシャッターを閉めた店が目立つ。復興とは，景観が良くなったとか，町並みが元通りになったという

---

[169] 福音派の中には，マルクスの名前を使うだけで，二元論でマルクス主義者と断定する人もいる。マルクスの社会分析，官僚批判は，必ずしも唯物論とか無神論を肯定することにはならない。『日本にとって解放の神学とは』(相馬信夫・アンセルモ・マタイス・酒井新二 中央出版社 1986年 82-83頁)。

[170] 『大震災100日の記録：兵庫県知事の手記』(貝原俊民 ぎょうせい 1995年 174-180頁)。

[171] 『大震災15年と復興の備え』(塩崎賢明・西川榮一・出口俊一 兵庫県震災復興研究センター編 クリエイツかもがわ 2010年 18-19頁)。

[172] 『神戸新聞』(2022年2月3日付)。

[173] 『朝日新聞』(2022年1月7日付)。

[174] 『平成30(2018)年度水産白書』。

ことではない。被災者の心のケア，つまり心の復興が重要である。高層ビルに入居する商店の主人は高齢にもかかわらず，15坪ほどの小さな店で月額7万円前後の高い管理費と固定資産税を払い続けなければならない。しかし，店のあるショッピングモールにはお客さんはほとんど入って来ない。年金から経費を払うともう何も残らない。生きていくこともおぼつかない人たちに，行政は「自助努力で頑張れ」と迫る。弱い立場の人たちへの思いやりという視点が欠けている」，と[175]。「当時40代前半だった方は，定年の年代である。60歳で被災した人は80歳を過ぎる後期高齢者だ。そうした被災者に，神戸市や西宮市は，借り上げ復興住宅から立ち退きを迫る裁判を起こしている。終の棲家から被災者を追い出すのに，行政は司法の力を用いている。」 エクスーシアを持つ国家，地方行政が無策なことに，宗教界はどんな責任をとろうとしているのか。

⑶ 世界 ― 家族の縁

a. 知恵に頼らず，霊による

現代の危機の最大は，核，気候変動，生態の致命傷ではない。心の危機である。貧民街，海面下に没する島々，医療が施されず死んでいく病人に寄り添う「氣」の復権である。遠くない将来，中国はアメリカの経済を凌駕するだろう。そのエネルゲイアは中国のナショナリズムに依存している。

人類が瀬戸際に立たされている。血塗られた歴史，破壊の限りを尽くした文明，計算と欲にまみれた人間の轍に責任の荷が肩に食い込んできた。思い上がっているのでは，と胸に問う。「ポストコロナ」，ウクライナ戦争，生態破壊に無力感で打ちのめされている。歴史上の反省と検証を迫られた。次に，普遍的価値として，「道徳的課題」を考えてみた。自分から喪失していた「徳」に気づかされた。「徳」はギリシャ人の考えでは，有能性，卓越性を意味した。たとえば勇気は重要な徳の一つであった。戦場で有能さを発揮するとき，それが徳である。自分を振り返ったら，無尽蔵に他者を奈落の底に貶めてきた数え尽くせない罪，咎，悪行でまみれている。地獄へ行くわたし専用の最上席が用意されていることだろう。「徳」がないゆえに，教会など何をしても，「桃李もの言わざれども下自ずから蹊を成す」[176]と，人が集まらない。

障がい者，病人，婦女子，孤児，娼婦，流れ者―社会の底辺の階級の人びとは，自ずと「徳」のある釈迦[177]，キリスト，創始者のムハンマド[178]の許に集まった。

宮城県石巻市渡波の大國龍笙宮司，福岡県朝倉市寒水の梶原明彦宮司，熊本県人吉市の福川義文宮司と話す際，神道とキリスト教の違いについて，やっと教えられた。ロゴスではない。神道の場合，教義・教理より大切な「自然」との共生がある。そのたたずまいに生きる魂に触れた。普遍宗教は自宗擁護のため，カッパドキア三教父 大ワシリイ(ヴァシリオス)，神学者グリゴリイ(グリゴリオス)，ニッサの主教聖グリゴリイ(グリゴリオス)の後継者を大量生産してきた。国家への恭順さを示すことに腐心しているかと思えば，異端排除に躍起になる。世の利害のエートスの先頭を行くものの病床不足，限界集落，文明の落日には，目，耳，口が不自由だ。にもかかわらず，キリスト教，イスラーム教，仏教は世界宗教だと自負している。普遍的だと錯覚しているのは，いわゆる信心の成果だ。「ありがたや，ありがたや」。一方，神道は民族宗教の枠から出ら

---

[175] 「『心の復興』がなおざりにされた阪神・淡路大震災」(『クリスチャントゥデイ』2018年1月17日)。
https://www.christiantoday.co.jp/articles/25079/20180117/great-hanshin-awaji-earthquake-23-years-pastor-iwamura-yoshio.htm

[176] 桃やスモモの周りには，何も言わなくても，花や実にひかれた人が集まってくる。自然に木の下に道ができる。徳のある人のもとには，黙っていても，その徳を慕う人が集まるというたとえ。その点，わたしの場合，徳がないから，何をしてもつねにマイノリティー(少数者)である。

[177] 『岩波仏教辞典』(同 376-377頁)。

[178] ムハンマド(モハメットのアラビア語名)[570頃-632] イスラーム教の開祖。アラビアのメッカの名門クライシュ族の出身。40歳の頃からアッラー(神)の啓示を受けるようになり，メッカで布教。

れない，世界にはいささかも通用しないと，普遍宗教はアニミズム，シャーマニズムへの蔑視の視線で，存在すら忘却されてこなかったか。アメリカインディアン，アイヌ，アフリカの小さな村の踊りと歌に酔う部族こそ，むしろ世界的普遍宗教より「普遍」と言うべきだろう[179]。エクスーシアの国家主義でないパラドックスがあるからではないか。

ボランティア道を通じて，人間によって侵食されている所をさすらう旅人である。気候変動，台風，地震によるものではないんだ，「わかってくれ」，と大地が叫び声をあげている。森林放置，乱開発，ダムなどによって，環境が破壊されている。海岸線，山腹，遊休田畑で，聖書に出て来ないテクニカル・ターム「自然」が呻いている。確かに，河川，山，海辺は聖典に何度も出ている。それが呻いている。「実に，被造物全体が今に至るまで，共に呻き，共に産みの苦しみを味わっていることを，私たちは知っています」(ローマ 8:22)。

ハイウエイのために削り取られ，剥き出しになった山肌，「痛いだろうに」，と合掌する。ダム建設のために蛇行から直線になったコンクリート河川，「寒いだろうに，許しておくれ」，と。海，朝日・夕日の絶景が消えた防潮堤，「こんなにまでしてしもうたわ」，と思わず頭を下げる。雪が樹木から落ちる季節の音，せせらぎのきらめく色，森林の気高い香りが消えた。プラスチック，化学の毒，便利な洗剤が襲っている。わたし自身が人生の里程標において，その時に信奉していたものこそが元凶であったと気づかず，金メダリストの数にこだわっていた。その都度，有頂天になっていた，動員数に一喜一憂，メディアに取り上げられることに心血を注いできた。自然の営為に見向きもしなかった。がむしゃらに疾風のごとく驀進する宗教帝国の旗手であったことか。三代目ローマ・カトリック教会で受洗，26 歳から教会荒らしの異端へ転向，十字架の尖塔を廃会に手を染めてきた。40 歳でプロテスタント教会に回心。人類をしあわせにするぞとパトスが煮えたぎっていた。やっとわが家にたどり着ける案内図は聖書から心もとない確認作業だった。人は狂ったように独学で神学に埋没していたと言うだろう。しかし，宗教遍歴，阪神・淡路大震災，9・11テロで，物理的な失踪してきたことにハンマーで打ちのめされた。あの「なんだったんだ。いつも天から見守ってくださっていたのでは」，と錯覚，盲信，見捨てられた恨み言が祈りを変えた。3.11のメルトダウン(炉心溶融)動から静へと沈没。60 代から災害地で，死者の声を聞く。変節の徒には，かつてのような他者救済のパトスは燃え尽きていた。生まれてこのかた，まったく無視，無知，無関心[180]であったふる里の嗚咽，慟哭，弱り切った呻き，削り取られたための血，散布された猛毒の化学物質による身体をよじりながらの断末魔。エクスーシアによるニムロド以来の「一つ」，「包摂」，「技術至上主義」の輪郭がうっすらと太平洋の向こうに，足元の日本列島に見えてきた。為す術がない。「こんちくしょう」。己れの無力さが懺悔の托鉢に駆り出した。約 20 年前の封印[181]していたキリストを知性，教理，論駁で立証していた痕跡を証言する。ちっとも華やかではない。知識のひけらかし，披露，自慢ではないことをまずお断りしておく。世界最大の信者数を有するキリスト教の限界は，今回も「ポストコロナ」，「ウクライナ戦争」，「環境汚染」に対して無力であることを露呈しただろう。なぜ『カラマーゾフの兄弟』のアリョーシャは人類にとって翻弄されてきたのか。キリスト教の骨子である「神学」がいかに陳腐であるか，普遍的価値観に失格であるかを暴露する。失敗談のひとつに，鳩山由紀夫[1947-]元首相と同時期に，自分なりの「アジア共同体宣言」[182]を傲慢にも発題したおおうつけ者だった。

---

[179]『神道とキリスト教』(安斎伸共 南山文化研究所 1984 年 46-47 頁)。

[180] 他者を排除するというよりも，度外視や無関心といった他者との無関係性に，それぞれが他者を消滅させつつ自己を個別的に定立していく。したがって各自は，相互的な「無関心性」(Gleichgültigkeit)(WL, 49/47)のなかで並立することとなる。ヘーゲルは，このような状況を「相違性」(WL, 47/46)と名づけている。相違性の原語 “Verschiedenheit” は，しばしば「差異性」とも邦訳され，英語圏では “difference” もしくは “diversity” と訳出される語彙である。

[181] フィリピ 2 章 6 節の自己の釈義について 1999 年，神学会で発表したが，だれも理解できなかった。神学者になる資質がないと失望した。拙論『ものみの塔の超ファンダメンタリズムからの回帰』(日本福音主義神学会 1999 年 5 頁)。

[182] 2011 年 6 月 12 日，時を同じく，場所も時間も打ち合わせなく，発信。http://kisokobe.sub.jp/article/6/。

次なるキリスト・ロゴス論は，神学における自己否定の論理である。

「ロゴス」論

キリストの本質はいつの時代も問われてきた。たとえば 2018 年発行の『聖書協会共同訳』はキリストについて忠実な翻訳と言えるだろうか。歴史上，翻訳の相違により，教導権をもつグループが独善的になり，異端排除，神学論争が起きる原因になることもしばしばあった。キリストは「まことの神」なのか，それとも人なのか，「まことの神，まことの人」であるのか，解釈が分かれる原因になってきたからである。宗教会議で決着をつけてきただろう。目に見えない神に形はあるのだろうか。「神の形」という訳はだれしもがすんなりと受け入れられる訳と言えるだろうか。知性，知恵，分別で考えると納得できないのではないだろうか。信仰があればこそ，不可解な事柄に信を馳せることができるのかもしれない。さて，家族の父親が人間ではなく，半分人間で，残りはみ使いらしいというような紹介をするだろうか。わたしがものみの塔と決別する決定的な聖句でもあった。しかし，キリスト教界が出版している辞典類や，神学書の解釈の足並みはそろっていなかった。次の聖句の意味である。

「キリストは神の形でありながら 神と等しくあることに固執しようとは思わず かえって自分を無にして 僕の形をとり 人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ へりくだって，死に至るまで それも十字架の死に至るまで従順でした」(フィリピ 2:6-8)。

ὃς ἐν μορφῇ θεοῦ ὑπάρχων οὐχ ἁρπαγμὸν ἡγήσατο τὸ εἶναι ἴσα θεῷ,
ἀλλὰ ἑαυτὸν ἐκένωσεν μορφὴν δούλου λαβών, ἐν ὁμοιώματι ἀνθρώπων γενόμενος· καὶ σχήματι εὑρεθεὶς ὡς ἄνθρωπος
ἐταπείνωσεν ἑαυτὸν γενόμενος ὑπήκοος μέχρι θανάτου, θανάτου δὲ σταυροῦ. μηδὲν κατ' ἐριθείαν μηδὲ κατὰ κενοδοξίαν ἀλλὰ τῇ ταπεινοφροσύνῃ ἀλλήλους ἡγούμενοι ὑπερέχοντας ἑαυτῶν, μὴ τὰ ἑαυτῶν ἕκαστος σκοποῦντες ἀλλὰ [καὶ] τὰ ἑτέρων ἕκαστοι.
オス エン モルフェー セウー ウパルコゥン ウーク ハルパグモン エィゲィサトト エイナイ イサ セオー アッラー エアウトン エケノゥセン モルフェイン ドゥールー ラボゥン エン オモイオゥマティ アントロゥポゥン ゲノメノス カイ スケィマティ ユーレスェイス オゥス アントロゥポス エタペインオゥセン エアウトン ゲノメノス ウペィコオス メクリ スァナトゥー スァナトゥー デ デ スタウルー。

「新約神学新国際辞典」(1976 年)の第二巻の説明をものみの塔協会は用いていた[183]。

「イエス・キリストは神の地位を強奪することはない。み子とみ父が一つであるということは,存在の完全な同一性を意味してはいない。地上に来る前の神のみ子は神の像を有していたが,神と等しくなろうとする誘惑に抵抗した(フィリピ 2:6)。地上での存在期間中，御子は十字架の上での死に至るまで神に従順であった(フィリピ 2:8)。御子は救いの仲介者ではあるが，創始者ではなく(コリント第二 5:19。コロサイ 1:20。ヘブライ 9:15)，世の罪を負う，神の子羊である(ヨハネ 1:36)。地上での仕事を完遂した後，み子は確かに神の右側に高められ(エフェソス 1:20。ペテロ第一 3:22)，天的なキリオス，すなわち主という名誉を与えられた(フィリピ 2:9 以降)。それでも，み子はまだ神と等しくされてはいない。神と全く調和しているものの，相変わらず神に

[183]『新約聖書釈義事典』I (教文館 1993 年 193 頁)「ハルパグモン」は『七十人訳』にはなく，フィリピ 2 章 6 節にしか出てこない語。「ハルパグモン」を『新世界訳』のように訳す翻訳：robbery or rapine [強奪]，『欽定訳』，Douay Version, Darby, Young's Literal Translation, Companion Bible: snatch [強奪する NEB]; by force or forcibly [力ずくで Jewish New Testament, Today's English Version, Centenary Translation]。一方，多くの聖書は，「固守すべきこと，握りしめられる」と訳出。

従属している(コリント第一 15:28 参照)。これは，ヘブライ書の言う天の聖所におけるとこしえの大祭司としてのその地位についてもいえる(ヘブライ 9:24; 10:12 以降。詩 110:1 参照)。み子は神のみ前で我々の代表を務めてくださる(ローマ 8:34 も参照)。黙示録 1 章 13 節以降で天的な人の子の姿が，ダニエル 7 章に描かれている『日の老いたる者』(神)の特徴をもって描写されているとしても，キリストが神と同等であるというわけではない。黙示録の中では，神と『子羊』はいつも区別されている」，と。

フィリピ 2 章 6 節の「神の形(ギリシャ語 μορφη モルフェー *morphe*)」でありながらということは，キリストは神なのか。「人間の姿」で現れたということは神の変身した存在だったのか。スーパーマンが新聞記者に変わったように考えたらよいのか，モルフェーを「形」という翻訳ではいくつかの可能性を示唆するだろう。ギリシャ哲学のアリストテレス[紀元前 384-322]は神のみが自存すると考えた。神だけが被造物ではないからである。「ロゴス」は，時間が始まる前に神から造られた意志者という[184]。新プラトン主義はキリストが父から子の流出(エマナチオ)だと解釈する[185]。有からしか有が生まれないなら，人間であったキリストは永遠に無であったとは言えないことになる。「固執する」(ギリシャ語 ἁρπαγμὸν ハルパグモン)を世界で一番多く普及した『欽定訳聖書』などは「強奪する」と訳出してきていた。何を「強奪する」のか。神性(かみせい)である。イエスが神性(かみせい)を“強奪する”と考えるか，それとも「ハルパグモン」を“固執される”と理解するかによってキリスト論は 180 度異なってくる。「神と等しくあるように神性(かみせい)を強奪しよう」であるならば，キリストは神ではないことになりはしまいか。被造物であったという解釈が頭をもたげて論争になった。神性(かみせい)を奪うような僭越な願いをキリストがするはずがないと考える。さらに，イエスは地上に来る前も，神性(かみせい)などないということになる。み使いのような神性(しんせい)はあったとしても，父と同等性はないという教義が成立してしまう。決定的な手がかりは「神の形」という表現であろうとわたしは考えた。かつてキリストは「はじめがあった」神による最初の被造物と信じて，キリスト教会を迫害してきた経緯があったからである。キリストは「人間の姿」で表れたという「姿」と「形」の違いはどのように理解したらいいのか。キリストが神性を奪ったと理解すべきなのか。翻訳の違いによって，意味が異なってこよう。1987 年，わたしに最初に聖書原語を教えたのは関藤仁志[1926-1993][186]であった。彼は神戸に「マナ書房」というキリスト教古書店も経営していた。当時，わたしは，ものみの塔協会の神戸地域の西側に位置する神戸市明舞会衆の最高責任者であった。身分を隠して，キリスト教会の牧師のような顔をして受講していた。授業後，書棚にある英語聖書の中に，フィリピ 2 章 6 節の「ハルパグモン」を「強奪する，奪う」とは異なる“what is seized”，“be grasped”「固守されているもの」，「固執する」という訳語があることに，驚いた。もしそうなら，キリストは神性を「強いて取る」，「強奪する」のではない。キリストが栄光を自ら放棄したことになる(ヨハネ 17:5)。脱会前，身分を隠して，近くのプロテスタントの神学校や教会を訪問。わたしの考えが独りよがりでないことを確かめようとした。聖職者たちは，総じて，わたしの重箱の隅をつつくような質問にたじろいだ[187]。相手にもしてもらえなか

---

[184]『キリスト論』(松田央 南窓社 2000 年 26-27 頁)。

[185] ネオプラトニズム(新プラトン主義)のプロティノス[205-270]が唱えた神秘思想。一者から世界が流失して形成されるとする。古代のグノーシス主義思想に多大な影響を与え，中世のキリスト教神学にも影響を与えたとされる思想。オリゲネスは「神の本性を部分に分けたり，自分の見解で父なる神を分割したりして，なんらかの流出を空想している人々のばかげた作り話に陥らないように注意せねばならない」と流出説を否定。

[186] 無教会の神戸聖書研究会創設。FOR(非戦平和団体)理事。在韓被爆者救援，有機農業，ダム設置反対に尽力。「小さくされた人々」に仕えた。

[187]『教理史要綱』(ラインホルト・ゼーベルク 教文館 1991 年発行。64 頁)，『中世思想原典集成 2』(同 33 頁)，『目薬』誌 No.31 2003 年 8-9 頁。『神のみ名は‘エホバ’か』(いのちのことば社発行 1998 年 75 頁)。『目薬』誌 No.23(2001 年 1 頁)，『 同 No.16』(1999 年 16 頁)，『中世思想原典集成 1』(同 474-477 頁)，『キリスト論論争史』(水垣渉・小高毅 日本キリスト教団出版局 2003 年 90-93 頁)。『キリスト論』(松田央 南窓社 2000 年 26-27 頁)，『キリスト教教義史概説 下』(K.バイシュラーク 教文館 1997 年 97 頁)，『キリスト教要綱』W.パネンベルク 新教出版社 1982 年 190 頁)，18『キリスト論論争史』(同 90 頁)，『キリスト論要綱』(同 188 頁)，『キリスト論』(同 26-27 頁)，『ロゴスとソフィア』(大貫隆 教文館 2001 年 110 頁)，『キリスト教の正統と異端』(エウセビオス研究 2 リトン 1992 年 103 頁)，『キリスト教教義史概説上』(同 172 頁)，『目薬』誌 No.34 (2004 年 9-10 頁)，『使徒教父文書』〈聖書の世界〉別巻 4・新約 II (八木誠一訳 講談社 1974 年 113,126,143; 112;128; 110; 113 頁)，『中世思想原典集成 2』―『使徒たちの使信の説明』(小林

った。結局，フィリピ 2 章 6-7 節に関しては，説明できないまま，30 数名の仲間と脱会した。しかし，文脈 7 節には「僕の形をとり」と，もう一度，モルフェーが出てくる。神の形と人間の形が同じであるはずがない。小学生でも首をかしげる言葉の迷路にたじろいだ。2018 年末の最新の『聖書協会共同訳』に，目に見えない存在を「形」という訳語でいいのか，不可解な印象を抱いた。しかし，どこの教会よりも早く，購入し，今でも『本田哲郎訳』と共に用いている。本稿で引用する聖書も『聖書協会共同訳』である。1990 年代，マリアから生まれた肉体が神性(かみせい)を摂ったのではない，と，神戸改革派神学校の牧田吉和校長は神学生に強調した。組織神学を約 9 年学んだ中でもずっと気がかりだった。牧田はキリストがマリアから誕生の際，神性を受肉したのではないと。神が人性を摂った，と強調した。水が入ったコップにぶどう酒を入れると仮定しよう。水とぶどう酒は混合される。しかし，キリストが人間性を取ったとき，神性(かみせい)と人性が混ざってしまったのではない[188]。

モルフェーを「形」と訳出するのはまちがっている。2004 年，異端を論駁するための定期刊行物『目薬』誌に論述した3つの根拠を述べたい[189]。フィリピ 2 章 6 節の一番目に，語義を考慮したい。『アボットスミス新約ギリシャ語手引き書』[190]，『ヴァインの新約用語注釈辞典』[191]には，“the form, as indicative of the inner being”「内なる存在を示す形」と出ている。『新約聖書ギリシャ語小辞典』[192]には「形，むしろ内的な性質，質的な形を言う」と説明している。つまり，モルフェーは「形」と訳すと誤解を生むからよろしくない。西暦一世紀にキリストはナザレで「人間の外観(シェイプ)(ギリシャ語 σχῆμα スケーマ *schema*)」を摂って人々に自分を見せた(フィリピ 2:7)。キリストは神の「姿(フォーム)」[神性(かみせい)](モルフェー)でありながら，僕である人間の「姿」[人性](モルフェー)でもあった[193]。人性という場合，「ダビデの子」(ローマ 1:3)，「しもべ」(フィリピ 2:7)を指している。神性(かみせい)で考えるならば，『フランシスコ会訳』はコロサイ 1 章 15 節を「御子は見えない神の似姿(イメージ)」(ギリシャ語 εἰκών エイコーン *eikon*)」(コロサイ 1:15)[194] と訳出している。モルフェーを「形」とそのまま訳した翻訳者たちの気持ちもわからないではない。なぜならコロサイ 1 章 15 節のエイコーンを「形」ではなく，「かたち」と区別しているからである。英語“form”の原義[195]だけを考慮すれば，「形」としてしまうのもわかるが，聖書原典は英語ではなく，ギリシャ語であることを忘れてはいけない。英語にひきずられたとしか思えない。モルフェーを「形」(ギリシャ語モルフェ)を神の「形」と訳出することは不適切だ。まず，「形」は外観から見た印象になろう。モルフェは，外形の輪郭，外観，外形ではない。

不適切な二番目の根拠をあげよう。

「形」，「像」[英語 image]ならば，モルフェーではなく，ギリシャ語エイコーンを用いるべきである[196]。ギリシャ語テキストからの翻訳ではなく，英訳聖書の“form”の意味に引きずられてしまった可能性はないか[197]。モルフェーというギリシャ語は新約では，フィリピ 2 章 6，7 節とマルコの福音書 16 章 12 節，計 3 箇所にしか用い

稔・玲子訳 平凡社 1995 年 234 頁)，『目薬』誌 No11(1998 年 12 頁)，『同』No.34 (2004 年 9-11 頁)，“New International Dictionary of New Testament Theology (NIDNTT) ”Vol.2 Colin Brown The Paternoster Press 1976 p.80-81。

[188] 拙論『目薬』誌 No.21 2001 年 11 頁)。

[189] 同 No.36 2004 年 1-13 頁)。フィリピ 2 章 6 節のハルパグモン，モルフェーなどについて，12 ページにわたり論じた。

[190] “A Manual Greek Lexicon of the New Testament” Abbot-Smith, T.& T.Clark, 1968 p.131。

[191] “Vine's Expository Dictionary of Old and New Testament Words” W.E.Vine Fleming H.Revell Company, New Jersey, 1981 p.247。

[192] 『新約聖書ギリシャ語小辞典』(織田昭 大阪聖書学院 1976年 98頁)。

[193] 同 No.36 (2004 年 11 頁)。

[194] 同 (〃)。

[195] 『英語類語辞典』(井上義昌 開拓社 1999 年 362 頁)。Form「形」の意味において，spirit との対照を暗示，実質(substance)と区別などの説明。

[196] 『目薬』誌 No.27(市川康則 2002 年 12 頁)。わたしは，神戸改革派神学校の市川康則教授からは，弁証学を学んだ。後に彼は校長[2007-2014]。

[197] form の語源ラテン語の forma は form の幅広い意味を理解する助けになったであろう。forma から conform, inform, formula などに派生した。それらはいずれも「外観，形，形状」ではない。哲学用語としての form についてアリストテレス[紀元前 384-322]は，「形相」に用いた。つまりある種類の事物を他のものから区別する本質的な特徴と捉えた。『ランダムハウス英和大辞典 A-L』(相賀徹夫 小学館 1990 年 992 頁)。

られていない。「その後，彼らのうちの二人が田舎の方へ歩いて行く途中，イエスが別の姿(モルフェー)でご自身を現された」(マルコ 16:12)[198]。マルコではモルフェーを「姿」と訳している。一貫性がない。旧訳のギリシャ語はどうか。『セプトゥアギンタ訳』[ギリシャ語(翻訳)旧約]にモルフェーはヨブ記 4 章 16 節，イザヤ 44 章 13 節にも出ている。それらもすべてモルフェーを「姿」と訳出している。イエス・キリストの神性(かみせい)を認めない『新世界訳』も同様である。モルフェーのヘブライ語 תְּמוּנָה (テムナー *temnah*)は，form だけでなく，likeness(性質にも用いられる)の意味がある。「私は義にあって御顔を仰ぎ見 目覚めてあなたの姿(テムナー)に満ち足りるでしょう」(詩編 17:15)。

三番目に，歴史上，人間の本性と神の本性が合わさった「姿」(モルフェー)をもつ人間はいないとキリスト教神学は教えてきた[199]。たとえば，「啓典の民」(ユダヤ教，キリスト教，イスラーム教)にとり，アダムは神に似た(ヘブライ語 צֶלֶם ツェルム *tselem* を(創世記 5:1)。ツェルムを『セプトゥアギンタ訳』[ギリシャ語(翻訳)旧約]はモルフェーではない。ギリシャ語エイコーンである。続く文脈の 5 章 3 節もエイコーンである。「アダムは百三十歳になったとき，自分の姿やかたち(エイコーン)に似た男の子をもうけ，その子をセトと名付けた」(創世記 5:3)。したがって，「形」と「姿」を混同してはいけない[200]。人間アダムは「神のかたち」(エイコーン)に創造された。キリストは「神のかたち[像](エイコーン)」ではなく，「神のモルフェー」である。

文の構造から，「固執する」か，それとも「強奪する」のどちらが適切か。(神の形で)「あり」(6 節)の動詞は，ὑπάρχω ヒュパルコー *huparcho* 「を持っている」である[201]。「の持っている」が，英語訳聖書 though, although [～けれど] 「譲歩」に続いてるならば，「ハルパグモン」が「固守されている」と訳すのが自然な流れである。本文はヒュパルコーが「譲歩」の分詞。「～ので」「原因・理由」に続いているならば，主節の動詞を「強奪する」という訳も考えられよう。二通りの解釈のどちらかの手がかりは，文脈の 7 節も関係している。ヒュパルコーは，「無にして」(7 節)と「考え」(6 節)の二つの言葉にかかっている。もし 分詞を「～なので」と解釈するなら「(神とは)考えない」こともあり得る。しかし，「無にして」の意味から，文体の意がつながらない。譲歩の「～けれども」と解釈すると，「考えない」，「無にして」と主節に自然に続く。したがって，ヒュパルコーは譲歩の分詞と考えることが道理にかなっているだろう。

脱会前，身分を隠して，近隣のキリスト教会，神学校などを訪問した。確かめたかった。総じて，キリスト教の僧職者たちは尻込みして，たじろいだ。フィリピ 2 章 6-8 節の註解はわからずじまいで，30 数名と脱会した[202]。

神の「モルフェー」であるキリストの道に歩む孤独の選択が始まった。

神学者にもなれず途中で脱落

福音派の教義者は異端を犯罪者と考えていた。身体的拘束して脱会プログラミングを解凍と称していた。わたしのものみの塔に対する論駁テキストを利用していた。説得救出に一人につき 100 万円をエホバの証

---

[198] 2013 年英語版以前の『新世界訳』。

[199] 『オリゲネス 4 ケルソス駁論 II』(出村みや子 1997 年 91-95 頁)。『諸原理について』オリゲネス (キリスト教古典叢書 9 創文社 1993 年版 56 頁)。

[200] スコポス理論に従って，典礼にふさわしく朗読の視点を失わない努力がなされたにちがいない。そこで「かたち」という伝統的な響きがあったものと推察する。『訓點舊約聖書創世記』(米國聖書會社 1881 年 2 頁)。「神日宣造人其像象」から『元訳聖書』，『文語訳聖書』は一貫して「像(かたち)」と訳していた。フィリピ 2 章 6 節の「體」(かたち)，7 節を「貌」(かたち)と訳出。コロサイ 1 章 15 節のエイコーンを「状」(かたち)と訳した。わたしは翻訳家ではないから，わからないが，一貫性がないことには黙ってられない。なぜなら「霊性」に関係するからである。

[201] 「持っている」は，動詞の場合と，分詞の場合がある。テキストは分詞である。主動詞である「固執する」，それとも「強奪する」のどちらが適切かは，従属節の「持っている」という動詞をつなぐ接続詞によって，ちがってくる。接続詞が逆接の「だけれども」だと，肯定対否定になる。一方，「なので，たから」だと，肯定＋肯定の構造になる。本文は明白に逆接であるから，「……だけれども」と考えるのが順当である。

[202] 『異端からの回心』(クリスチャン新聞いのちのことば社 1994 年)，拙論『目薬』誌 No.36(2004 年冬季号 10 頁)。

人の家族から得ている牧師たちもいた。神学的良心，学問的自律，正義を無視した魔的な活動だ[203]。中世の魔女狩り，十字軍，弾圧から何も反省していない。新天地を目指して，アメリカ大陸を目指したピューリタンの末裔は，原住民であるインディアンを蹂躙，黒人差別，貪欲を否定しない帝国主義にしてしまった。そのまま受け継いだ体質がありありと見られた。毎回赤字で出版していた『目薬』誌もやめることにした。脱会ビジネスの強制説得工作に用いられていることがわかったからだ[204]。

他者，異質な者，敵に愛が示され，自由が提示されるところに，私たちは日本の交わりに入っていくことができるだろう。隣人愛とは，情緒的なことではない。自分と異なる人たちの多様性を知り，その痛みを理解することである[205]。共生とは相手側には歴史をめぐる別の「物語」があることを理解し，受け入れる度量がいる。神は和解させ，和解したもう。

隣人愛を全うしようとするなら，体制化，アメリカのネオコン的ファンダメンタリスト[206]，受洗者数＝神の祝福という。もはやスピリチュアリズムの歩みから逸脱したビジネスマンの価値観に全身どっぷり浸かっている。

「きょうだいたち，私がそちらに行ったとき，神の秘義を告げ知らせるのに，優れた言葉や知恵を用いませんでした」(Ⅰコリント 2:1)。「神は私たちに，新しい契約に仕える資格を与えてくださいました。文字ではなく霊に仕える資格です。文字は殺し，霊は生かします」(Ⅱコリント 3:6)。

西方教会，とりわけプロテスタント教会は自由祈祷と言って，朝のデボーションから始まって，就寝までよく祈る。表現も豊かである。「天の高い座におられる父なる神様……」で始めたりする。アラブ・オーソドックス，東方教会，ローマ・カトリック教会の信者はその勢いに圧倒される。日本の伝統宗教にとっても，そんな祈祷は神が自分たちの外・客体・対象になっており，手の届かない存在に聞こえる。神道，仏教，他の日本の宗教家にとり異質に映る。今，ロシア，ウクライナの亀裂が起きている。限界に追い込まれている正教徒とコミュニケーションをする場合，長い祈りではなく，霊性が伴っていることが求められる(マタイ 6:7)。日本の伝統宗教の霊性，韓国の血を流すような全身で祈るスタイルが願わしい。祈祷会[207]に長年関わり，最近，気づかされた。否定はしないが，知性に偏重した祈りがプロテスタント教会の特徴ではないだろうか。プロテスタント信者はそうした内容をメモにとり，伝言ゲームのように真似をして聴衆の前で披露する。「我と汝」の霊的架け橋である祈祷に，美辞麗句の言葉の羅列を耳にした神主さんたちは閉口する。ハリストス正教会のヘシュカズム[208]を身につけたい。通常の視角の働きによるのではなく「神化させる賜物」である聖霊の力によって人間自身が変容され，いわく言い難い仕方で神を「見る」祈りである。イスラーム教の研究会で懇意になり，神戸にも一度ならずお越しいただいた宗教学者笠井惠二[1941-]は，わたしにローマ・カトリック教会の司祭井上洋治[1927-2014]を紹介した。井上は，神は理性では考えられなくても，全存在によって体験できる。何かを超えたもの，言葉にはならないものという意味で「無」とよぶなら，私たちは決して「無」について考えることはできない。無はただ生きて体験する以外に仕方のないものだ。神が，無を生き体験する行為の中にしか己れをあらわさないとするならば，神を対象化しうる一つのもののように考えて“神はあるのか，ないのか”とかいう問いには，的確な答えを与えることはできない。その問い自身が間違った問いかけだから，と[209]。井上神父の

---

[203]『組織神学Ⅰ』(ティリッヒ 谷口美智雄訳 新教出版社 1990 年 40 頁)。

[204] エルンスト・トレルチ[1865-1923]ドイツのプロテスタント神学者・宗教哲学者は，キリスト教以外の世界諸宗教に対する伝道上の攻撃を放棄するように提言した。キリスト教の絶対性，普遍性，純粋性を主張するならば，対話すらできない。『キリスト教の絶対性と宗教の歴史』(エルンスト・トレルチ 深井智朗訳 春秋社 2015 年)。

[205]『キリストの未来と世界の終り』(モルトマン 蓮見和男訳 新教出版社 1973 年 95 頁)。

[206] ネオコンは 1981 年以降，米国における新保守主義 ネオコンサバティズム(Neoconservatism)の略。ネオコンに犯されている日本，東南アジア，香港のクリスチャンが多いことは憂慮すべき現象である。

[207] http://kicc.sub.jp/2013/04/28%E3%80%8C%E7%A5%88%E3%82%8A%E3%80%8D%E3%80%80%E4%B8%BB%E4%BC%BC%E5%8C%96/

[208]『祈りの心身技法―十四世紀ビザンツのアトス静寂主義』(久松英二 京都大学学術出版会 2009 年 232 頁)。

[209]『日本とイエスの顔』(井上洋治 講談社 1983 年 74-75 頁)。

言い分は親しい神主と合致しよう。つまり観想の人だったからである。宗教は観念ではなく，体験であろう。「さあ，見に来てください」“Come and see ”と，サマリアの女性は村の人々に言った。キリストについて宣教(紹介)はしたが，伝道(回心させる布教)はしなかったのだ(ヨハネ 4:29)。理屈ではない。

宮司，僧侶，伝統的な宗教者は，キリスト教会には，神が身近にいないと感じる。「低きに下って御覧になる方」は教会に臨在していないからと，わたしは言いたい(詩編 113:6)。日本列島で生まれた宗教者にとり，神は，万物に内在し万物を包み込む神意識が感じ取れないことにある。神は包容力があるのに，知性でもって追究していく対象になっている。共同歩調がとれない差異を埋めるのが本稿の使命である。「めんどりが雛を羽の下に集めるように」という(ルカ 13:34)。

パウル・ティリッヒ[1886-1965]は神はあらゆる存在の基盤と言う[210]。

基層宗教

文豪ゲーテは世界，日本のうちに働く何かを求めた。

「いやはや，これまで哲学も，
法律学も，医学も，
むだとは知りつつ神学まで，
営々辛苦，究めつくした。
その結果はどうかといえば，
昔に較べて少しも利口にはなってはおらぬ。
……
世界を奥の奥で統(す)べているもの，
それが知りたい，また世界のうちに働く
力と元素のすべてを見究めたい，
そうなったら，もう言葉を漁(あさ)ることも要るまいと思ったからなのだ。[211]」

子どもの頃から，神社の境内でよく遊んだ。祭りにも喜んで行った。京都は盆地のせいか大阪，神戸より，夏は暑く，冬は寒い。生活のために語学を教えている。教え子は，「京都に卒業しても住みたい」，と異口同音に言う。その理由を尋ねる。ファージーな答えばかりなのはどうしてか。京都の魅力のひとつは，凛とした「神々(こうごう)しさ」ではないだろうか。神社を「信じている」，という信仰告白は聞いたことがない。「感じる」という感覚である。論理，知性，氏子が動機ではない。それはアニミズムじゃないか，普遍宗教の御仁からは一刀両断のもとにクリティック[批判]されるかもしれない。そこで理性をもって，客観的に説明を試みたい。鎮守(ちんじゅ)の森は都会では珍しくなっている。子どもの時から，ハイキングに父親に連れて行ってもらった思い出がある。時間をかけて登った。森があった。平地には，決して，森林のよう険しくはないのに鎮守の森と言う[212]。

人の手が入っているのが「林」である。英語では wood。一方，高い山であり，一般的に，人が足を踏み入れない山を「森」forest と言った。林は里山にある。山里が生活文化の担い手になった時代がある。今，山を脅かすのは，土石流，鉄砲水，開発事業である。決して乱気流，台風，ゲリラ豪雨だと先入主で判断していただきたくない。

---

[210]『組織神学第 1 巻』(ティリッヒ 谷口美智雄訳 1990 年 302 頁)。
[211] ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ[1749-1832]ドイツの詩人，小説家。『ファウスト(一)』(ゲーテ 高橋義孝訳 新潮文庫 1967 年 29，31 頁)。
[212]「大和の三輪明神始め熊野辺に，古来老樹大木のみありて社殿なき古社多かりし。これ上古の正式なり。『万葉集』には，社の字をモリと訓めり。後世，社木の二字を合わせて木ヘンに土(杜)を，神林すなわち森としたり。とにかく神森ありての神社なり。」南方熊楠『神社合祀に関する意見』(1992 年)。

わたしの導師である水垣渉(わたる)[213]は，「基層宗教性」[214]を生きたのみならず，学問として表現した3人のすぐれた学者をあげている。南方熊楠(みなかたくまぐす)[1867-1941]，柳田國男[1875-1962]，折口信夫(しのぶ)[1887-1953]である。3人とも日本古来の伝統に根ざし，基層宗教性において著しく神道的である。ただし基層宗教的に神道的ということは，必ずしも国家神道的ではない。柳田と折口の国家神道批判は，著しいからである。3人は仏教以前の日本古来の信仰を明らかにしようとした。南方は，1906年頃，明治政府は各部落[215]にたくさんあった神社を合祀(ごうし)してまとめようとした。南方は鎮守の森がなくならないように，神社合祀令に反対した。神社はどんな構造になっているか。ユダヤ教の幕屋，神殿の構造とまったく同じという日猶同祖論[216]の説の先入観があると日本人性についての理解は曇るだろう。神戸改革派神学校の岡田稔が強調した「土のついたままの福音」こそ，共存の糸口になる[217]。日本の多くの神社は三つの構造からなっている[218]。一番中心に本殿がある。これは「信仰」の対象である。その本殿が立地する境内は，「芸能」の場である。たとえば，生國魂(いくたま)神社の境内で大阪落語の祖・米沢彦八が活躍し，あるいは御霊(ごりょう)神社の境内が文楽発祥の地だった。そしてその周囲の社叢，鎮守の森は「伝承」を生む場所である。たとえば，信田の森の「葛(くず)の葉狐(はぎつね)」の伝承がある。「恋しくば尋ね来て見よ 和泉なる 信田の森の うらみ葛の葉」。このように三つの構造から成っている。実際には三つが相互補完的に一体となって存在している。本殿で舞われる神楽が芸能の始まりになった。

国際宗教の仏教が日本に伝来する前からの連綿と続く基層宗教には，先祖崇拝，お盆，境内での神事があった。しかし，仏教の中でも浄土宗，真宗大谷派，臨済宗妙心寺派，曹洞宗は，本来，死後の「霊魂」の存在を積極的に認めていない[219]。ある時，お釈迦様は弟子から，「死後の世界があるかどうか」と問われた。そこで釈迦は，「弟子よ，たとえばある男が毒を塗られた矢で射られたとしよう。男はこう言う。『私を射た者の階級はバラモン(僧侶)か，クシャトリヤ(武士)か，ヴァイシャ(平民)か，スードラ(奴隷)か。あるいは，私を射た者の背は高いか，低いか。また，あるいは私を射た者が使用した弓や矢はどんな材質でどんな形状か…それらが分かるまで，この矢を抜いてはならない。それを私は今，知りたい』と。そうこうしているうちに，その男の命はなくなってしまうだろう。必要なのは，まず毒矢を抜くことなのに。お前の問いはそれと同じだ。お前の問いは，人間の本質的な苦しみや悩みとは関係のないことだ」――。つまり，「語っても意味のないことだから，扱わない」というのがお釈迦様の回答だった。

ヒックは，民衆から宗教が必要だと受容されるには，独自性の強調より，宗教だけがもっている平和への共通性の発見と省察で十分であろう。文明について，真か偽のいずれかの問題として語ることは適切ではない。同様に宗教についても真か偽かのいずれかの問題として語ることも適切でない，と言う[220]。

基層宗教へ脱皮

---

[213] 水垣渉[わたる 1935-]キリスト教学者。京都大学名誉教授。日本基督教学会前理事長。(社)神戸国際支縁機構設立理事。「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」(略称:推す会)前代表。『初期キリスト教とその霊性』(水垣渉 日本キリスト改革派教会 西部中央文書委員会 2008年)。

[214] 「基層宗教」とは，仏教以前の日本古来の信仰。

[215] 日本の村は，明治になって合併され，旧村名は大字となった。たとえば，妻と結婚する前，彼女が住む地が奈良県北葛城郡香芝町大字逢坂の「逢坂」と書けば，番地がなくても届いた。限界集落でボランティアをしているが，きだみのる[本名・山田吉彦，1895-1975](小説家，代表作『気違い部落』，翻訳者ファーブル『昆虫記』)は，日本全体に共通する集落について述べた内容はおおむね変わらない。村には川に沿う平地に34,35の部落が自然的な地域集団として発達している。部落の文字は，基準にしているぼくの部落のように一人の親方或は世話役が世話し纏めている部落或は肥大した部落ではその細分Fraction(これは時によると3,4軒のこともあるが普通10-13,14軒だ)を指すこと。『にっぽん部落』(きたみのる 岩波新書 1967年 10-11頁)。

[216] 『景教の研究』(佐伯好郎 名著普及会 1978年)。

[217] 『キリストの教会』(岡田稔 小峯書店 1970年 252頁)。

[218] 『大阪の神さん仏さん』(釈徹宗・高島幸次 株式会社 140B 2012年 29-30頁)。

[219] 『「霊魂」を探して』(鵜飼秀徳 角川書店 2018年)。

[220] 『宗教の哲学』(同 240頁)。

「かくれキリシタン」は，江戸時代の 250 年間の迫害 のなかを生き抜いた。これほど長期にわたって持続した組織的徹底的な禁圧と迫害に耐え抜いたキリスト者は，キリスト教史上他にほとんど類例がない。その結果は，ローマ・カトリック正統信仰からの逸脱・ 異常化，民俗信仰化，シンクレティズムである。たとえば，仏教の本来の教えから考えれば，お盆のような風俗は問題である※。祖先崇拝，現世祈願，水子供養などは仏教のものではなく，「民族宗教性」である。つまりザビエルたちの教えはほとんど変節してしまった。しかし，「かくれキリシタン」の力が信仰の基層宗教化と分 かちがたいものであったことに注目したい。谷川健一は次のように述べている。「教義の内容はどんなに変容していようとも，彼らは，自たちの信仰は潜伏時代から一貫してきたと信じていた。彼らはケ レンド(信仰箇条)の解釈のちがいを問題にする前に，目に見えない白刃が迫ってくることをたえず意識しながら，かすかな咳ばらい，目くばせ，額にのせた指，自分の胸をゆびさす動作で，自分たちの信仰がおなじであることを知らせなければならなかった」[221]。海外ボランティアでは，言語が通じない，識字と無縁の子どもたち，よそ者の旅人であるわたしは目で，身ぶりといった非言語コミュニケーションになる。潜伏キリシタンと同じで，わたしは奇跡など行うことはできない。2019 年 7 月 2 日，ガーナ国最北端のワ・ナ宮殿に集まった 11 地域の長官を束ねるフセイン・セイドゥ・ペルプオ 4 世[1950 年 2 月 28 日生]という王に謁見した。ワに孤児の家を造る許可を得るためであった。11 人の王たちから尊崇を受けているペルプオ 4 世は威厳があった。ひざまづき，何度も深々とおじぎをする。「郷に入っては郷に従う」という作法だけでは，訪問目的を果たせない。「カヨコ・チルドレン・ホーム」を建てる許可も得られない。子ども人身売買，海外へ労働力として連行，新しいビジネス立ち上げに利用などの邪推をどう払拭すべきか，板の間に正座している足に汗がべとっと吹き出る，白人が抑圧してきた歴史が長いだけに信用してもらう至難の業である。王族のメンバーはわたしを凝視している。彼は妻が 100 人いるそうな。その場には一人も女性はいない。飲物もない。重圧のような空気が一瞬，日本にいない大きな鳥が天井に入ってきた。するといきなり拍手が始まった。神からの使いが日本からの客人を友達として受け入れてよいという展開であった。わたしが何か特別な行為をしたのでもない。ただ自然界の生き物である鳥の顕現が信頼される証しとなった。わたしは王の隣り籍に座るようにすすめられた。バヌアツが超大型サイクロン「パム」，風速 96 メートル以上で，2015 年 3 月 13 日～14 日，吹き荒れ，人口 26 万 7 千人の全土を暴風雨に巻き込んだ。孤児の家を造るために，首都ポートビラから奥地に案内された。ほぼ裸体に近い生活をする人食い人種もいると聞いていた。2015 年 7 月 9 日，二回目の訪問でマンモ酋長に土地の交渉をした。どこの国でもそうだが，先祖代々の土地の争奪戦で苦労して保持しているから，簡単に貸したり，売ったりすることはないとボールドウィン・ロンズデール大統領※やウルリッチ・スムトー (Ulrich Sumptoh)ポートビラ市長に会見した際，聞いていた。大統領は取材に来ている記者にだれか土地を貸すような人を知っているか，と問うたりした。答えは，ノー。大統領や市長が懇願しても土地貸借は無理との話だった。スコールの雨が降っており，ヤシの葉っぱの屋根の小屋で，雨漏りする中で，土地を孤児のために，提供して欲しいと願い出た。酋長は一族の主だった 2 名を呼んだ。地元の者でもない，初対面の日本人に軽々に土地商談を成立させることは百万分の一の確立で低かった。マンモ酋長は英語もわからない。みんな首を横にふっている。帰り際，どんな生活をしているか見せて欲しいと身ぶりで伝えた。遠路，来ているのに，申し訳ない気持ちがあったのか，雨の中，集落を見せようとした。大きな手で，大きな目をして，これがお父さんの家，あれがいとこの家と通る声で，途中，出会う女性

[221]『かくれキリシタンの聖画』(中城忠・谷川健一 小学館 1999 年 16 頁)。そのような状況において，かれらはかつて教えられたマリアとイエスの物語をもとに，『天地始之事』(てんちはじ まりのこと)という，創世記と福音書とを合わせた一種の日本化した聖書物語を作り上げた。かくれキリシタンはまさに，谷川がいうように，「思想の日本化，もしくは土着化の貴重な実験例」(15 頁)である。わたしは，キリシタンについて講義を担当した際，潜伏キリシタンは，魔境，灯籠，墓石などに一般人が不明な暗号のような足跡を残してい たことを論じた。オラショ(祈祷書)についてもまったく異質なキリスト教である。

に日本人の客人にあいさつするように笑顔をたくわえて言う。10 分ほどしたら，広場のような空き地に来た。酋長の家から 100 ㍍である。急に雨がやんだ。するとモナクという一匹の大きなイエローの大きな蝶がその広場を舞っている。わたしを含めて，マンモたちと 4 人はずっと蝶の飛ぶ道に視線が釘付けになった。佇んだ。神秘的な光景だった。スコールが止んでいたことも忘れていた。虹が守護神かのようにグリーのジャングルをやさしく包んでいた。そこをモナク蝶が優雅に飛んでいる。何気なく「ここはどうですか」，と言うと，OK というまさかの返事。すぐに，酋長たちの気が変わらないうちに契約書に署名してもらったことは言うまでもない。後日，あの時，モナク蝶が飛んでいたのを覚えていますか，と尋ねると，マンモは，「あんなすごい光景，生まれてはじめて見たよ」，と。その時の感動を忘れられないようだった。マンモたちに孤児の家を決断させたのは，一匹の蝶だった。2015 年，ネパール国カトマンズの大地震があった。日本から 4 人であった。5 月 14 日，15 人が死亡，41 人が負傷し，227 戸が全壊のキティプル地区に入った。90 パーセントの家屋が砕けていた。ネパール人も「死」の反対は「命」と考える。わたしは，「死」の反対は「よみがえり」だと信じていると言った。それが伝言ゲームのように家族を亡くした人たちに伝わった。「死人をよみがえす」，ととんでもないうわさになっていた。わたしに合わせろと負傷者を連れて家族が次々とやってくる。下敷きになり避難所で手足を骨折し歩けない夫を失った女性ドゥルガ(Durge)のところへ案内された。その際の報告。※ボランティアとして被災者のそばに座り，家族を亡くし，生きる希望を失った人にただ静かに哀しみを聴くだけです。手当てはギリシア語でテラペウオーです。セラピストの語源になりました。治療はイヤオマイです。ボランティアができるのはセラペウオーとして弱った魂の手を握り，哀しみの涙を革袋に入れてあげることぐらいです。つまり心の *care* ケアです。キュア *cure* ができるのは医師です。

2 回目のネパールは，二人の学生村田義人，谷口浩平と一緒に，険しい山岳地帯を越えて，マナハリに行った。ガシンは末期がん癌で医者から見離されたこと，腎臓を悪くしているため腹部に激痛があり，立ち上がることができない。着くやいなや井戸で手を洗い，横たわっているベッドに座り，息づかい，目の力，食欲などを訊いた。氣力がなく，答える声も聞き取りにくく生きた屍のようであった。交代して，学生たちもガシンの手を握っていた。翌朝ガシンは回復し，自力で歩き，手洗いに行ったりした。※食欲がない，熟睡できない，痛いと筆者に訴えます。ただただこのまま陰府の世界に見送るために日本から来たのかと覚悟を迫られます。医師でもなければ，祈祷師でもなく，蘇生させる術も何も持ち合わせていないからです。くやしさいっぱいです。涙が出て来ます。目を閉じ，何をしにネパールに遣わされたのか，葬送儀式を執り行うために，学生たちと一緒に来たのか，と神に問いかけます。医者は確かに生き続ける処方を知っており，家族から感謝されます。一方，筆者は弔う，つまりアデッシュの兄の死を看取る場に居合わせます。

医者は光，こちらは闇，地獄からのお迎えのへだたりです。さらに，お金，薬，手術の技術もありません。せめてもできることはガシンの友人になることぐらいです。彼の最後の証人となろうと腹を据えます。妹ユリカが食事を私たち日本からの客人のために準備しています。時々，自分の兄の側にいる筆者に，「もうだめなんですか」と目で尋ねます。「……(首を横にふって)あきらめてはいけない」と応じます。何の裏付けもなしに，無責任にも気休めの言葉を兄思いのユリカに伝えました。約 30 分間，彼の手を握り，自問します。「葬りの備えをするためにあなたは私をネパールによこしたのでしょうか。彼の代わりに自分に痛み，苦しみ，病を与えてください。神様，助けてください」と祈ります。何の反応もないままです。そこで天に，「あなたが生きておられる神なら，彼を回復させてください。そのためには自分のいのちは惜しくありません」とうなるように吐いた。

b. 多元宗教から無宗教へ

エクスーシアの「パプティノコン」から解放される

スペイン風邪の時も，宗教界，とりわけキリスト教界は再臨が近い，と伝道に明け暮れていた。コロナ禍，災害，「自助・共助・公助」のパラダイムでは，抑圧されている貧者は救われない。

歴史を振り返っても，今日の国際的な対話の場において，プロテスタント神学者エルンスト・トレルチ[1865-1923]はキリスト教の絶対性について徹底的にクリティック[批判]している。トレルチは，キリスト教以外の世界諸宗教に対する伝道上の攻撃を放棄するように提言した。キリスト教の絶対性[222]，普遍性，純粋性を主張するならば，対話すらできない。つまり，世界宗教は「排他主義」(Exclusivisim)，分離主義(Secessionism)に陥ってはならない（Ⅰテモテ 2:4; Ⅱペトロ 3:9)。さらに，キリスト教が「包括主義」(Inclusivism)（黙示録 17:13)で，エクスーシアをふりかざして諸宗教に君臨するためのエキュメニカルな運動は問題である(黙示録 17:17)。聖書には「キリスト教」（クリスティアニスモス)という言葉すら出てこないのを忘却している不遜な世界観である。「多元主義」(Pluralism)に基づいて行動することが求められる時代である（フィリピ 2:3)と，トレルチの提言を宗教者は肝に命じるべきであろう（フィリピ 2:3)。

多元主義に眉をひそめるキリスト教信者はいる。外典，つまり続編を読まないし，聖書を独りで読解する力がないからであろうか。常に牧師センセイ，教導権をもつエクスーシア，統治体に紐解いていただかないとわからないような思考回路になっていまいか。一種の「パノプティコン」であるとするなら，全世界のキリスト教徒は解放される必要があろう。キリストは，十字架上で「イエスは，このぶどう酒を受けると，「成し遂げられた」(τελέω テレオー *teleo*＜Τετέλεσται テテレスタイ *tetelestai*)と言い，頭を垂れて息を引き取った(ヨハネ 19:30)。つまりキリストのはたらきは完了した。何か人間側で補足，つくろう，とどめを刺す必要はない。二度キリストを釘付けにしたいなら，別だが。「私を見た者は，父を見た」，とあるからには，神学校，キリスト教主義の学校[223]，教会で，属する教団，教派の特製教理を学ばなくても，責任ある対話ができよう。「しかし，『神の子が来て，真実な方を知る力を私たちに与えてくださったことを知っています』」（Ⅰヨハネ 5:20)。特別な学びをしなくても，「知る力」が与えられるように変わった。「だれからも教えを受ける必要がありません」（Ⅰヨハネ 2:27)。

宗教多元主義を発題したジョン・ヒック[1922-2012]は述べる。「世界の偉大な宗教的伝統は，無限の同一の神的実在に対する人間のさまざまに異なる覚知と対応をあらわしているのだとすることが，一つの可能な，また確かに魅力のある仮説である」[224]，と。

絶対性を要求する人たちは，キリスト者であれ，マルクス主義者であれ，人類の模範ではない[225]。女性哲学者ヒュパティア[370-415][226]を残虐に葬ったのは聖人アレクサンドリアのキュリロス[376-444] ではなかったのか。ウンベルト・エーコ[1932-2016] 作の『薔薇の名前』(映画化)は宗教絶対性が内包する危機をつまびらかにしている[227]。閉鎖を打破するために，宗教戦争が行われた。ソ連の巨大な捕虜収容所が建てられたりした。

---

[222]『キリスト教の絶対性と宗教の歴史』(エルンスト・トレルチ 深井智朗訳 春秋社 2015 年)。『宗教多元主義モデルに対する批判的考察 ―「排他主義」と「包括主義」の再考」(小原克博『基督教研究』第 69 号 2007 年 26-30 頁)。

[223] ミッション(外国の宣教団体)が資金源。ちなみに，「同志社はミッションスクールではない。キリスト教主義の学校。ミッションから金をもらうけど，エクスーシアに口は出させない。

[224]『宗教の哲学』(ジョン・ヒック 間瀬啓充・稲垣久和訳 勁草書房 1997 年 256 頁)。

[225]『教会に未来はあるのか』(コンラート・ファーナー 佐伯晴郎訳 新教出版社 1980 年 116 頁)。

[226] ヒュパティア[370-415] 女性哲学者 優れた数学者・哲学者として弟子から政界と宗教界に要人を輩出したけれども，「考えるあなたの権利を保有してください。なぜなら，まったく考えないことよりは誤ったことも考えてさえすれば良いのです」と語るヒュパティアの知性を当時のキリスト教は神に対する冒涜として，残虐に殺害した。『ローマ帝国衰亡史 二』(ギボン 村山勇三訳 岩波書店 1992)。1995 年，神戸国際キリスト教会はホームページの「エキュメニスティ Ecumenicity」で発信。http://kicc.sub.jp

[227]『薔薇の名前』の聖職者，(上・下)(ウンベルト・エーコ 東京創元社 1993 年)。ホームページ 同。

フランスの哲学ミシェル・フーコー[1926–1984]は，民心を掌握するには，権力側の手法を説明している。

「イタリアのマルクス主義者アントニオ・グラムシは，そのような自発的服従をヘゲモニーと呼んで，暴力的な強制である権力と区別した。つまり，彼は，国家の秩序は暴力装置だけでなく，その成員を自発的に服従するようにさせるイデオロギー的装置(家族，学校，教会，メディアなど)によって支えられているのだということを指摘した。こうした見方の延長線上で，ミシェル・フーコーは，権力が中心にある実体的な何かではなく，ネットワーとして遍在するものだというようなことを主張した。このような意見は，国家権力をブルジョアの階級支配のための暴力装置としてみるような古いタイプのマルクス主義者に対する批判としては有効だろう。しかし，いずれも，国家をその内部だけで見るという点では，つまり，国家が他の国家に対して存在するという位相を見ないという点では，同じことである。国家をその内部だけで見れば，国家に特有の権力は見えなくなる。そこで，国家の権力は，共同体や市場経済がもつ社会的な強制力(ヘゲモニー)とされてしまう[228]。

フーコーは著書『監獄の誕生』で，「パノプティコン」という「一望監視施設」を刑務所の中央に置く構造を近代権力の在り方と言う。囚人にとり自分がつねに凝視される意識を注入する。権力を自動的なものにし，権力を没個人化する。被拘留者にしてみれば，不意をおそわれる危険と観察される不安意識がなおさら増すというわけである。「監視されているという思いを繰り返し反復する」。するとエクスーシアが「そんなことを言っていません。勝手に思っただけでしょう」，と開き直ることができる。[空気]，「忖度」，「あいまい」だと為政者は逃げられる。そんなエクスーシアの狡猾な支配にたじろぎたくない。「この民が陰謀(קֶשֶׁר ケーシェル *kesher*)と呼ぶものを 何一つ陰謀と呼んではならない。彼らが恐れるものを恐れてはならない おののいてはならない」(イザヤ 8:12)。

ナポレオン戦争後，キリスト教会出席数が減少した。ヨーロッパ全体に厭世観が漂う時，救世主のようにフリードリヒ・シュライエルマッハ[1768–1834]ドイツの敬虔主義神学者。自由主義神学の先駆者は登場した。シュライエルマッハは，夕日が沈む光景を見てだれしも感動するように，宗教は，理屈ではないと説いた。直観と感情が決め手であると強調した。彼の宗教論，とりわけ『神学通論』[229]は，信仰は神なしでも成立すると問いた。キリスト教会の礼典，儀式，サクラメントを上回る敬虔 piety を追究した。「直感」と「感情」を煮詰めると，「絶対依存の感情」フレーミッヒカイト Frömmigkeit が形成される。すると，神の居場所はキリスト教会から人間の心の中に移った。しかし，忍び寄る戦争の軍靴の抑止には効力はなかった。

絶対性

すべては絶対性の名においてである。イデオロギーももはや模範ではあり得ない。私たちは開かれていなければならない。ナザレのイエスは何人かの信奉者のためだけでなく，万人のために死んだ。「一人の正しい行為によって，すべての人が義とされて命を得ることになったのです」(ローマ 5:18)。

万人のために死んだからだ。それは宗教の歴史においてまったく新しいことである。すなわち神は万人のために死んだ。「キリストにあってすべての人が生かされることになるのです」(Ⅰコリント 15:22)。自分の宗教の外部にいる人々，自分の民の外部にいる人々のために死なれた—。これはユダヤ教の宗教的見解とは対立するものであり，だからこそ，人類の希望だと言える。「神は，すべての人が救われて，真理を認識するようになることを望んでおられます」(Ⅰテモテ 2:4)。「この方こそ，私たちの罪，いや，私たちの罪だけではなく，全世界の罪のための宥めの献げ物です」(Ⅰヨハネ 2:2)。

---

[228]『監獄の誕生—監視と処罰』(ミシェル・フーコー 田村俶訳 新潮社 2020 年)。

[229] 『神学通論』(シュライエルマッハ 加藤常昭訳 教文館 1962 年 ※

万人に神は救済の道を設けられたのか。キリスト教神学校では，万人救済は非真理と教える。多元主義の波が西方教会に押し寄せている。アラブ・オーソドックス，正教会のように，「啓典の民」であるならキリスト教，イスラーム教も寛大であるべきだろう。

メディアはあいもかわらず，「停戦」のウソ情報満載。第二次世界大戦後の朝鮮戦争[1950 年 6 月 25 日-1953 年 7 月 27 日休戦]，ベトナム戦争[1955 年 11 月 1 日-1975 年 4 月 30 日]，湾岸戦争[1991 年 1 月 17 日-1991 年 2 月 28 日]などがあった。1945 年 6 月 26 日に米国サン・フランシスコで調印。同年 10 月 24 日，国際連合憲章の効力発生。憲章は大国の拒否権により，死文化している。紛争，戦争，確執を抑止することができてこなかった。「悪しき者や悪事を働く者と共に私を引いて行かないでください。彼らは友に平和を口にしますが 心には悪意を抱いています」(詩編 28:3)。国際連盟は大国アメリカが批准しなかったため，無力であった。第二次世界大戦も阻止できなかった。戦後，国際連合と衣を変えて登場した。理事国の拒否権の濫用により，国連憲章も死文化している。もし次なる世界大戦が勃発するなら，地球上の民が歓呼して，新しい国家，民族，言語を超えた世界的な宗教を希求するだろう。獣のような国家を制御し，ニムロドのように，統一を目論むだろう。

「抵抗権」が完全に抹殺されているエクスーシア体制で，宗教者であっても百姓一揆の首謀者になることもあるだろうか。1919 年 3 月 1 日当時に生きていたとしたら，自分はどうするか。日本の不当な支配，潤沢な地は収奪された朝鮮半島。日本のエクスーシアによる理不尽，詐欺，ペテンの外交によって蹂躙されてきた。同朋を見殺しにはできない。宗教者であっても，時の政権に刃向かわないとは，断言できない。「もし盗人が家を壊しているところを見つかり，打たれて死んだなら，死なせた人には血の責任はない」と，聖書でも不可抗力のケースを認めている(出エジプト 22:1)。

イデオロギー，独裁者，官僚制度で，自由が奪われている抑圧から平和を希求する 20～30 代の若者たちが，1971 年 7 月 23-24 日，フィリッピンのマニラの国際会議で，夜を徹して寝食を忘れて話し合った。

左端がウクライナ青年代表。1971 年 7 月 23 日。

右から 2 番目が UYA ウクライナ。1971 年 7 月 24 日。

テロ国家とも外交で和解

ドイツ，ノルウェー，イタリアなどの参加者の中にウクライナの青年がいた[230]。当時から，米国は常に超大国

[230] 1971 年 7 月 23-24 日，フィリッピン国マニラ市で，国際会議があった。わたしは，前年度議長であったため，招かれた。その際，ウクライナから指名手配されていた極右ナショナリストのスラヴァ[1920-2003]と会食。夫ヤロスラフ・ステツコ[1912-1986]は徹底した反ソ連の地下活動の指導者。同席していたウクライナの若者リーダー(一人は ABN ウクライナ，もう一人は UYA[Ukrainian Youth Association)と世界平和について論じ合った。
https://www.jstor.org/stable/41036794
https://coat.ncf.ca/research/Chomiak-Freeland/C-F_9.htm

としてソ連の存在が鼻持ちならなかったようだ。ウクライナの代表団は，会議出席者たちに冊子を配布したウクライナUYAの同年代の青年はわたしに，ソ連軍に対抗する図入りの鉄砲製造法を示した。その冊子の表紙は共産主義が素晴らしい，中は抵抗運動の武器の作り方が書かれている。UYAのメンバーはほとんどがキリスト者であり，白人優越主義者であった。平和ぼけをしている日本人には，別世界の闇を見た。ウクライナ人はいかに弾圧されているか会議で発表。オーストラリアに亡命しているウクライナの反ソ連団体ABNの代表なども国際世論に訴えるために，参加していた。出席者はウクライナに同情したのは言うまでもない。わたしは理不尽なソ連の圧制下で，自由がない主張を聞いても，飛び込むほどの勇気はなかった。決断を鈍らせた理由はUYAや，親組織のABNがナチズムを支持していたからだった。NATOがウクライナをすぐに受け入れを承認しない理由のひとつは優生思想，ナチ崇拝が理由ではないかとわたしは推察する。臆病だった。その時，同調してテロ分子として加勢していたら，戦場の露として今はないかもしれない。複雑な心境である。あの時，キエフに飛び込んで，ソ連軍と戦っていた方が良かったのか，それとも犬死にだったのか。答えは，「無」である。今回のロシア軍の侵攻で，無辜の民が戦死している。許せない暴挙だ。無抵抗の市民が事態，侵略，殺害によって犠牲になっているのを黙って嵐が過ぎ去るのを待つべきか。1971年のウクライナの代表団の多くは存命していないにちがいない。あの時，テロとしてウクライナに戻った青年をはじめ，ソ連軍に抵抗した面々は今も筋金入りのコマンドと想像する。どうしているだろうか。存命なら75，76歳だろう。彼らの精神的支柱はウクライナ・カトリック教会司祭のアンドリーイ・バンデーラ[1882-1941] である。その息子もウクライナ国民にとって英雄である。2014年のロシアに対する東ウクライナの反逆の根っこに一世紀以上の壮絶な戦いの溝が連綿と尾を引いている。日本で耳にした時，国際会議でウクライナに同情したエートスが再現していた。だからと言って，自分の家庭，語学教師，牧師を捨てて，抵抗運動に参加しただろうか。ナチのわが闘争の手法と，ロシアは一歩もウクライナの反逆に妥協していない。欧州から西ドイツのベルリン，ポーランド，モスクワを経て，シベリア鉄道でナホトカに向かった。車掌兼機関士の独身女性にときめいた。他の車両の乗客たちもミロスラーヴァと話したく，奥さんに内緒で話しかけにきた。食事のお代わりがほしいという口実だ。異性の外見にのぼせるのは洋の東西を問わない。わたしも1週間でロシア語に上達したのもミロスラーヴァ彼女のおかげである。レーニンの風貌そっくりの将校，季節労働者，子どもみなチェスの達人ばかりだった。武士道の皮を斬らせ，肉を斬る，肉を斬らせ，骨を斬る式に対戦するが，歯が立たない。信じがたい巧みなプレーヤーばかりだった。初老の労働者風の男性だった。こちらが勝った時，小学生のようにムキになって，挑んで来た。負けた駒の配置，勝った時の駒の配置は今でも覚えている。時間に追われない長旅であった。外は雪景色である。もう退屈だから，と途中下車しても凍死が待っているだけ。スラブ人なのか，しかし，共通していたのはユダヤ人との対戦だった。自分たち民族以外は不倶戴天の敵として，終盤，有利であるにもかかわらず，徹底的に相手の再挑戦の芽を摘んでしまう。背筋が冷たくなった。幾世紀にもわたってゲットーに追いやられ，容赦なしに個人財産はキリスト教でないというだけの理由で没収されてきた悲劇。だから他民族，人間の罪(ヘブライ語 חַטָּאת ハタアット)，異民族の不浄さに対する不信がある。同じソ連邦国民であっても民族宗教と普遍宗教の属性がゲームにも影を指していた。シオニズムの一端を身体で学ばせられた。アメリカでわたしにチェスを教えたユダヤ人とまったく同じアイデンティティであった。鉄道内は風呂もない。不自由なはずだが，ロシア人とは心から打ち解け，列車全体が家族になった。シベリア最終駅ナホトカで下車。その後，美人車掌がソ連国で普通の結婚生活を送っただろうに。その夫が2014年のウクライナ侵攻に鎮圧軍としてソ連側に付いていたとしよう。あくまでも仮定である。やはり彼は〇〇の自製鉄砲の的になって殺害されていたとしよう。いずれにしても紛争地最前線ではかない命を潰えた両陣営の忠実な愛国者たち，弔う者もなく，歴史に記憶されていない。そんな虫けらのようないのち。人間は死ね

ば，ゴミ同然の二束三文の扱い。慰霊の聖職者による祈祷，無名戦士の墓，靖国神社に祀られたら，生の本望であるのか。あまりにも不公平，不平等，無慈悲である。「無」とはそういうことか。聖書には，「あなたの死者は生き返り 私の屍は立ち上がります。塵の中に住む者よ，目覚めよ，喜び歌え。ウクライナを支持する側はロシアの非道をなじる。それが正義だと思っている。一方，ロシアを支持する側は，ウクライナのナチズムを非難する[231]。あなたの露は光の露 地は死者の霊に命を与えます」と(イザヤ 26:19)。 ニムロド以来の「一つ」にする政治的野心にどれほど多くの人々が冷たい地で野垂れ死にしたか，計り知れない。自分たち祖国だけは特別だというならず者の「国家」に対する歪んだ愛は倒錯行為だ。ロシア，ウクライナの両成敗の発想ではない。エクスーシアの国拡張，「個」である各国の創世記物語思想，宗教に踊らされてきたことに，立ち止まれ，と良心が叫ぶ。さもないと地球を何万回も破壊できる核というおもちゃを地上戦に限定して，威圧する戦術に向かわせる。歴史を検証して明白になったであろう。家庭，社会，国家，もちろん宗教組織もそうだが。人心をある方向に向かわせるのに「二元論」durism，「弁証法」dialectic，「両義性」ambiguityを用いる。民に，「郵政，民営化か，否か」，「大阪都構想，是か非か」，「憲法改正か，擁護か」，と迫る。茶の間でエクスーシア側のコメンテーターたちが話題沸騰させる。人間は創造者ではないので，同じことを歴史の中で繰り返してきた。そんなニムロドを喜ばせるパターンにいい加減に終止符をうつべきだ。

「平和大学」は宗教的な立場で発信している。わたしは政治家ではない。政教分離をアメリカ建国以来，首尾一貫として掲げてきたその国が，どうだったか。9・11テロを契機に「テロリズムとの戦争」に明け暮れてきた。ジョージ・ウォーカー・ブッシュ[1946-][232]は，「善」と「悪」の二元論の図式で，悪を撲滅することに軍事力を行使してきた[233]。ロシア，中国が世界に派遣拡張という宣伝している張本人はキリスト教国を標榜するアメリカのミッションであろう。2001 年 9 月 11 日以降に，世界に覇を求めてきたのは外ならない米国の宗教右派であった。つまりアメリカは，エクスーシアを持つ「帝国」として君臨してきた。GAFAM(ガーファム)[234]で，地球のいたるとことに，「民主主義と自由の拡大」の大義を浸透させてきた。アメリカ大統領の神学は「帝国の神学」であり，「戦争の神学」である[235]。今回のウクライナ戦争に対しても，エクスーシアの頂点を顕示する「包摂」の好機と捉えている。ロシア，中国こそが覇権主義という一方的な啓蒙である。西側陣営で，アドルフ・ヒトラー[1889-1945]よろしく SNS でマインドコントロールの周波数を発信し続けている。覇権的なローマ帝国のパクス・ロマーナの模範生であるアメリカは，世界に民主主義と自由を拡大する。アメリカ自身の安全を保証するからである。「略奪者の天幕は安全で神を怒らせる者　神を支配しようとする者は安らかである」(ヨブ 12:6)。ネオコンのわかりやすい二元論，マニ教主義ロジックで知的武装したアメリカこそ，21 世紀の帝国である。

そんなアメリカに追随する政・官・財・学，メディアはレッドカードである。続投する資格はない。総辞職せよ。むしろ「神の国(浄土)と正義をたいせつにする」クラスに明け渡すべきである。障がい者，病人，婦女子，孤児，娼婦，流れ者―社会の底辺の階級の人びとこそ弱者の痛みがわかる。そんなことをしたら，世の中，めちゃくちゃになるか。革命という熱を加えなくてもよい。やらせてみよ。少なくとも現代の人類が抱えるリスク

---

[231] ウクライナの極右ナショナリストたちの存在は，日本の報道ではほとんど扱われない。「統一ヨーロッパ」を支持し，ウクライナが北大西洋条約機構(NATO)加盟と再核武装を主張している。「親 EU」であるために，欧米メディアは，ナチズムによって「民主勢力」であるかのように報道されている。ウクライナの極右ナショナリストは多文化主義を否定する。さらに白人中心主義と移民排斥を標榜している。“LeMONDE diplomatique”(Feb. 2022)『ル・モンド・ディプロマティーク』(2022 年 2 月号)。

[232] 米国第 43 代大統領(在任: 2001 年 1 月 20 日-2009 年 1 月 20 日)。2001 年 11 月，アフガニスタンのアル・カイーダ掃討作戦を開始。2003 年 3 月 20 日，大量破壊兵器があるという嘘でイラクを砲撃。リビアのカダフィ大佐を駆逐。

[233] 拙論『あなたはいつ抑圧された人に寄り添うのをあきらめたのか』(神戸新聞会館 聖書のことばシリーズ 第 86 回 2021 年8月 1-2,11 頁)。

[234] 米国巨大 IT 企業 Google, Amazon, Facebook, Apple, Microsoft のビッグ・ファイブの総称。ビッグ・テック，テック・ジャイアンツ。S&P のこと。

[235] 『キリスト教帝国アメリカ』(栗林輝夫 キリスト新聞社 2005 年 298 頁)。

はなくなろう。リセットするのではない。体制，宗教をデリートしてみたらどうなるだろうか。体制を変えるだけでは成功しない。同時に人間を変革しなければならない。

b. 倫理的独創性　神に見捨てられた現代人　多元的宗教から無宗教へ

神学者ディートリッヒ・ボンヘッファー[1906-1945] は言う[236]。

キリスト者は，一日の中で，ひとりでいるための一定の時間を必要とする。それは，次の三つの目的のためである。すなわち，(1) 聖書をひとりで読み，黙想すること，(2) 祈ること，(3) とりなしのためである。これら三つのことは皆，キリスト者の日ごとの静想の時間 (Meditationszeit) に見出されねばならない。この〈静想〉という言葉には，何も特別な意味はないのである[237]。静想は別に教会という建物の中でなくてもできる。

ところが，ボンヘッファーは，「神の前で，神と共に，僕たちは神なしに生きる」Vor und mit Gott leben wir ohne Gott. と言い放った[238]。1945 年 4 月 9 日，ボンヘッファーは，ヒトラー[1889-1945]の暗殺計画に加担した容疑でナチスによりフロッセンビュルク (Flossenbürg チェコとの国境沿い) 強制収容所で処刑された。ウクライナのキリスト者であり，テロリストの動機と同じではないだろうか。どんな場合も，「汝，殺すなかれ」לֹא תִרְצָח ロー　ティルツァクフ＜ラツァ ratsach のパル未完了形)(出エジプト 20:13)を講壇から語っていた。基層宗教，伝統宗教，普遍宗教に共通する原則であるはずなのに，牧師であったボンヘッファーは「殺す人」(ホモ・ネカーンス)になったのか。

テロリストと聞けば，イスラーム教と結びつける日本人が多い。しかし，英語で考えると，kamikaze(かみかぜ)である。人間魚雷，特攻隊，一億総玉砕の戦前・戦時下の日本人の行為を世界の人たちは彷彿する。

ボンヘッファーは，静想していく中で，エクスーシアからの下知，命令，組織に従ったのではなく，キリスト者と一体になった。神は「見捨てたもう」と。「三時にイエスは大声で叫ばれた。『エロイ，エロイ，レマ，サバクタニ。』これは，『わが神，わが神，なぜ私をお見捨てになったのですか』という意味である」(マルコ 15:34)。神は不在ではない。キリストの十字架刑は，イエスは神による遺棄の旧約の予表であった。「わが神，わが神なぜ私をお見捨て(עָזַב アザーブ *azab*)[239]になったのか。私の悲嘆の言葉は救い(יְשׁוּעָה ヤシャア *yshuwah*)[240]から遠い」(詩編 22:2)。

ボンヘッファーは自己を「悲宗教的キリスト教」を主張するように導いた。神なき世界の中に生きるということは，宗教者にとっては，「神仏の苦難に参与する」ということを意味する[241]。一方，ウクライナのテロリストは，十字架を掲げて，多くを巻き添えにして，死んだら天国に行けると思っている。

神なしに生きる，とは伝道，布教，回心者を積極的に生産する宗教者とは一線を画している。また宗教多元主義に基づいて，どんな崇拝行為も是認し，連帯する姿勢ではない。一匹狼のように，全世界を敵にするだけでなく，神仏に「アッバ父」，「南無阿弥陀仏」と合掌できない見放された者になることだ。自己が神に対する時は死である。「無」となって逆対応的に神に触れるのだろうか。

ボンヘッファー，ティク・クアン・ドックは，自暴自棄になって敵軍にむかっていったのではない。彼らのはたらき，ある意味では，弟子，群衆，人々に説いてきた宗教を否定。無宗教の決意であった。まさに目からうろこである。

---

[236]『ボンヘッファー選集 VI』(ボンヘッファー 倉松功・森平太訳 新教出版社 1968 年 336 頁)。
[237]『ボンヘッファー選集VI 告白教会と世界教会』(ボンヘッファー 森野善右衛門訳 新教出版社 1968 年 336 頁)。
[238]『ボンヘッファー選集 V 抵抗と信従』(1964 年 251-253 頁)。
[239]アザーブ　OT に 82 箇所　Pal なら「助ける」だが，Niph.だと「助かる，助けられる」の意。「わが神，主よ，私は御もとに逃れました。迫り来るすべての者から私を救い(ヤシャア)助け出し(ナーツァル)てください」(詩編 7:2)。ヤシャアを『新改訳』，『口語訳』は「救う」，『新同訳』は「助ける」　双方とも，Hif. ヒフィル形(主に使役的な意味を表す)「ナーツァル」OT に 216 回　Hiph. snatch away deliver 救う，救われる，取り戻す(「ニツアル」は，Piel 形の発音)。
[240]ヤシャア　OT に 205 回　Niph. be liberated saved from external evils by God　Niph. ニファル形(受動的，再帰的な意味を表す語形)。
[241] Dietrich Bonhoeffer, *resistance et soumission* (Geneva, Imprimerie Atar, 1963　p.166。

目からうろこ

「すると，たちまち目からうろこのようなものが落ち，サウロは元どおり見えるようになった。そで，身を起こして洗礼(バプテスマ)を受け」(使徒 9:18)。トビト書の「目の縁から白い膜をはがす」は医療行為ではない。一方，使徒行伝でパウロが経験した「目からうろこのようなものが落ち」たことは，当時角膜に沈殿した膜を除去する医師は成功するとは限らなかった[242]。医師ルカは失明の原因である白い鱗が外れたと記録している。トビ 11:12-13 彼は両手を使って父の目の縁から白い膜をはがした。トビトはトビアの首に抱きつき(「トビト書 11:12-13)。奇跡的な治癒として解釈されもしてきた[243]。ちなみに，トビト書は，旧約の外典である。

λεπίς, -ίδος, ἡ（<λέπω 外皮を剥ぐ） ヘブライ語 קַשְׂקֶשֶׂת カスケセス *qasqeseth* うろこ(鱗)

(鱗のようなもの)ではなく，「鱗(うろこ)」(エゼキエル 29:4)。

c. 霊性は単なる静的概念ではなく，はたらきである

「ティク・クアン・ドック師が身を捧げたのは，平和を望んで殺戮を止めたかったからです。私たち(仏教徒)は，(メディアを持たず)爆撃や怒り，恐怖の中で声を失っていました。だから生きながら自らの身を燃やしてメッセージを伝えるしかなかったのです。暴力的な行為ではなく，私たちは板挟みになりながら，戦いを望んではいなかったのです，と。これは自殺ではない。慈悲のメッセージである。湧き上がる怒りを静めるため，ひたすら歩く瞑想を続けました。時はベトナム戦争の最中，社会主義化を進める北とアメリカの強力な援助を受ける南とに国内は分裂，祖国は焼き尽くされていきました。ティク・ナット・ハンは，苦しむ人たちを救いたいと命の危険を冒して立ち上がります。若者たちと共に社会活動を担う団体を設立しました。爆撃を受けた村の再建や孤児の世話，学校作りなどを手掛けます。村人たちの自立を目指すためでした。賛同した若者は一万人にもなりました。しかし村を再建してもまた破壊されました。ティク・ナット・ハンは怒りに身を任せず，今こそ仏教の力で社会変革していこうと奮い立ちます。

被災地でわたしたちが体験したはたらきも霊性に基づいた。

2015 年 5 月，第 1 次ネパール・災害ボランティア訪問。現地のテレビ・リポーターが一番被災のひどい場所へ連れて行った。傾聴ボランティアにニュース性があったようだ。カトマンズ市ダルマスタディだった。現在，「カヨコ・チルドレン・ホーム」が建っており，5 人の孤児が共同生活をしている。当初，ダルマスタディの名前について，日本人になじみが深い達磨さんの出身地，もしくはゆかりの地と思っていた。タイは，ダルマ[244]について述べる。「釈尊入滅のとき，まわりをとり巻く多くの弟子たちは嘆き悲しんだ。釈尊は言った。

私の肉体はまもなくこの『地より消えてゆくが，私の教えの身，法身(ほっしん)[245](ダルマカーヤ)はいつもおまえたちとともにあるであろう。教え(ダルマ)に帰依して，みずからをダルマの島とせよ』[246]」，と言い残して入滅[247]した。キリストの道に従う私たちとの関係性についての可能性を見出すではないか。タイは「最も大切なものは私のこの肉体ではない。もしもおまえがダルマの身をみずからの内に持ちつづけたら，ダルマを堅く信じるならば，私はいつもおまえとともにいる」，と。キリストも「私は世の終わりまで，いつもあなたがたと共にいる」と語った(マタイ 28:20)。釈尊とキリストは符合している。佛教の「法」(教え)とキリストはいつも臨在している。

---

[242] "Theological Dictionary of the New Testament" (TDNT)I V Gerhard Kittel Eerdmans Publishing Company p.232。
[243]『トビア書註解』(ラルボレット 守屋興雄訳 カトリック思想・科學研究所 1932 年 65-67 頁)。
[244]「ダルマ」法のこと。『中村大辞典』下巻(1494 頁)。「法」教え，善，徳の意もある。
[245]「法身」本体としての身体 『中村大辞典』(下巻 1536 頁)。
[246]『生けるブッダ，生けるキリスト』(ティク・ナット・ハン 池田久代訳 春秋社 2017 年 60-61 頁)。
[247]「入滅」亡くなること，ニルヴァーナすなわち(滅度)涅槃に入ること。『中村大辞典』下巻(1657 頁)。

「普遍的理念のために，……むしろ献身と思素と行動の中で自己自身の宗教の深淵へと通ずるのであります。あらゆる生ける宗教の深淵の中には，宗教自身が自己の重要性を失う点が存在し，そして宗教が指向することによって霊的自由を創造し，かつその自由によって，生命と文化のあらゆる形態に現存している神的なものを透察するのであります。これが世界諸宗教との現在の出合いにおいてキリスト教が悟らねばならないことであります。」

独居の高齢の男性患者をお見舞いした。最後のあいさつになるかもしれないと神戸市労災病院にお礼にうかがった。すると血色良く，元気に入院生活の様子を語った。彼が言うには，毎朝，脈，体温など測定の際，女性看護士のやさしい手に触れられて，「温かい」，そうな。異性への欲情というより，「神は彼らを祝福して言われた。『産めよ，増えよ，地に満ちて』」での生殖という人類への祝福の取り決めに喚起したものがあった(創世記 1:28)。神学者鍋谷堯爾が男女間のエロースをピュアに語るのに面食らい，わたしが赤面した。

平和のためには法体系以上のものが求められる。それはかつて「合意」と呼ばれた。しかし，それはこの語の含意するような知性的なものではない。それは共同体的なエロース[248]であり，そのようなたぐいの愛は個人に向けられるのではなく，集団に向けられるのである。人は他国を愛することはできないといわれる。このことは国民国家に関しては正しいかもしれない。しかし，その他国の国民に関しては正しくない。人はその短所や欠点にもかかわらず，その個性や長所，貢献において，人々にエロースを向けることができるのである。法だけでなく利害をも踏みこえるこのエロースがなければ，世界共同体というものは実現不可能に思われる。このようなエロー スの表現はすべて平和への希望の基礎であり，それを排除すれば必ずや平和の機会を逸することになる。

＜結論＞

霊性の縁で紡がれた宗教が「自分の足で立ち，歩む」道。ユダヤ教，キリスト教，そしてイスラーム教が祝う偶像が，霊性が死んでいる現代の効率，生産性，技術至上主義である。「金の子牛」の周囲で熱狂する沸騰主義に，「完了した」イエスは，このぶどう酒を受けると，「成し遂げられた」と言い，頭を垂れて息を引き取られた(ヨハネ 19:30)。τελέω テレオー *teleo*＜Τετέλεσται テテレスタイ

「現代人は宗教者に対して何を言わんとしているのか」，という警告に身をすくめる必要はない。世の基準に合わせて，高学歴，資格，財政的基盤を整えるのではない。むしろ，「宗教者は人類に何を伝えようとしているのか」，と明瞭なラッパを吹く必要があろう。

宗教を否定するならば，人間のいのちが肯定されず，人間がもっている霊性が否定され，自由が否定されて，人間が人間でなくなってしまうのである。上位のとして，非人格的な合法性による支配，合理的につくられた制度の「権限」，義務・服従を要求する権力の担い手を抑え込むには世界的，普遍的，人権を重視する「統合的霊性」が必要である。

[248]『平和の神学 1938-1965』(パウル・ティリッヒ 芦名 定道訳 新教出版社 2003 年 270 頁)。

タイ(ティク・ナット・ハン)は，著書『生けるブッダ，生けるキリスト』で，異なる宗教間であっても共通の理解をもって，手を携えて「縁」を築いていけることを述べる。タイは恩師ティリッヒについて同書で引用する。ティリッヒが述べるように，「神はあらゆる存在の基盤」[249]であるならば，仏教において「釈尊が一切の存在の根源」として描写されているから理解は同じと言う。

大拙は，敗戦後一年もたたないうちに「日本の霊性化」についての講演をおこない，それをまとめて著した。かれは霊性のはたらき[250]の立場から，神道，国家主義，国体観念のみでなく，さらに影響力をもちつつある科学的世界観とアメリカ文化を根本的徹底的に批判した。かれはこれをもって，新日本建設の道を示そうとしたのである。これに対して敗戦後の日本のキリスト教は，好機きたりとばかりに日本のキリスト教化に邁進したが，大拙ほどの根本的な洞察から発する広範な批判をなし得なかった。霊性を内面的主観的な面にとどめて，力とはたらきとして溢れてくる霊性の霊性化に達していなかったからだろう。

倫理学者の金子晴勇[はるお 1932-]は，法然や親鸞の浄土思想にはルターの信仰論と相通じる内容が豊かに備わっているから，仏教とキリスト教の対立点よりも共通点を強調することによって，キリスト教の積極的意義を立証することができたはずであると，言う[251]。西暦一世紀の初代教会のキリスト教徒がプラトン思想を媒介にして自説を展開したような広い視野があったならば，迫害もある程度は避けられたのではないかと思われる。この時代に展開したキリスト教の受容が継続的になされていたならば，東西の霊性思想ももっと豊かに発展していたのではなかろうか。きわめて惜しまれる事態である。

現実の世界とは如何なるものであるか。現実の世界とは我々に対して立つのみならず，我々が之に於て働き之に於て死にゆく世界でなければならない。従来，主知主義の立場を脱することのできなかった哲学は所謂対象界といふ如きものを実在界と考へた。それは我々の外に見る世界に過ぎなかった。之に対しては我々は単に見るものに過ぎなかった。併し真の現実の世界は我々を包む世界でなければならない，我々が之に於て働く世界でなければならない，行動の世界でなければならない[252]。

---

[249]『組織神学第 1 巻』(ティリッヒ 谷口美智雄訳 1990 年 302 頁)。

[250] 本稿 註 121 参照。

[251]『東西の霊性思想』(金子晴勇 ヨベル 2021 年 150 頁)。

[252]『西田幾多郎全集』〈第 17 巻〉岩波書店 2005 年 217 頁)。